

取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

LAND CRUISER PRADO



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万ーの場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	24
安全なドライブのために	26
シートベルト	28
SRS エアバッグ	32
お子さまの安全のために	41
子供専用シート	42
チャイルドシートの 取り付け	51
排気ガスに対する注意	60
1-2. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー システム	61
オートアラーム	62

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	66
計器類	72
マルチインフォメーション ディスプレイ	75
燃費画面／ ESPO 画面	87

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	92
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	96
バックドア	104
バックドアガラス	109
スマートエントリー& スタートシステム	114
3-3. シートの調整	
フロントシート	122
リヤシート	124
ポジションメモリー/ メモリーコール機能	136
ヘッドレスト	139
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	142
インナーミラー	145
ドアミラー	147
補助確認装置	150
3-5. ドアガラス・ ムーンルーフの開閉	
パワーウィンドウ	152
ムーンルーフ	156

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	162
荷物を積むときの注意	173

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	175
オートマチック トランスミッション	181
方向指示レバー	187
パーキングブレーキ	188
排出ガス浄化装置 （ディーゼル車）	189

4-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	193
オートマチックハイビーム	196
フォグランプスイッチ	201
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	203
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	208
ヘッドランプクリーナー	210

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	211
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense P... 215	
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	221
LDA（レーンディパーチャー アラート）	231
レーダークルーズ コントロール	240
ドライブモード セレクトスイッチ	252
クリアランスソナー	254
運転を補助する装置	264
BSM（ブラインド スポットモニター）	270

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	276
--------------	-----

1

2

3

4

5

6

7

8

5 室内装備・機能

5-1. エアコン・デフォグガーの使い方

オートエアコン	282
シートヒーター & ベンチレーター	288

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	290
・フロント	
・パーソナルランプ	291
・ルームランプ	292
・読書灯	292
・ラウンジ照明調光スイッチ	293

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	295
・グローブボックス	296
・コンソールボックス	297
・カップホルダー／ ボトルホルダー／ ドアポケット	299
・小物入れ	302
・オープントレイ	303
・カードホルダー	304
ラゲージルーム内装備	305

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	309
・クールボックス	309
・サンバイザー	311
・バニティミラー	311
・後席確認ミラー	312
・時計	313
・アクセサリーソケット・ アクセサリーコンセント	314
・アームレスト (セカンドシート)	317
・コートフック	317
・アシストグリップ	318

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	320
内装の手入れ	324
タイヤについて	327
タイヤ空気圧について	337

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	339
エンジンルームカバー	341
AdBlue® (尿素水) の補充 (ディーゼル車)	343
エアコンフィルターの 交換	347
ウォッシュ液の補給	349
キーの電池交換	351
ヒューズの点検・交換	354
電球 (バルブ) の交換	357

7 万 one の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	368
非常点滅灯 (ハザードランプ)	369
発炎筒	370
車両を緊急停止するには	372

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	373
フューエルポンプ シャットオフシステム	379
警告灯がついたときは	380
警告メッセージが 表示されたときは	387
パンクしたときは	392
エンジンがかからない ときは	408
電子キーが正常に 働かないときは	410
バッテリーが あがったときは	412
オーバーヒートした ときは	417
スタックしたときは	421

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・オイル量 など)	424
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	431
--------------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	441
------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	444
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	448
アルファベット順さくいん	450
五十音順さくいん	452

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客様は、次の装備については「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- ・GPS ボイスナビゲーション
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・音声操作システム
- ・バックガイドモニター
- ・ETC システム
- ・ハンズフリー
- ・T-Connect

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

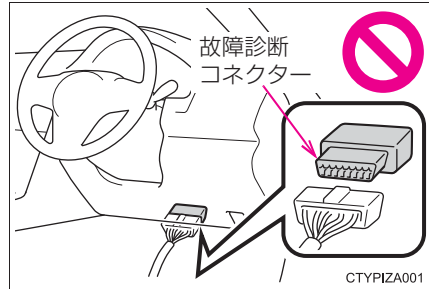
不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適合しない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDRデータの情報開示

次の場合を除き、トヨタはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- Toyota Safety Sense P
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



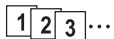
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

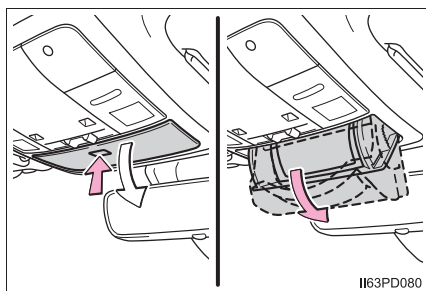
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

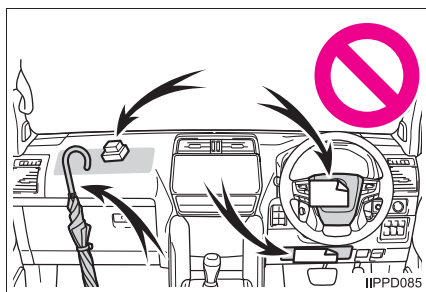
➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



I163PD080

➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



I1PPD085



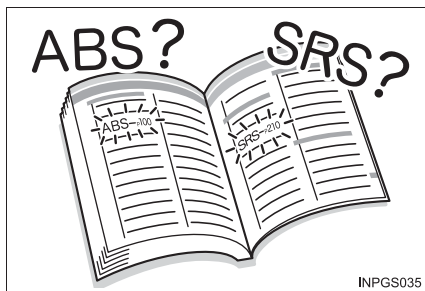
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

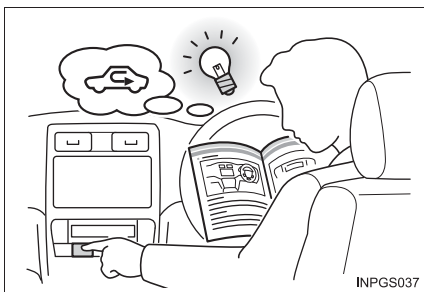
- ・ 五十音順さくいん452
- ・ アルファベット順
さくいん450



INPGS035

■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



INPGS037

■ 症状や音から探す

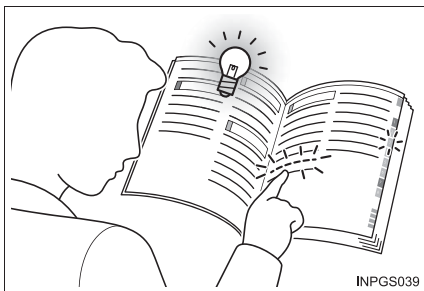
- ・ こんなときは
(症状別さくいん)444
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)448



INPGS038

■ タイトルから探す

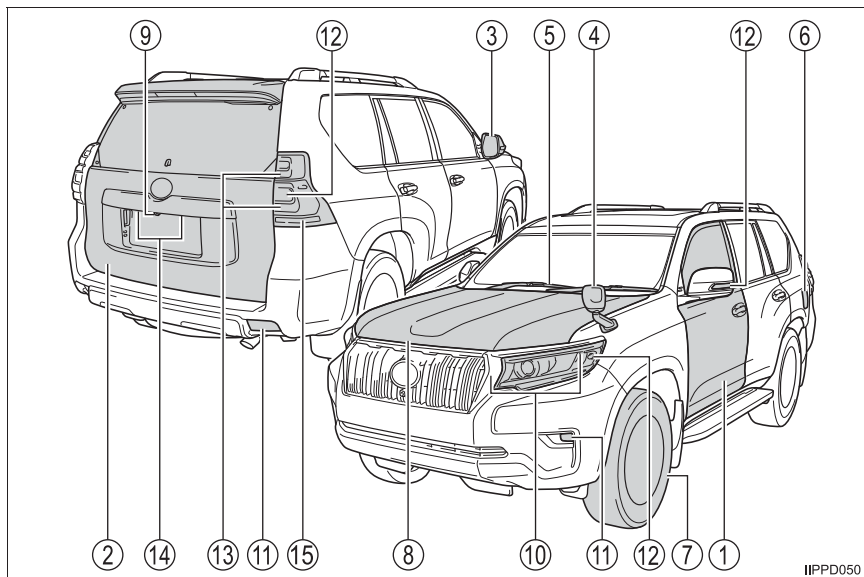
- ・ 目次2



INPGS039

イラスト目次

■ 外観



IIPPD050

- ① ドアP. 96
 - 施錠／解錠P. 96
 - ドアガラスの開閉P. 152
 - メカニカルキーでの施錠／解錠P. 410
 - 警告灯・警告メッセージP. 382, 387
- ② バックドアP. 104
 - 車外から開けるP. 105
 - バックドアガラスP. 109
 - 警告灯・警告メッセージP. 382, 387
- ③ ドアミラーP. 147
 - 鏡面の角度調整P. 147
 - ミラーの格納P. 147
 - 曇りを取る (ミラーヒーター)P. 283
- ④ 補助確認装置★P. 150

- ⑤ **ワイパー**.....P. 203
 - 冬季の注意.....P. 276
 - 凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★.....P. 284
 - 洗車時の注意.....P. 322
- ⑥ **給油口**.....P. 211
 - 給油方法.....P. 211
 - 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 424
- ⑦ **タイヤ**.....P. 327
 - サイズ・空気圧.....P. 429
 - 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 276
 - 点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム.....P. 327
 - パンク時の対処.....P. 392
- ⑧ **ボンネット**.....P. 339
 - 開け方.....P. 339
 - エンジンオイル.....P. 424
 - オーバーヒート時の対処.....P. 417
- ⑨ **カメラ★※¹**

走行に関わる外装のランプバルブ (交換要領：P. 357, ワット数：P. 430)

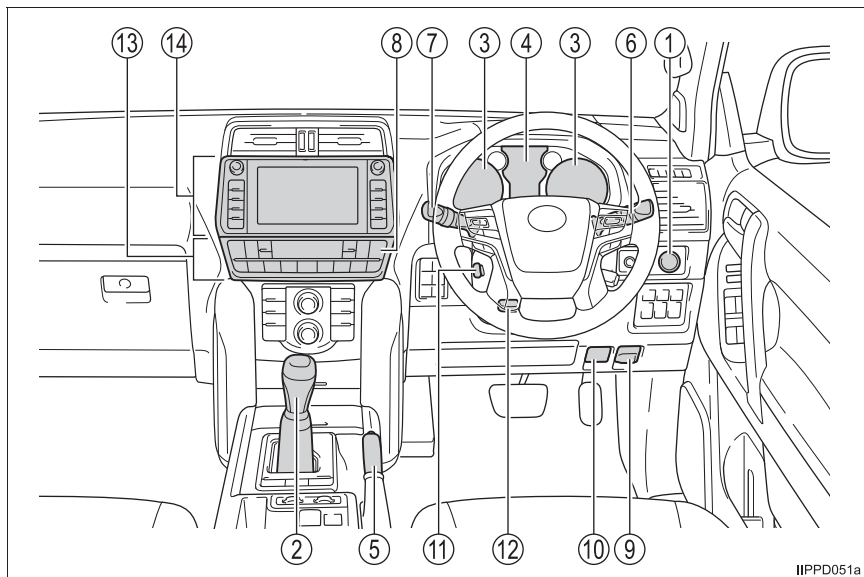
- ⑩ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト**.....P. 193
- ⑪ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★**.....P. 201
- ⑫ **方向指示灯**.....P. 187
- ⑬ **制動灯／尾灯**.....P. 193
 - 坂道などでの発進補助★※²
- ⑭ **番号灯**.....P. 193
- ⑮ **後退灯**
 - シフトポジションを R にする.....P. 181

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※²：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■ インストルメントパネル



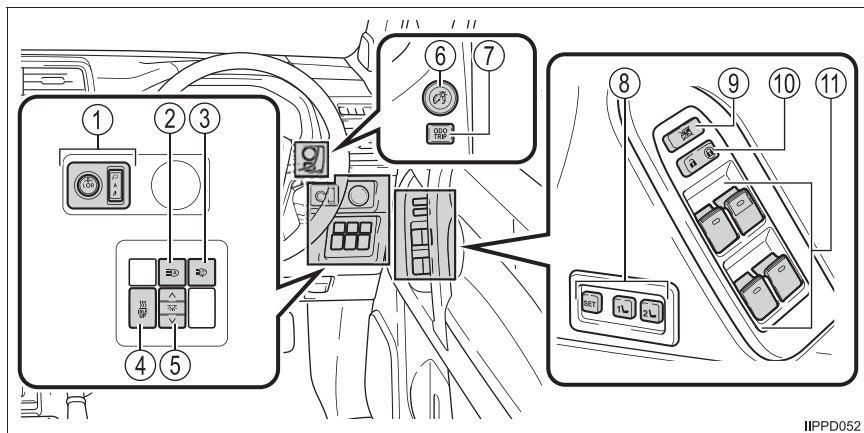
IIPD051a

- ① **エンジンスイッチ**P. 175
 エンジンの始動・モード切りかえP. 175
 エンジンの緊急停止P. 372
 エンジンが始動できないときの対処P. 408
 警告メッセージP. 387
- ② **シフトレバー**P. 181
 シフトポジションの切りかえP. 181
 けん引時の注意P. 373
 シフトレバーが動かないときの対処P. 185
- ③ **メーター**P. 72
 見方・明るさの調整P. 72
 警告灯／表示灯P. 66
 警告灯点灯時の対処P. 380

- ④ マルチインフォメーションディスプレイP. 75
 - 表示内容 P. 75
 - 警告メッセージ表示時の対処 P. 387
- ⑤ パーキングブレーキP. 188
 - かける・解除する P. 188
 - 冬季の注意 P. 277
 - 警告ブザー・警告メッセージ P. 75, 383
- ⑥ 方向指示レバーP. 187
 - ランプスイッチP. 193
 - ヘッドランプ・LED デイライト・車幅灯・尾灯 P. 193
 - フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★ P. 201
- ⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチP. 203
 - 使い方 P. 203
 - ウォッシャー液の補充 P. 349
- ⑧ 非常点滅灯スイッチP. 369
- ⑨ 給油口オープナーP. 211
- ⑩ ボンネット解除レバーP. 339
- ⑪ ハンドル位置調整スイッチ★P. 142
 - 調整方法 P. 142
 - 調整位置の登録 P. 136
- ⑫ ハンドル位置調整レバー★P. 142
- ⑬ オートエアコンP. 282
 - 操作方法 P. 282
 - リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）... P. 283
- ⑭ オーディオ ※
 - 音楽を聴く ※
 - 電話をかける・受ける（ハンズフリー） ※

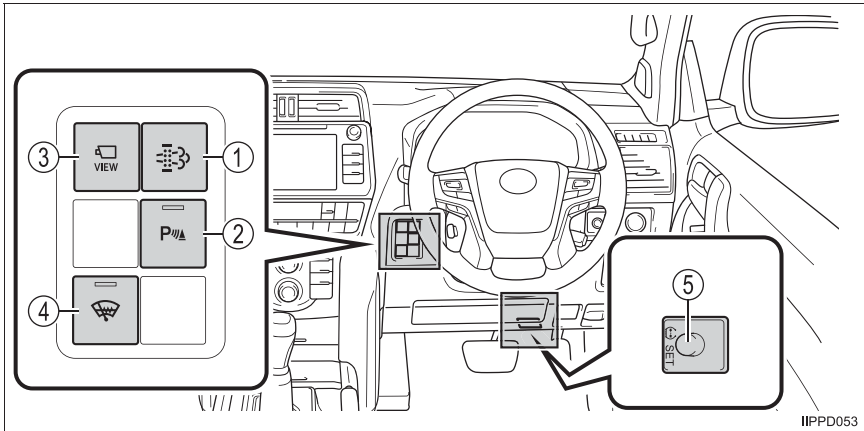
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
 ※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ スイッチ類



IIPPD052

- ① ドアミラースイッチP. 147
- ② オートマチックハイビームスイッチ.....P. 196
- ③ ヘッドランプクリーナースイッチP. 210
- ④ ヒーターアイドルアップスイッチ★P. 284
- ⑤ ラウンジ照明調光スイッチ★P. 293
- ⑥ メーター照度調整ダイヤル P. 73
- ⑦ オドメーター／トリップメーター切りかえボタン P. 73
- ⑧ ポジションメモリーボタン★P. 136
- ⑨ ウィンドウロックスイッチP. 152
- ⑩ ドアロックスイッチ P. 98
- ⑪ パワーウィンドウスイッチP. 152

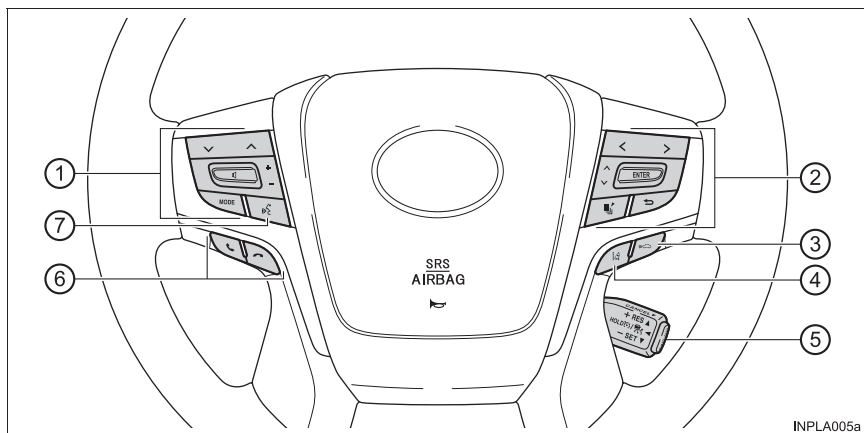


IIPPD053

- ① 排出ガス浄化スイッチ.....P. 189
- ② クリアランスソナースイッチ★P. 254
- ③ カメラスイッチ★ ※
- ④ フロントワイパーデアイサースイッチ★.....P. 284
- ⑤ タイヤ空気圧警報リセットスイッチ★P. 328

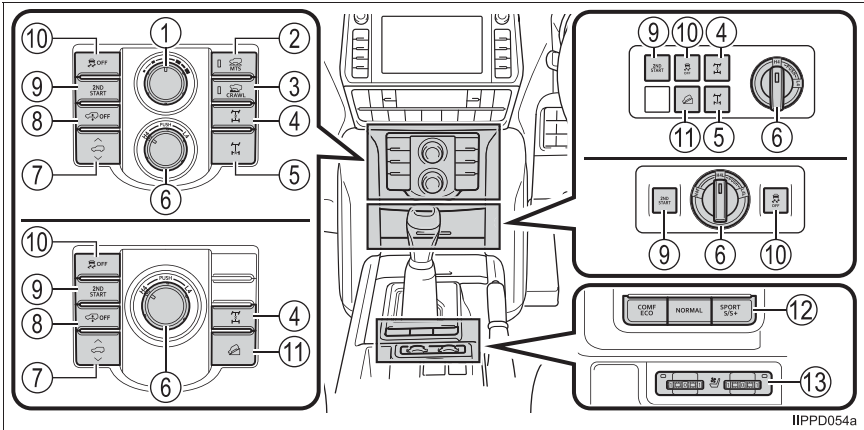
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。



INPLA005a

- ① オーディオ操作スイッチ★※1
- ② メーター操作スイッチ.....P. 76
- ③ 車間距離切りかえスイッチP. 240
- ④ LDA (レーンディパーチャーアラート) スイッチP. 231
- ⑤ クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール.....P. 240
- ⑥ 電話スイッチ★※1
- ⑦ トークスイッチ★※1



IIPD054a

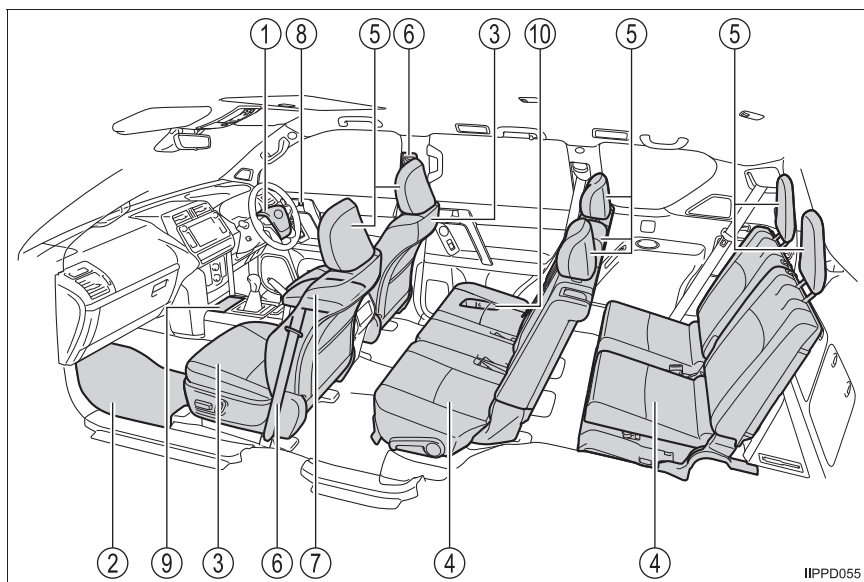
- ① マルチトレインセレクトモードセレクトダイヤル★※2
クルールコントロール速度切り替えダイヤル★※2
- ② マルチトレインセレクト ON / OFF スイッチ★※2
- ③ クルールコントロール ON / OFF スイッチ★※2
- ④ センターデフロックスイッチ★※2
- ⑤ リヤデフロックスイッチ★※2
- ⑥ トランスファースイッチ ※2
- ⑦ 車高切りかえスイッチ★※2
- ⑧ 車高制御 OFF スイッチ★※2
- ⑨ セカンドスタートモードスイッチP. 182
- ⑩ VSC OFF スイッチP. 266
- ⑪ DAC スイッチ★※2
- ⑫ ドライブモードセレクトスイッチ★P. 252
- ⑬ シートヒータースイッチ★P. 288

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

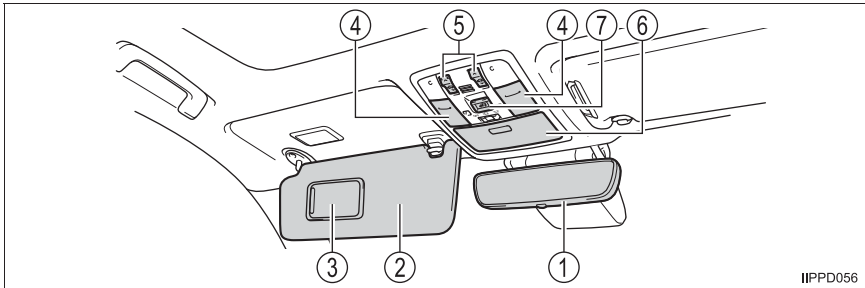
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■ 室内



IIPPD055

- | | | |
|-------------|-------|--------|
| ① SRSエアバッグ | | P. 32 |
| ② フロアマット | | P. 24 |
| ③ フロントシート | | P. 122 |
| ④ リヤシート | | P. 124 |
| ⑤ ヘッドレスト | | P. 139 |
| ⑥ シートベルト | | P. 28 |
| ⑦ コンソールボックス | | P. 297 |
| クールボックス | | P. 309 |
| ⑧ ロックレバー | | P. 98 |
| ⑨ カップホルダー | | P. 299 |
| ⑩ ボトルホルダー | | P. 300 |



IIPPD056

- ① インナーミラーP. 145
- ② サンバイザー ※¹P. 311
- ③ バニティミラーP. 311
- ④ フロントパーソナルランプP. 291
- ⑤ ムーンルーフスイッチ★P. 156
- ⑥ 後席確認ミラーP. 312
 オーバーヘッドコンソールボックスP. 302
- ⑦ ヘルプネットスイッチパネル★ ※²

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 (→ P. 58)



※²：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に.....	24
安全なドライブのために	26
シートベルト.....	28
SRS エアバッグ.....	32
お子さまの安全のために	41
子供専用シート.....	42
チャイルドシートの 取り付け.....	51
排気ガスに対する注意	60
1-2. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー システム.....	61
オートアラーム.....	62

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

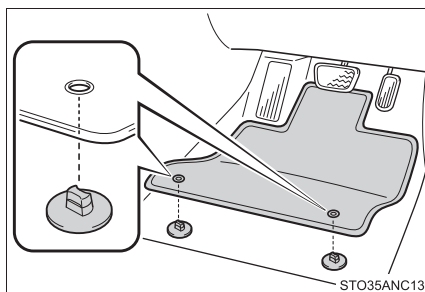
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

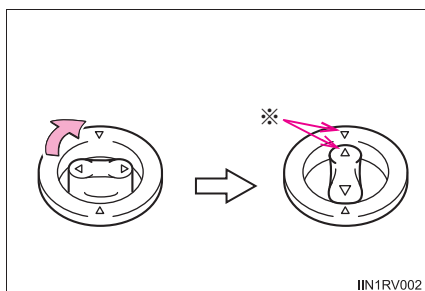
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

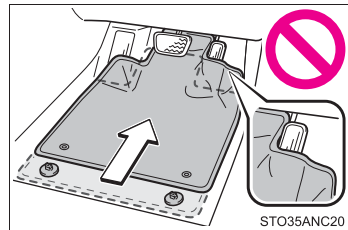
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

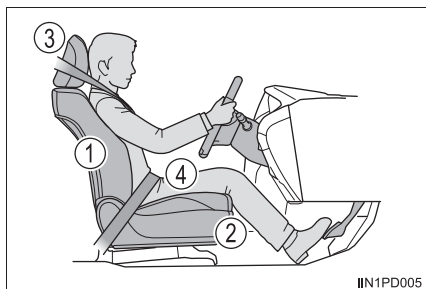


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する (→ P. 122)
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする (→ P. 122)
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする (→ P. 139)
- ④ シートベルトを正しく着用する (→ P. 28)



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→ P. 28)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 42)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→ P. 145, 147)

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

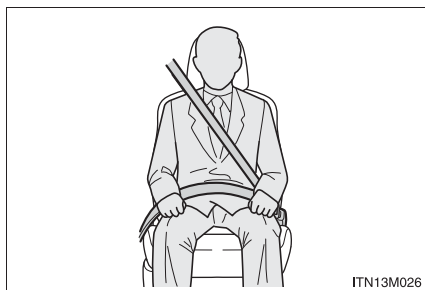
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

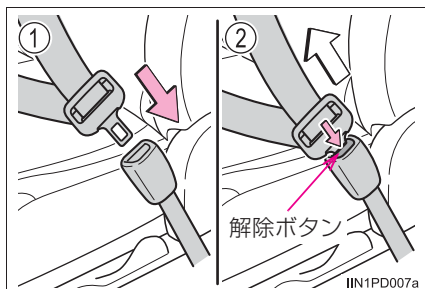
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



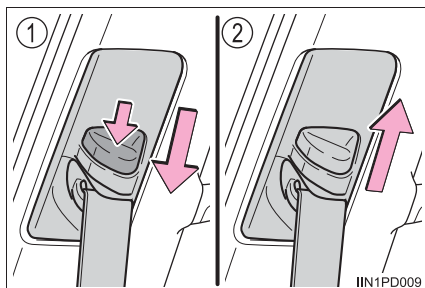
着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレート（バックル）に挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトの高さ調節（フロント席・セカンドシート外側席）

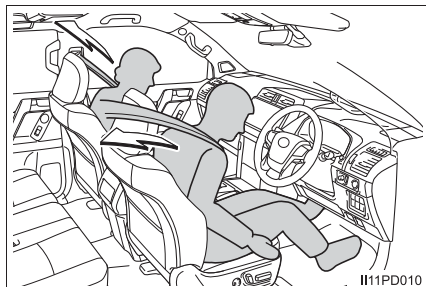
- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 42）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

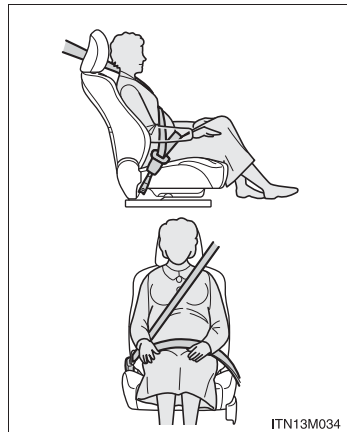
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシート（7人乗り車のみ）に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- サードシート（7人乗り車のみ）のシートベルトを使用するときは、シートベルトがシートベルトハンガー（→ P. 128）にかかっていないことを確認する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 28）

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

 **警告****■ お子さまを乗せるときは**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

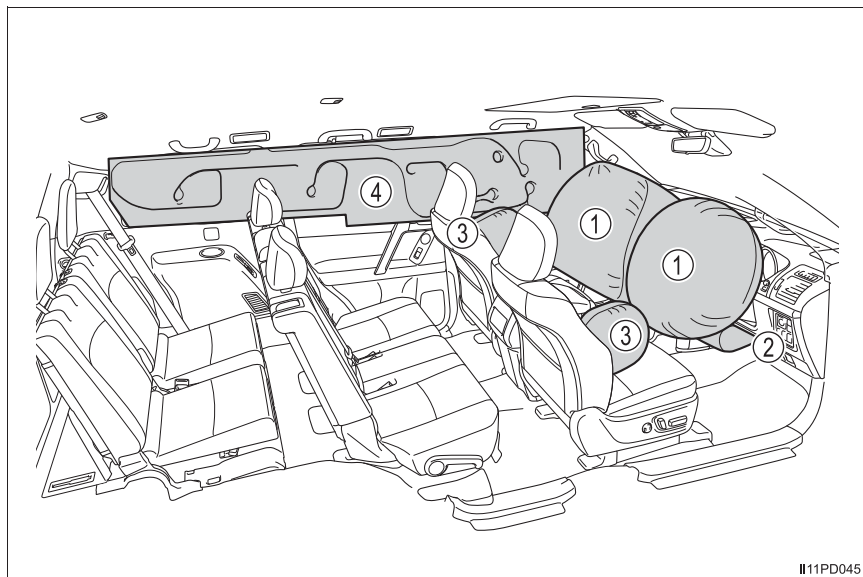
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ② SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

◆ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

- ③ SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ④ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロントシート・セカンドシート外側席、サードシート ※ 乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

※ 7人乗り車のみ

警告

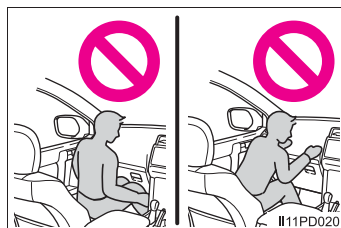
■ SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。

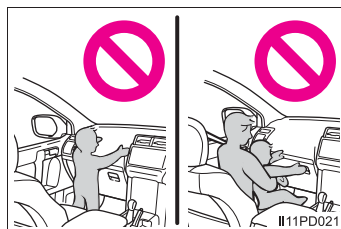
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはセカンドシートまたはサードシート（7 人乗り車のみ）に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 51）

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



警告**■ SRS エアバッグについて**

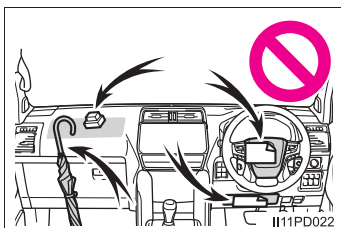
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



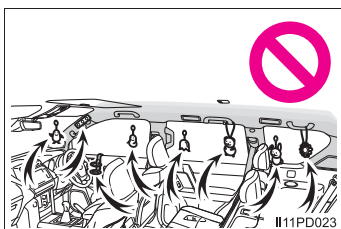
- 助手席やセカンドシート外側席・サードシート（7人乗り車のみ）では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



 **警告****■ SRS エアバッグについて**

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部・センターピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

 **警告****■改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CDプレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが展開すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロントシート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール的一部分などだけでなく、エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
 - ・ SRS エアバッグが作動した
 - ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
 - ・ 後方から強い衝撃を受けた

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

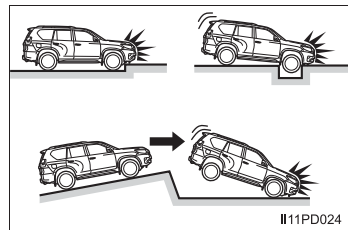
■ SRS エアバッグが作動するとき (SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

- SRS サイドエアバッグ&SRSカーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイドエアバッグ&SRSカーテンシールドエアバッグが作動します。

■ 衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイドエアバッグ&SRSカーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

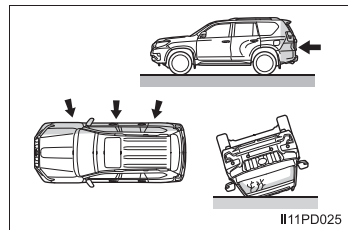
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

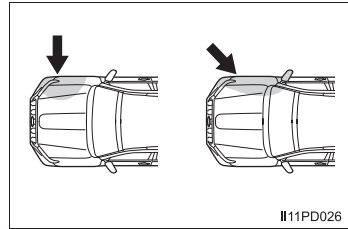
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ)

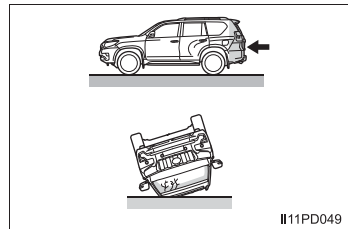
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

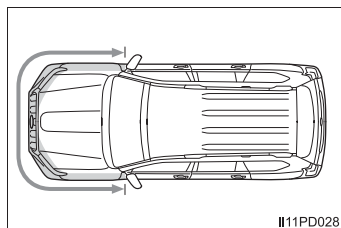
- 後方からの衝突
- 横転



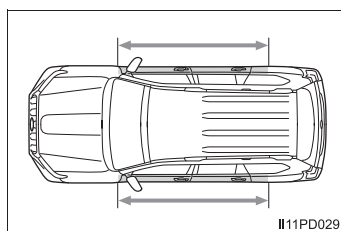
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

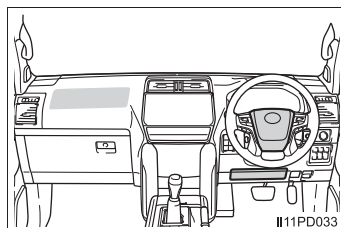
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



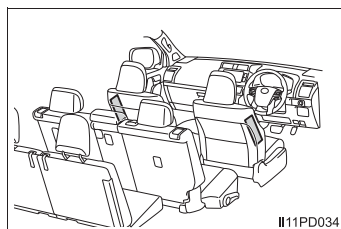
- SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



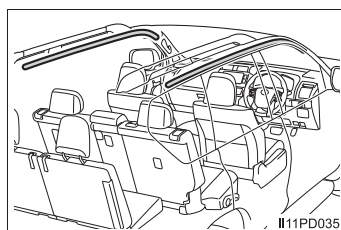
- ハンドルのパッド部分・助手席 SRS エアバッグのカバー部・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 42)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 99)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 152) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 51)

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44[※] の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0	: 10kg まで
グループ0+	: 13kg まで
グループI	: 9 ~ 18kg
グループII	: 15 ~ 25kg
グループIII	: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

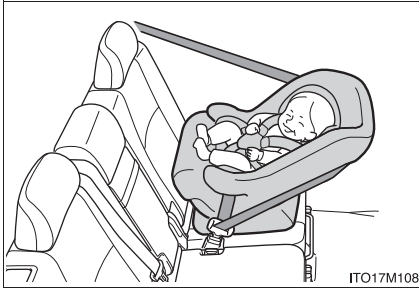
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにとまなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

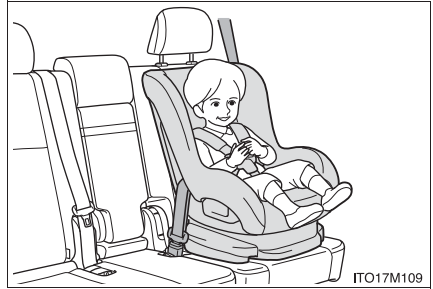
▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0+
に相当



▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0+、I
に相当



▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ II、IIIに
相当



シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）			
	フロントシート	セカンドシート		サードシート （7人乗り車 の場合）
	助手席	左右席	中央席	
0（10kg まで） （0～9ヵ月）	×	U	L1	L1
0+（13kg まで） （0～2歳）	×	U	L1	L1
I（9～18kg） （9ヵ月～4歳）	前向き UF ^{※1}	U	L1 ^{※2}	L2 ^{※3}
	うしろ向き ×			
Ⅱ, Ⅲ（15～36kg） （4～12歳）	UF ^{※1}	U	L3 ^{※2}	L3 ^{※4}

● 表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向き子供専用シートに適しています。

L1： この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正NEO G-Child baby」に適しています。

L2： この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」に適しています。

L3： この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 ジュニアシート」に適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

- ※1 背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
- ※2 子供専用シートを取り付ける際はヘッドレストを最下段位置にしてください。
- ※3 マニュアルシートに子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストを最上段位置にしてください。
- ※4 マニュアルシートに子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child baby	汎用
0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child baby	汎用
I (9 ~ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child baby	汎用
II (15 ~ 25kg)	トヨタ純正ジュニアシート	汎用
III (22 ~ 36kg)	トヨタ純正ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表 (ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート 左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
		(1)	×
O (10kg まで) (0～9ヵ月)	E	ISO/R1	IL1
		(1)	×
O+ (13kg まで) (0～2歳)	E	ISO/R1	IL1
	D	ISO/R2	IL1
	C	ISO/R3	IL1
		(1)	×
I (9～18kg) (9ヵ月～4歳)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF, IL1*
	B1	ISO/F2X	IUF, IL1*
	A	ISO/F3	IUF, IL1*
		(1)	×
II, III (15～36kg) (4～12歳)		(1)	×

● 表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示(AからG)のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのISOFIX対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1 : この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正NEO G-Child ISO leg」に適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※ ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
C	ISO/R3			
I (9 ~ 18kg)	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

 知識**■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて**

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分に大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシート（7 人乗り車のみ）に乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 44）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→ P. 46）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順**1**で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例 2）：質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL1」・「IL2」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→ P. 47）で指定されている製品を使用してください。

- ③ 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。*

* 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- ① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

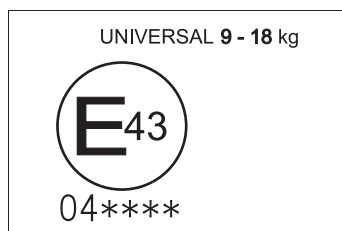
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順②で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

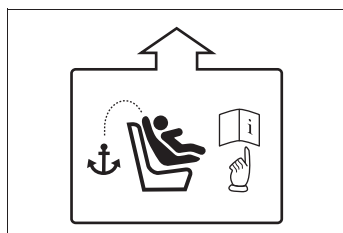


- ② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



- ③ トップテザー（→ P. 51）を示すマーク
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



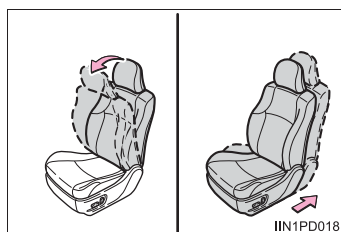
■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろにさげる



■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者、または販売業者におたずねください。

⚠ 警告

■ 子供専用シートを使用しない場合

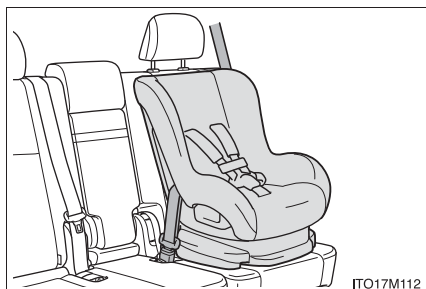
- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシート、またはサードシート（7人乗り車のみ）に取り付けてください。

取り付け方法は、必ず商品付属の取り扱い説明書に従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→ P. 52)



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 54)

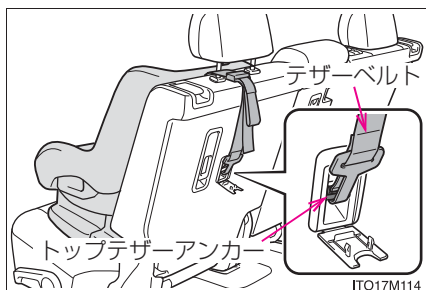
セカンドシートの外側席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



トップテザーアンカー (→ P. 56)

テザーベルトを固定するときに使います。

トップテザーアンカーはセカンドシートのそれぞれの座席に装備されています。

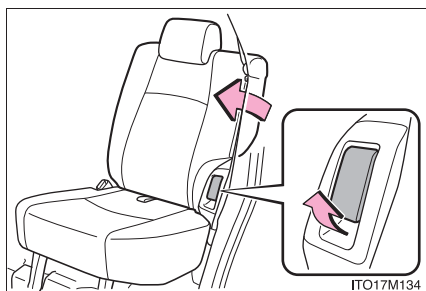


シートベルトで固定する

1 背もたれの角度を調整する

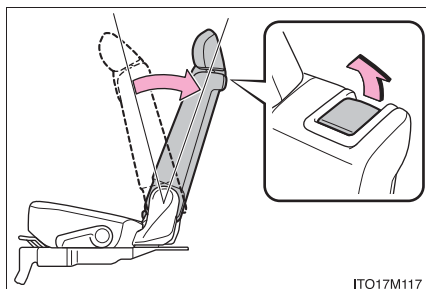
▶ セカンドシート（5人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、背もたれをいっぱいまで前に起こします。（→ P. 124）




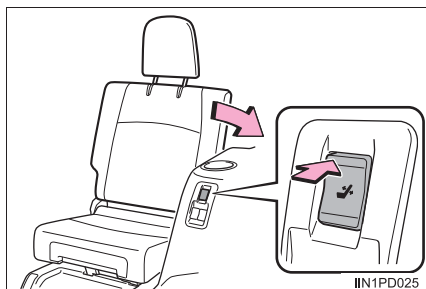
▶ セカンドシート（7人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。（→ P. 124）



▶ サードパワーシート

チャイルドシートをサードシートに取り付けるときは、の上側を押して、背もたれをいっぱいまでうしろに倒します。（→ P. 124）



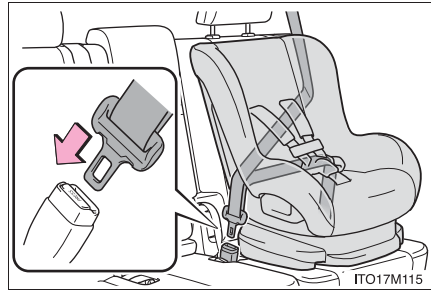
2 ヘッドレスト位置の指定の有無を確認する (→ P. 44)

チャイルドシートを取り付ける際に、ヘッドレストの操作が必要なシートの場合は、表の指示に従ってヘッドレストの位置を調整してください。

ヘッドレストの操作についてはP. 139 を参照してください。

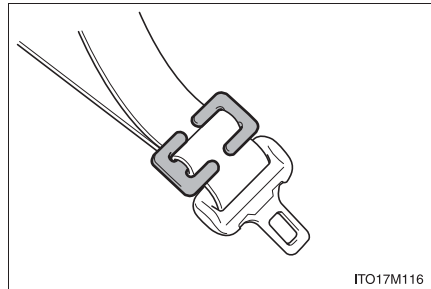
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備っていない場合は、ロックングクリップ (別売) を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。
(ロックングクリップ品番：
73119-22010)



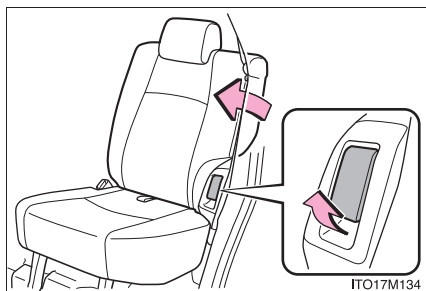
取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

1 背もたれの角度を調整する

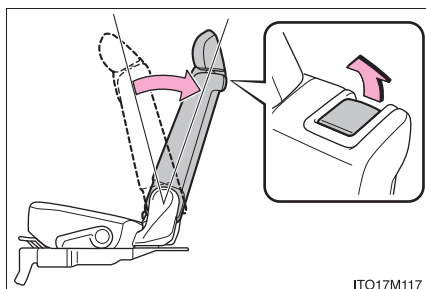
▶ セカンドシート（5人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、背もたれをいっぱいまで前に起こします。（→ P. 124）



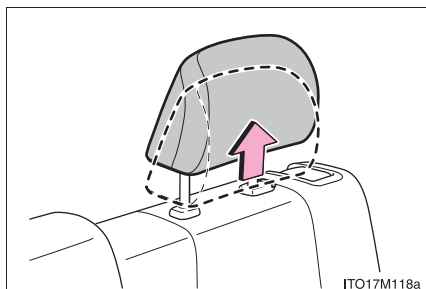
▶ セカンドシート（7人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。（→ P. 124）



2 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

図は7人乗り車で代表しています。



3 固定専用バーの位置を確認する

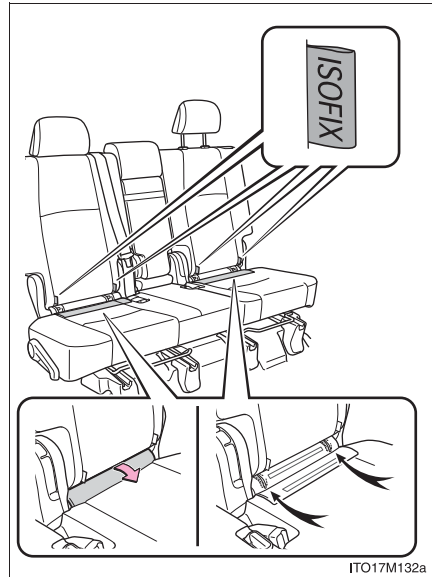
▶ 5人乗り車

固定専用バーはシートクッションの奥にあります。

▶ 7人乗り車

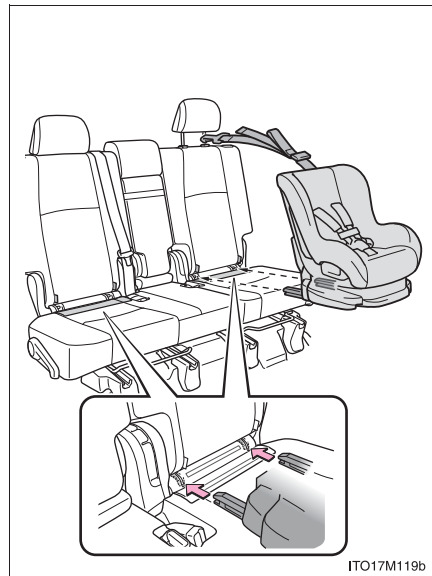
固定専用バーはカバーの下側にあります。

図は7人乗り車で代表しています。

**4** チャイルドシートをシートに取り付ける

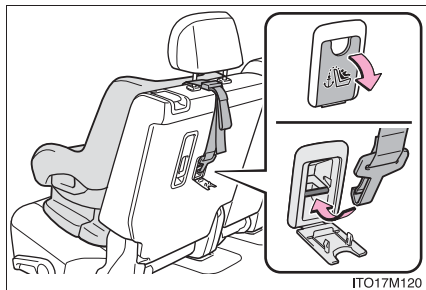
チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。

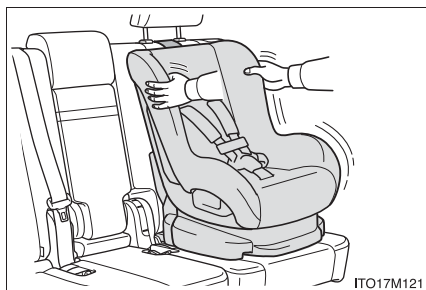


- 5 フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



- 6 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



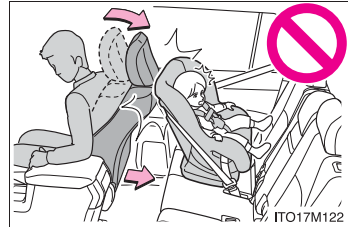
警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシート（7人乗り車のみ）に取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRSエアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



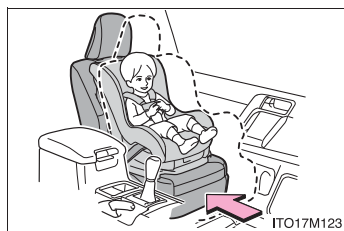
警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

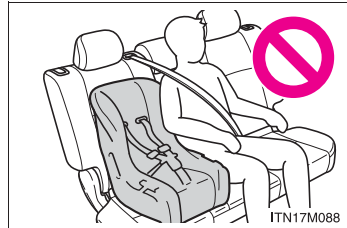


- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- セカンドシート右側席にチャイルドシートを取り付けたときはセカンドシート中央席に座らないでください。シートベルトとチャイルドシートが干渉しシートベルトが正しく着用できず、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

（ディーゼル車は、P. 192 の注意も併せて参照してください）

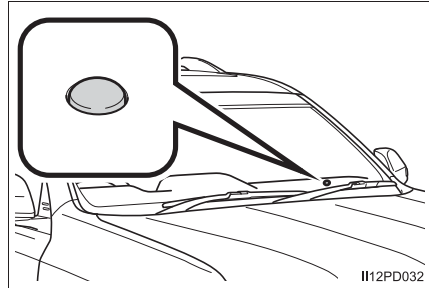
エンジンモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

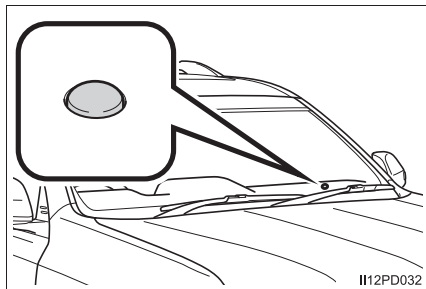
- 施錠されたドアまたはバックドアガラスが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
 - ※ T-Connect をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合、メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／サービスの使い方／マイカー Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

全ドア・ボンネット・バックドアガラスを閉め、すべてのドアを施錠 ※ します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケータは点灯から点滅にかわります。

- ※ メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームはセットされません。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

 知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

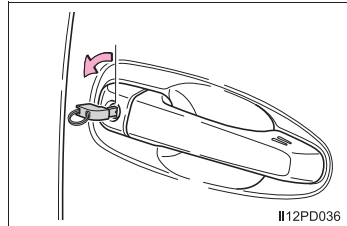
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- メカニカルキーにより、ドアを解錠したとき



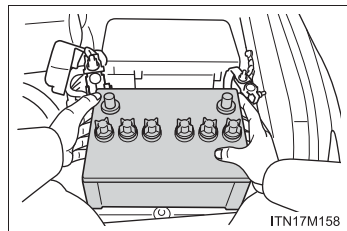
112PD036

- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



112PD035

- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき(→ P. 415)



ITN17M158

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■ カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したときのオートアラーム解除などを設定できません。(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

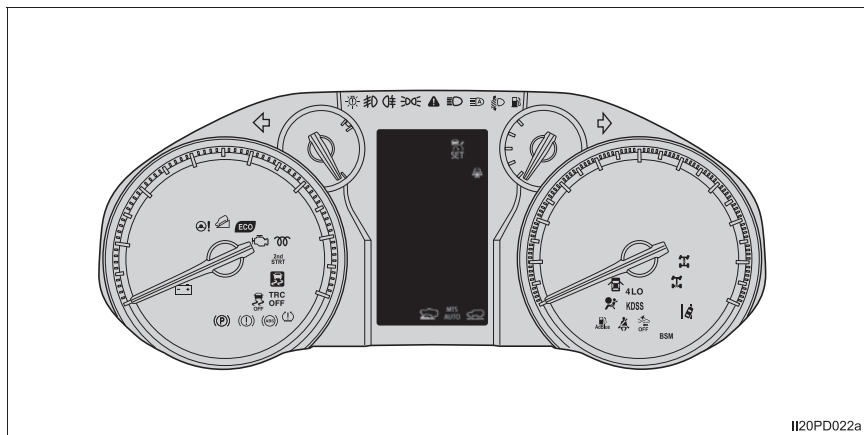
メーターの見方

2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯.....	66
計器類.....	72
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	75
燃費画面／ESPO画面.....	87

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。



II20PD022a

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 380)



マスターウォーニング
(→ P. 382)



スリップ表示灯(点灯したままの
とき)(→ P. 381)



充電警告灯
(→ P. 380)



KDSS 警告灯★
(→ P. 381)



油圧警告灯 (→ P. 380)



シートベルト非着用警告灯
(→ P. 382)



エンジン警告灯
(→ P. 380)



ヘッドランプオートレベ
リング警告灯★ (→ P. 381)



ブレーキ警告灯
(→ P. 380)



LED ヘッドランプ警告灯
(→ P. 381)



半ドア警告灯
(→ P. 382)



燃料残量警告灯
(→ P. 382)



SRS エアバッグ/プリテン
ション警告灯
(→ P. 380)



AdBlue® 残量警告灯★
(→ P. 382)



ABS & ブレーキアシスト警
告灯 (→ P. 381)



タイヤ空気圧警告灯★
(→ P. 382)



(点滅また
は点灯)

PCS 警告灯 (→ P. 382)



パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 383)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 381)



ブレーキオーバーライドシ
ステム警告灯 (→ P. 163)
／ドライブスタートコン
ロール警告灯 (→ P. 164)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※² エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、半ドア警告灯の点灯に併せて、マルチインフォメーションディスプレイ上に、半ドア警告表示が表示されます。(→ P. 389)
- ※³ マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 187)



予熱表示灯★
(→ P. 175)



ヘッドランプ
上向き表示灯 (→ P. 193)



VSC OFF 表示灯
(→ P. 266)



尾灯表示灯
(→ P. 193)



TRC OFF 表示灯
(→ P. 266)



オートマチックハイビーム
表示灯 (→ P. 196)



L4 作動表示灯



フロントフォグランブ
表示灯 (→ P. 201)



センターデフロック作動
表示灯



リヤフォグランブ表示灯★
(→ P. 202)



リヤデフロック作動
表示灯★



2nd STRT 表示灯
(→ P. 182)



エコドライブインジケーター
ランプ (→ P. 71, 84)



クルーズコントロール
表示灯 (→ P. 240)



クルールコントロール
表示灯★



車間制御モード表示灯
(→ P. 240)



マルチトレインセレクト
表示灯★



クルーズコントロールセッ
ト表示灯 (→ P. 240)



MTS AUTO インジケー
ターランプ★



スリップ表示灯
(→ P. 265)



ダウンヒルアシストコント
ロールシステム表示灯★

(点滅)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



PCS 警告灯 (→ P. 382)



エコドライブモード表示灯★
(→ P. 252)



BSM (ブラインドスポット
モニター) ドアミラーイン
ジケーター★ (→ P. 270)



スポーツ S モード表示灯★
(→ P. 252)



BSM (ブラインドスポット
モニター) 表示灯★
(→ P. 270)



コンフォートモード表示灯★
(→ P. 252)



LDA 表示灯 (→ P. 231)



スポーツモード 表示灯★
(→ P. 252)



低温表示灯 (→ P. 83)



スポーツ S+ モード
表示灯★ (→ P. 252)



スマートエントリー&
スタートシステム表示灯
(→ P. 175)

※1 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

※2 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※3 システムが OFF のときに点灯します。

※4 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

※5 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。

- ・ BSM メインスイッチが ON の状態で、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき
- ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※6 ドアミラーに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エコドライブインジケータランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。(→ P. 84)

次の場合、エコドライブインジケータは作動しません。

- シフトポジションが D 以外にあるとき
 - セカンドスタートモード (→ P. 182) を使用しているとき
 - ドライブモードセレクト装着車：スポーツモードを使用しているとき (→ P. 252)
 - 車速が約 100km/h 以上のとき
 - クローラコントロール装着車：クローラコントロールを使用しているとき ※
- ※ 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

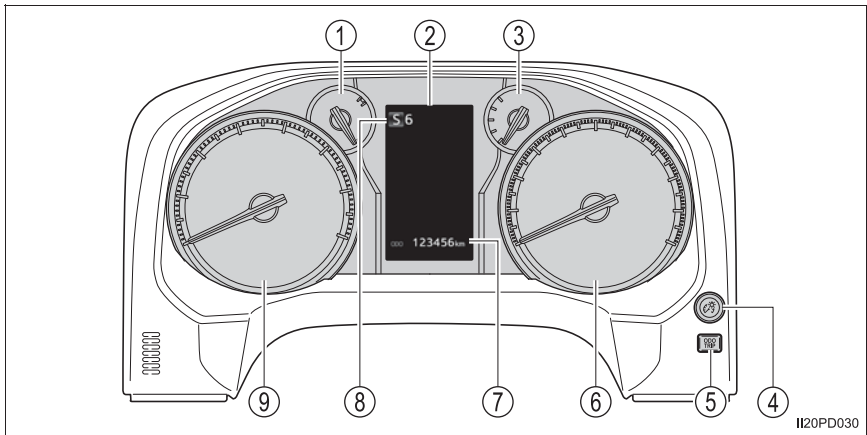


警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



① 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 75)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→ P. 387)

③ 燃料計

燃料残量を示します。

④ メーター照度調整ダイヤル

→ P. 73

⑤ オドメーター／トリップメーター切りかえボタン

→ P. 73

⑥ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑦ オドメーター・トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑧ シフトポジション・シフトレンジ表示

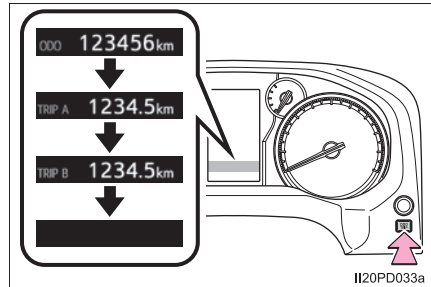
選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(→ P. 181)

⑨ タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

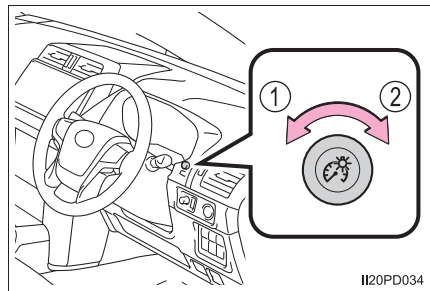
表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を0にもどします。

**メーター照度調整**

ダイヤルをまわしてメーター照明の明るさを調整できます。

- ① 暗くなる
- ② 明るくなる



 知識■ **メーター・ディスプレイの作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **メーター照度の減光制御について**

ランプスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。

ただし、メーター照度調整ダイヤルを右側いっぱいにまわした状態では、ランプスイッチが ON になってもメーター照明は減光されません。また、このときナビゲーション画面[※]は夜画表示には切りかわりません。

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

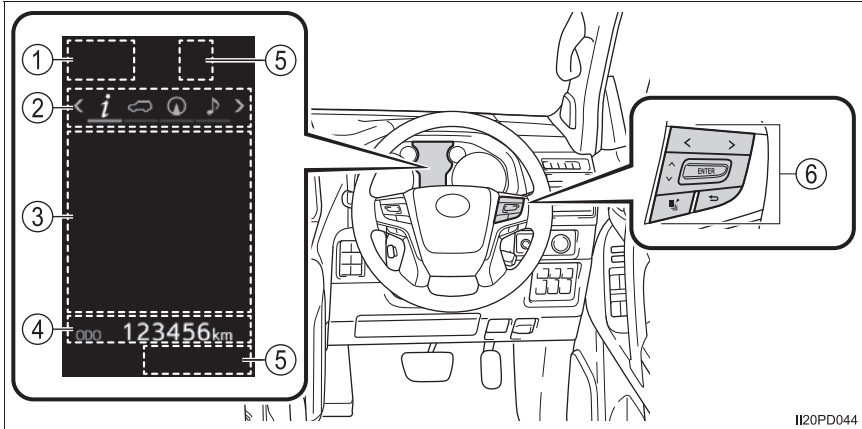
 **注意**■ **エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 417）

マルチインフォメーションディスプレイ

機能概要

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示したり、設定を切りかえることができます。



① シフトポジション表示 (→ P. 181)

② メニューアイコン表示エリア

メニューアイコンの切り替え操作をしていないときは外気温が表示されています。

- ・メニューアイコン (→ P. 76)
- ・外気温 (→ P. 83)

③ コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを切り替えることにより、さまざまな情報を表示することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

- ・各メニューの表示内容 (→ P. 76)
- ・警告メッセージ (→ P. 387)

④ オドメーター／トリップメーター表示エリア (→ P. 72)

⑤ 表示灯 (→ P. 66, 83)

⑥ メーター操作スイッチ (→ P. 76)

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① メニューの切りかえ
- ② 上下に操作：
画面の切りかえ・カーソルの移動
押す：
決定・次画面へ移動※・機能のON/OFF

※ 一部の機能のみ

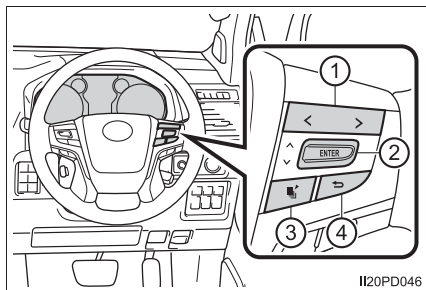
- ③ 短押し：
スイッチに登録した画面を表示する

未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

長押し：
表示中の画面をスイッチに登録する

登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。

- ④ ひとつ前の画面にもどる



メニューアイコン



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 78)



車両情報

車両に関する情報を表示します。(→ P. 80)



ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して、方位計などを表示します。

また、ナビゲーションシステムで目的地案内中に交差点案内が行われると、マルチインフォメーションディスプレイにも交差点案内が表示されます。

目的地の設定・地図の向き切りかえなどについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



オーディオシステム連携表示★

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。



走行支援機能情報


次のシステムの作動状況を表示します。

- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート) (→ P. 231)
- ・ レーダークルーズコントロール (→ P. 240)



警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。
(→ P. 387)

- ・ 警告メッセージがないときは、「メッセージなし」と表示されます。
- ・ 複数の警告メッセージがあるときは、メーター操作スイッチ (→ P. 76) の  を上下に操作して警告メッセージを切りかえることができます。




設定

メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。
(→ P. 81)

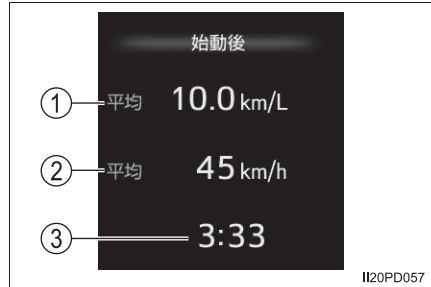
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドライブインフォメーション

メーター操作スイッチの  を上下に操作することで項目を選択できます。

■ 始動後

- ① 平均燃費 ※
エンジン始動後の平均燃費を表示します。
- ② 平均車速
エンジン始動後の平均車速を表示します。
- ③ 走行時間
エンジン始動後の経過時間を表示します。



※ 表示される燃費は参考として利用してください。

■ リセット後

- ① 瞬間燃費
現在の瞬間燃費を表示します。
- ② 平均燃費 ※1, 2
リセット後の平均燃費を表示します。
- ③ 平均車速 ※2
リセット後の平均車速を表示します。
- ④ 走行時間 ※2
リセット後の経過時間を表示します。



※1 表示される燃費は参考として利用してください。

※2 リセットするには、メーター操作スイッチの  を長押しします。

■ 給油後

① 航続可能距離 ※1, 2

燃料残量による走行可能な距離を表示します。

② 平均燃費 ※2, 3

給油後の平均燃費を表示します。



※1 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。

※2 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

※3 表示される燃費は参考として利用してください。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示

→ P. 84

■ デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

■ ふらつき検知機能

運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意力低下の度合いをバーの長さで表示します。


バーの長さが短いほど休憩が必要な状態であることを表します。

この表示は、LDA (レーンディパーチャーアラート) の機能のひとつです。LDA のふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。(→ P. 231)

■ 非表示

ドライブインフォメーションの表示をなしにします。

車両情報

メーター操作スイッチの  を上下に操作することで項目を選択できます。

■ フロントタイヤ方向表示

現在のフロントタイヤの方向（切れ角）の目安を表示します。

タイヤの方向表示は、タイヤの角度に応じて、左右それぞれ3段階に切りかわります。

バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にタイヤの方向表示が表示されないことがあります。タイヤの方向表示が表示されないときは、しばらく走行することで表示されます。

■ タイヤ空気圧表示★

タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。

スペアタイヤの空気圧も表示されます。

■ 傾斜計

→ 別冊「オフロード走行取扱書」

■ トラクションモニター


→ 別冊「オフロード走行取扱書」



設定

各装備の機能の On/Off や設定変更などができます。




■ 設定変更のしかた

- 1 メーター操作スイッチの  を上に操作して設定変更したい項目を選択し、 を押す

一部の装備で機能の On/Off を選択する項目では、 を押すたびに On/Off が切りかわります。

- 2 表示内容に従って  を上下に操作し、設定内容を選択して  を押す

■ 設定項目

-  LDA (レーンディパーチャーアラート) (→ P. 231)
LDA の設定を変更できます。
 - ・ 警報ブザーが吹鳴する感度
 - ・ ふらつき検知機能
 - ・ ふらつき検知機能の感度調整
-  PCS (プリクラッシュセーフティシステム) (→ P. 224)
PCS の設定を変更できます。
 - ・ PCS 機能の On/Off
 - ・ 衝突警報感度
-  BSM (ブラインドスポットモニター) ★ (→ P. 270)
BSM の設定を変更できます。
 - ・ BSM 機能の On/Off


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 表示設定


以下の項目を設定することができます。

- ・ 言語

マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を選択することができます。

- ・  エコドライブインジケータランプ

エコドライブインジケータランプの表示／非表示を選択することができます。

- ・  スイッチ設定

トップ画面を変更する方法を表示します。

- ・ 割込み表示

選択した機能の割り込み表示を On/Off できます。(→ P. 84)

- ・ カラー

マルチインフォメーションディスプレイ内のカーソル色を選択することができます。

- ・ 車両表示

マルチインフォメーションディスプレイ内の車両を背面タイヤに変更することができます。

- ・ 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

その他の機能

■ ドライブモード表示★

→ P. 252

■ リヤハイトコントロールエアサスペンション表示★

→ 別冊「オフロード走行取扱書」

■ マルチテレインセレクトの表示★

→ 別冊「オフロード走行取扱書」

■ クロールコントロールの表示★

→ 別冊「オフロード走行取扱書」

■ 外気温

外気温を表示します。

－ 40℃～50℃のあいだで表示します。

外気温度が3℃以下となった場合に凍結している恐れがあることを知らせる為、



が約 10 秒間点滅後に、点灯します。

■ メーターカスタマイズ機能

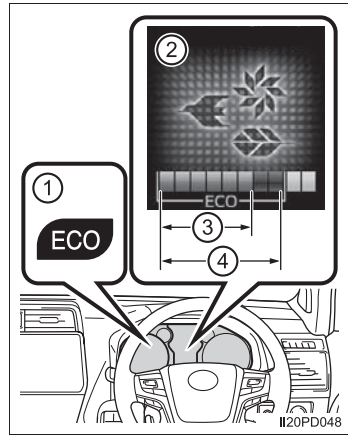
→ P. 438

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エコドライブインジケーター

- ① エコドライブインジケーターランプ
(→ P. 71)
- ② エコドライブインジケーターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。
- ③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。
- ④ エコ運転の範囲



■設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき

■割り込み表示について

次の機能の作動状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイには、一時的に割り込み画面が表示されます。

- 交差点案内★
- 電話着信★

割り込み表示の ON / OFF を設定できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ空気圧表示について

- エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。
- 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは “---” と表示されることがあります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

 **警告****■ 走行中の警告**

メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ ディスプレイの設定を変更するとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

燃費画面★ / ESPO 画面★

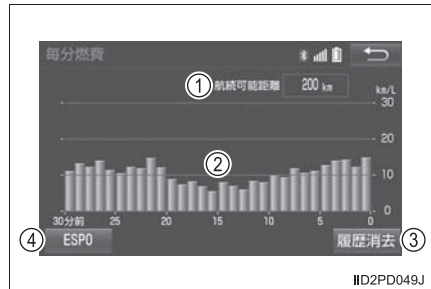
燃費に関する情報をナビゲーション画面に表示します。

表示のしかた

- 1 画面外の「情報・TC」スイッチを押す
- 2 燃費画面：「情報・TC」画面の「燃費」を選択する
ESPO 画面：「情報・TC」画面の「ESPO」を選択する

燃費画面の見方

- ① 航続可能距離
- ② 過去 30 分間の 1 分ごとの燃費
(平均燃費)
- ③ 履歴消去
- ④ ESPO 画面を表示する
(→ P. 88)



平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■ 燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ESPO 画面の見方

① 更新スイッチ ※

走行情報などをトヨタスマートセンターへ送信し、ステータスなどを更新します。

② 毎分燃費（前回エンジン始動～エンジン停止）

1分ごとの平均燃費を最大15分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

③ 毎分燃費（今回エンジン始動～現在）

1分ごとの平均燃費を最大15分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

④ アドバイススイッチ

- ・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。

- ・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

⑤ エコカルテスイッチ

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO₂排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

⑥ 毎分燃費スイッチ

燃費画面を表示します。（→ P. 87）

⑦ エコレベル平均値

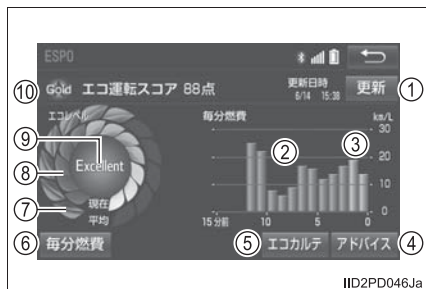
エコレベルインジケータの平均値を表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

⑧ エコレベルメーター

エコ運転のレベルを表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

⑨ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。



⑩ ステータス表示 ※

エコ運転の採点結果や走行情報をトヨタスマートセンターに送信し、計算されたデータをもとにポイントやステータスを表示します。

ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

※ T-Connect をご利用されているときに表示されます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知識

■ トヨタスマートセンターへ送信する走行情報について

トヨタスマートセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

各部の操作**3**

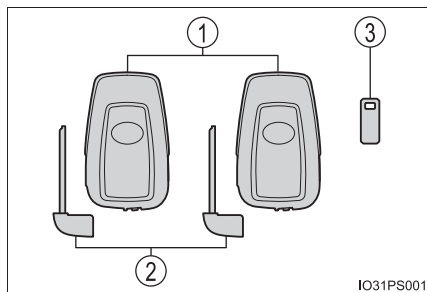
3-1. キー	
キー	92
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	96
バックドア	104
バックドアガラス	109
スマートエントリー& スタートシステム	114
3-3. シートの調整	
フロントシート	122
リヤシート	124
ポジションメモリー/ メモリーコール機能	136
ヘッドレスト	139
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	142
インナーミラー	145
ドアミラー	147
補助確認装置	150
3-5. ドアガラス・ ムーンルーフの開閉	
パワーウインドウ	152
ムーンルーフ	156

キー

キーについて

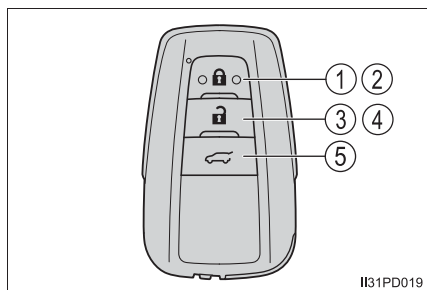
お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① 電子キー
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 114)
 - ・ ワイヤレス機能の作動
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

- ① ドアの施錠 (→ P. 96)
- ② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※ (→ P. 96)
- ③ ドアの解錠 (→ P. 96)
- ④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※ (→ P. 96)
- ⑤ バックドアガラスの解錠 (→ P. 109)



※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。(→ P. 431)

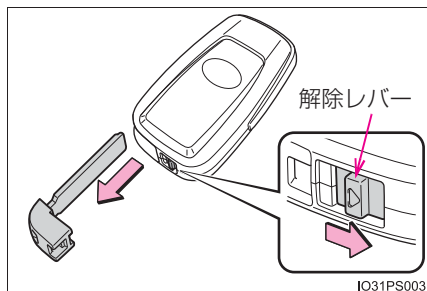
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キーの溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 410)



知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じて、グローブボックスを施錠(→P. 296)します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所(財布の中など)に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない電池はお客様自身で交換することができます(→ P. 351)が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での変換をおすすめします。
- 長時間使用しない電子キーの電池消耗を抑えることができます。(→ P. 117)
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■ 電池の交換方法

→ P. 351

 **注意****■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- むらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- 電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

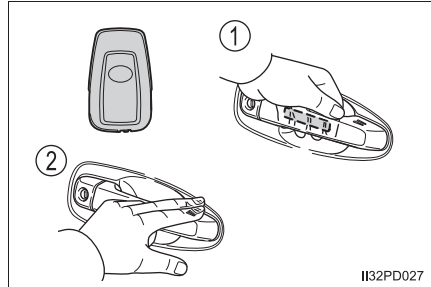
- ① フロント席ドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

- ② フロント席ドアハンドル上側、または下側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

- ① 全ドアを施錠する

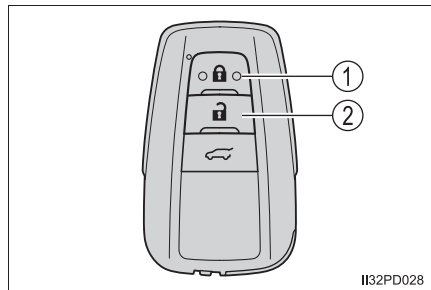
押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

必ず施錠されたことを確認してください。

- ② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 431）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動の合図

ドア：

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスとムーンルーフ★：

ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

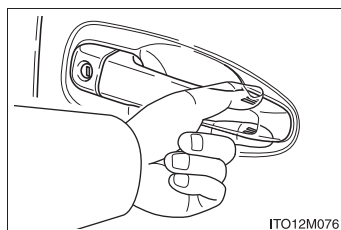
■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアまたはバックドアガラスを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



3

各部の操作

■ 半ドア警告ブザー

ドアまたはバックドアガラスが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。

ドアまたはバックドアガラスを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。(→ P. 62)

■ スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 410)

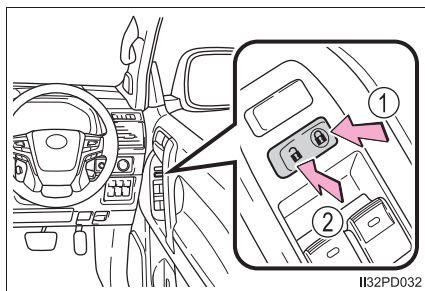
●電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 351)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

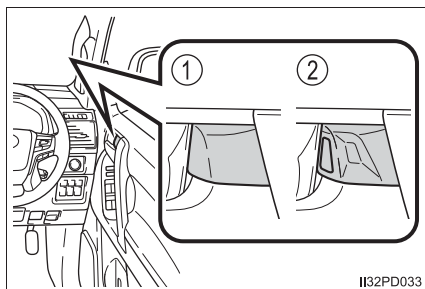
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

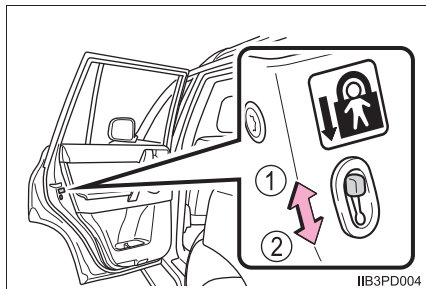
エンジンスイッチがアクセサリモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアアンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 433 を参照してください。



機能	作動内容
車速感応オードドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから 43 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

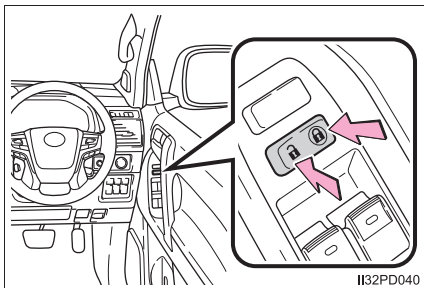
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステムの画面からでも、設定の変更が行えます。(→ P. 431)





- 1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする（その後 20 秒以内に 2 を行う）

- 2 シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの  または  を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。






機能	シフトレバーの位置	運転席ドアロックスイッチ
シフト操作連動ドアロック	P	
シフト操作連動アンロック		
車速感应オートドアロック	N	
運転席ドア開連動アンロック		

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。



 知識


■ 解錠ドアの切り替え機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 電子キー表面のインジケーターが点滅していないことを確認後、 ボタンと同時に、 ボタンまたは  ボタンのいずれかを約 5 秒間押し続ける

設定をおこなうごとに以下のように設定が切り替わります。(続けて切り替え操作をおこなう場合は、ボタンから手を離れたあと、5 秒以上間隔をあけてから [2]をおこなってください)

マルチインフォメーションディスプレイ	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (3 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (2 回) 車内：“ポーン” (1 回)

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。)

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→ P. 62)

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 410)

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 118

■ カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

 **警告****■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドア

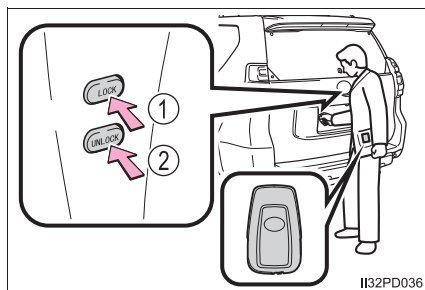
バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠・解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



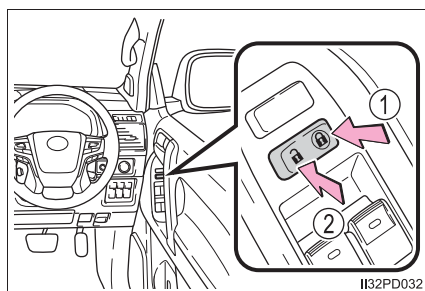
◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 96

車内からの施錠・解錠

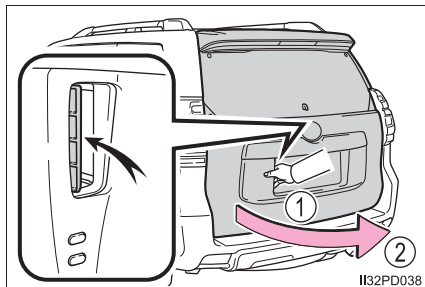
◆ ドアロックスイッチ

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



バックドアを開けるには

- ① バックドアハンドルを引く
- ② バックドアを開ける

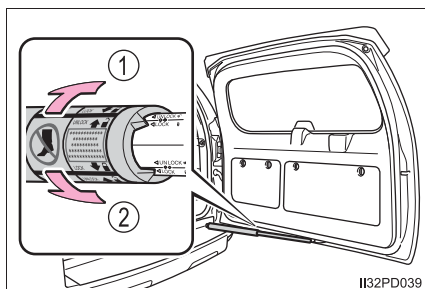


バックドアを開けた状態で固定するには

- ① ロックを解除する
- ② ロックする

バックドアが全開のときにのみ、バックドアステーをロックすることができます。

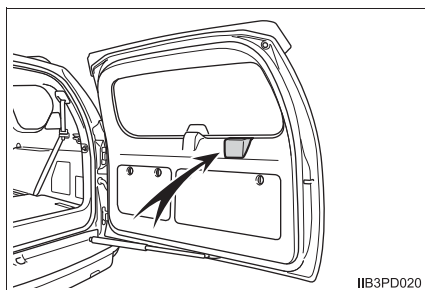
バックドアを閉める前に、必ずロックを解除してください。



バックドアを閉めるときは

バックドアグリップを持ってバックドアを引き、必ず外から押して閉めてください。

バックドアを閉めるときは、バックドアグリップを握ったまま操作しないでください。



 **警告****■ 走行中の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

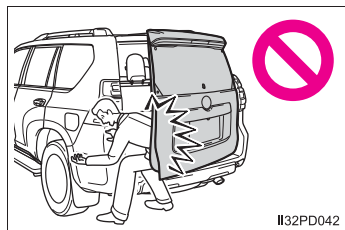
警告

■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

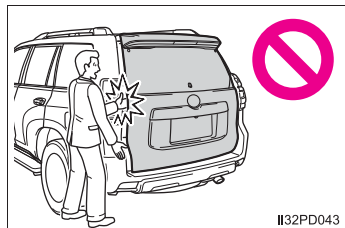
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確認してください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- バックドアステーをロックしていない状態で使用すると、バックドアが急に閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。バックドアを開けて作業するときは、必ずバックドアステーをロックした状態で行ってください。



- ロックした状態であっても、強風などでバックドアに過度の力が加わると、ロックが解除されてバックドアが閉じるおそれがあります。体の一部を挟まないよう十分注意してください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- バックドアの開閉時は、バックドアステーにふれないでください。手を挟んだり、バックドアステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じ、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

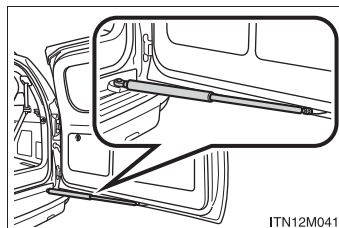
警告**■ バックドアを開けて駐停車するときは**

車両後方に停止表示板、または停止表示灯を置いてください。バックドアが開いていると、非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意**■ バックドアステーについて**

バックドアには、バックドアの動きを制限するためのステーが取り付けられています。バックドアステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステーの上に乗ったり、ものを載せたりしない。また、無理な力をかけない



ITN12M041

バックドアガラス

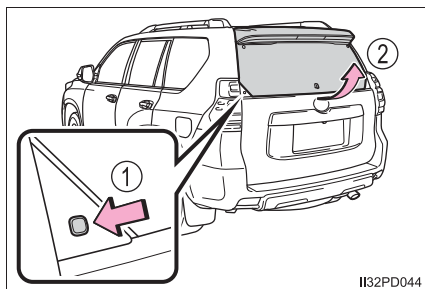
バックドアガラスオープンスイッチやワイヤレスリモコンを使ってバックドアガラスを開くことができます。

バックドアガラスの開け方

◆ バックドアガラスオープンスイッチ

- ① スイッチを押すとバックドアガラスが少し開く
- ② バックドアガラスを持ち上げる

バックドアが施錠されているときは、バックドアガラスを開くことができません。バックドアを解錠してから、バックドアガラスを開きます。
(→ P. 104)

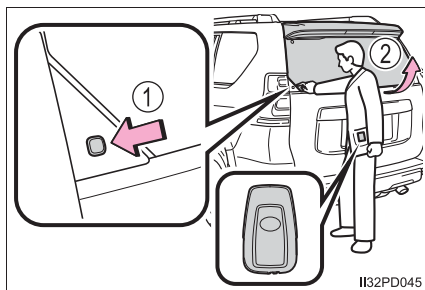


II32PD044

◆ スマートエントリー&スタートシステム

- ① 電子キーを携帯してスイッチを押すとバックドアガラスが少し開く
- ② バックドアガラスを持ち上げる

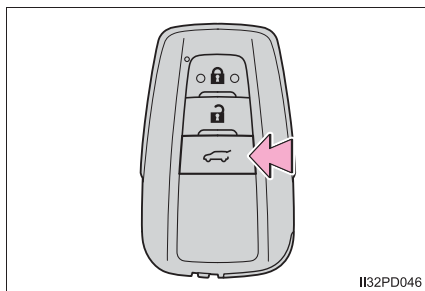
バックドアが施錠されているときも、バックドアガラスを開くことができます。



II32PD045

◆ ワイヤレスリモコン

スイッチを押し続けるとバックドアガラスが少し開く



II32PD046

 知識**■バックドアガラスを開けるときは**

- バックドアガラスはゆっくりと開いてください。
- バックドアが閉まっているときに、バックドアガラスオープンスイッチやワイヤレスリモコンを使用してください。

■作動の合図（ワイヤレスリモコン使用時）

バックドアガラスが開いたことをブザーで知らせます。

■リヤワイパー・リヤウォッシャーの作動中は

バックドアガラスが開くと、リヤワイパー・リヤウォッシャーが停止します。バックドアガラスを閉めると、作動が再開します。

■バックドアガラスを閉めたあとは

バックドアガラスが確実にロックされていることを確認してください。確実にロックされていないと、リヤワイパー・リヤウォッシャーが正常に作動しなくなります。

■半ドア警告ブザー

ドアまたはバックドアガラスが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。

ドアまたはバックドアガラスを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、車室内に電子キーを置いたままバックドアガラスを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、バックドアガラスオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーを車室内に入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、バックドアガラスを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態で、車室内にキーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、車室内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、バックドアガラスを閉めたときに施錠されてしまいます。バックドアガラスを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- 車内に 2 本目以降の電子キーを閉じ込めておきたい場合は、全ドア施錠後にバックドアガラス開閉操作を実施しないでください。キー閉じ込み防止機能によりバックドアガラスを開けることが可能な状態となり、盗難の可能性が極めて高くなります。

■カスタマイズ機能

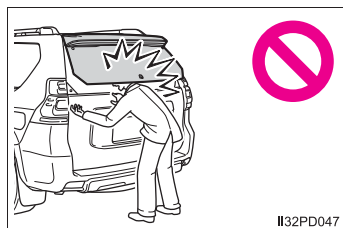
ワイヤレスリモコンによるバックドアガラス解錠操作の設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

警告**■ バックドアガラスの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

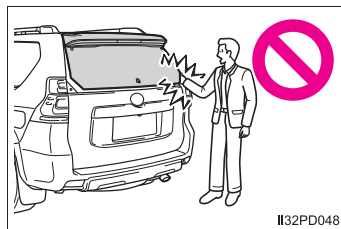
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアガラスを開ける前に、バックドアガラスに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアガラスが落下するおそれがあります。
- バックドアガラスを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアガラスが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- ダンパーステアを持ってバックドアガラスを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、ダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアガラスに重いものを取り付けると、開けたあとにバックドアガラスが突然閉じ、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアガラスへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。
- 半開状態で使用すると、バックドアガラスが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアガラスの開閉がしにくく、急にバックドアガラスが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアガラスが全開で静止していることを確認して、使用してください。



警告

- バックドアガラスを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- バックドアガラスは必ず外から軽く押して閉めてください。
- お子さまにはバックドアガラスの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアガラスが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

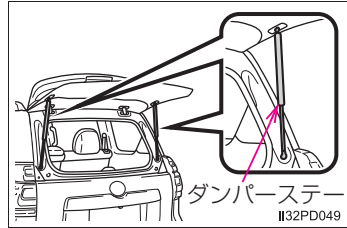
■ 走行中の警告

- 走行中はバックドアガラスを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアガラスが車外のものにあたりたり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康傷害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアガラスが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアガラスが確実にロックされていることを確認してください。バックドアガラスが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアガラスが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■ダンパーステーについて**

バックドアガラスにはバックドアガラスを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことを守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアガラスにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム

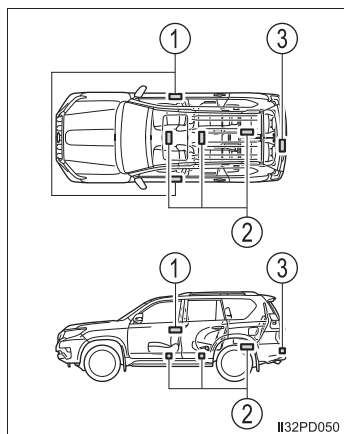
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→ P. 96)
- バックドアを施錠・解錠する (→ P. 104)
- バックドアガラスを解錠する (→ P. 109)
- エンジンを始動する (→ P. 175)

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車内アンテナ
- ③ ラゲージルーム外アンテナ



■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

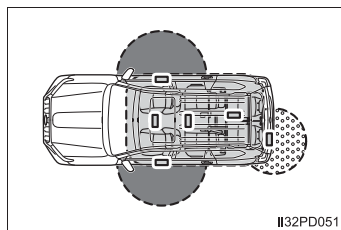
●： ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●： バックドアガラスの解錠時またはバックドアの施錠・解錠時

バックドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

●： エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー” と5秒間鳴る	いずれかのドアまたはバックドアガラスが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアとバックドアガラスを閉めたあと、再度施錠する
	すべてのドアが施錠、かつ車室内に電子キーがある状態でバックドアガラスを閉めた	バックドアガラスオープンスイッチを押してバックドアガラスを開き、車室内から電子キーを取り出す
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める



■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

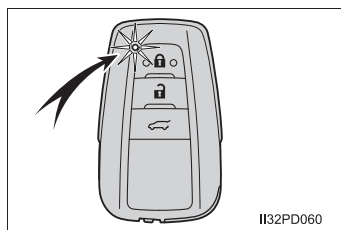
- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を2回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



長時間使用しない電子キーは節電モードに設定しておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 410)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- バックドアガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合
- コインパーキングに駐車しているとき

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。
 - ・ 施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・トノカバー（装着車のみ）上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内であれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、エンジンを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアまたはバックドアガラスの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。*
- ※ カスタマイズ機能により、操作方法を変更できます。（→ P. 434）
- 電子キーを携帯したまま洗車をする、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・ キーを車両から 2m 以上離れた場所に置く（電子キーの盗難に注意してください）
 - ・ キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→ P. 117）
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーで操作してください。
- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠できない場合があります。解錠されなかった場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、再度解錠操作をして、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P. 431)
- 電子キーの電池消費を抑えることができます。(→P. 117)

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドア・バックドアガラスの施錠・解錠：→P. 410
- エンジンの始動：→P. 410

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→P. 431)

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 96, 410)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P. 410
- エンジンの停止：→P. 176

 **警告****■電波がおよぼす影響について**

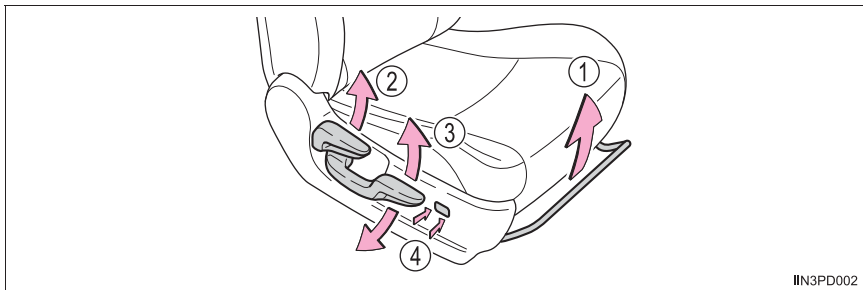
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 114）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

▶ マニュアルシート



IIN3PD002

① 前後位置調整

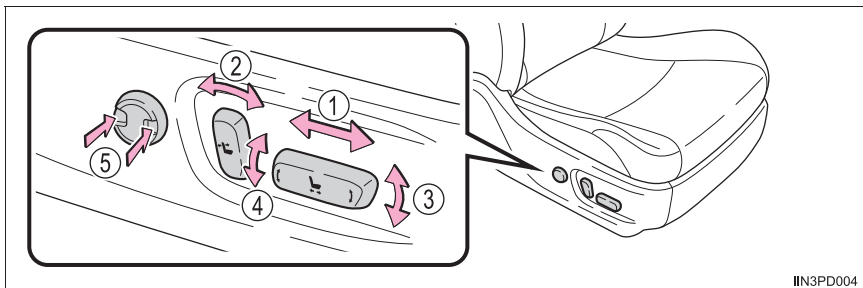
② リクライニング調整

※ 運転席のみ

③ シート全体の上下調整※

④ 腰部硬さ調整※（ランバーサポート）

▶ パワーシート



IIN3PD004

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ クッション前端の上下調整※

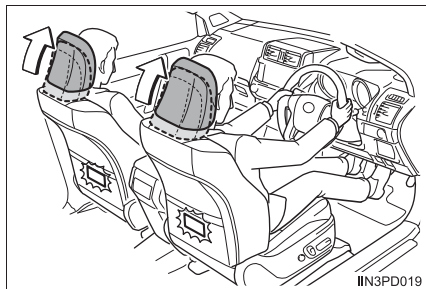
※ 運転席のみ

④ シート全体の上下調整※

⑤ 腰部硬さ調整※（ランバーサポート）

アクティブヘッドレスト

後方から衝突された際、乗員の腰がシートバックを押すことで、内蔵された機構が作動し、ヘッドレストが斜め上方に移動します。



知識

■ アクティブヘッドレストについて

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ リクライニング調整について

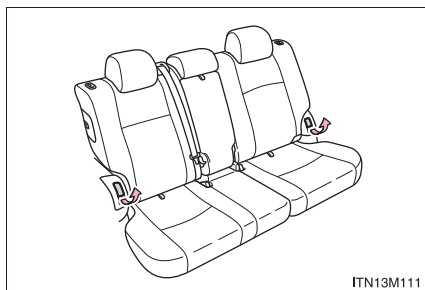
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

調整のしかた

▶ セカンドシート (5人乗り車)

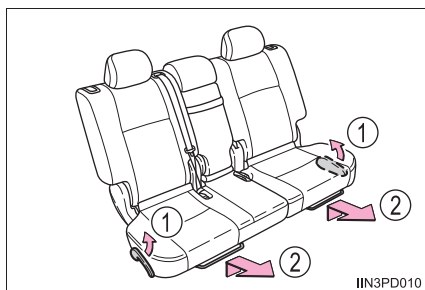
リクライニング調整



▶ セカンドシート (7人乗り車)

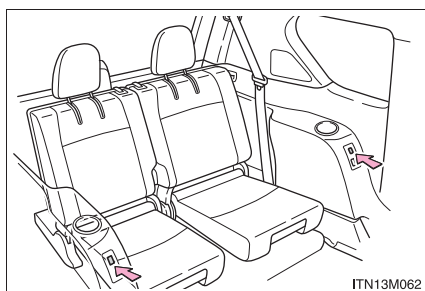
① リクライニング調整

② 前後位置調整



▶ サードシート (7人乗り車) (パワーシート)

リクライニング調整



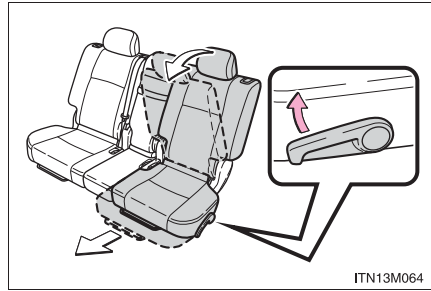
サードシートへの乗り降り（7人乗り車）

■ 乗車するときは（助手席側のみ）

リクライニングレバーをいっぱいまで引き上げる

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動することができます。

サードシートに乗り込んだあとは、シートを後方に動かし、背もたれを起こします。



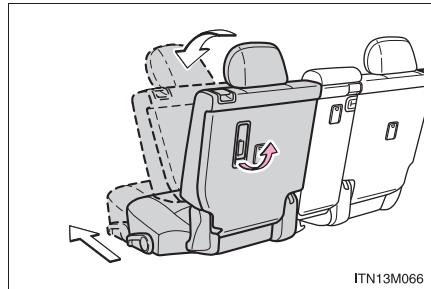
ITN13M064

■ 降りるときは（助手席側のみ）

背もたれの背面にあるレバーをいっぱいまで引き上げる

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動することができます。

車から降りたあとは、シートを後方に動かし、背もたれを起こします。

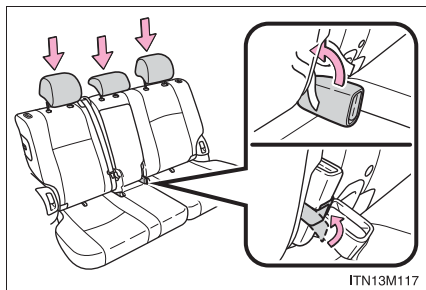


ITN13M066

セカンドシートの格納 (5人乗り車のみ)

■ セカンドシートを格納する前に

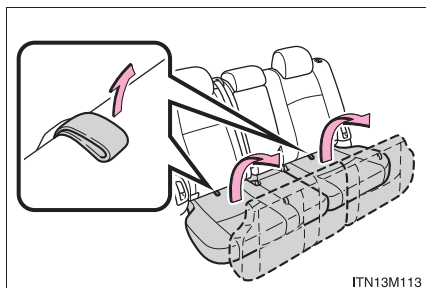
中央席シートベルトのバックルをバンドで固定し (5人乗り車のみ) ヘッドレストをいちばん下まで下げます。



ITN13M117

■ セカンドシートを格納するには

- 1 ロック解除ストラップを引いてシートクッションを引き起こす

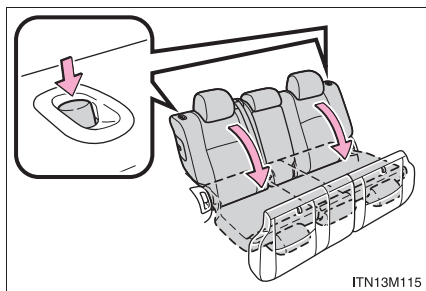


ITN13M113

- 2 背もたれを手で支えながらロック解除ボタンを押してロックを解除し、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、ボタンを下に押し込んでください。

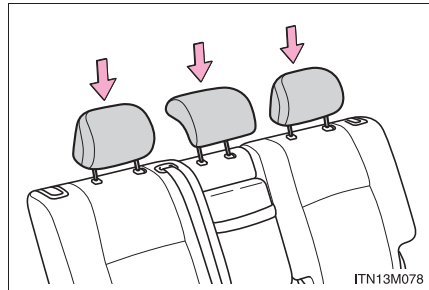
背もたれをもとの位置にもどすときは、ロックされるまで背もたれを起こしてください。



ITN13M115

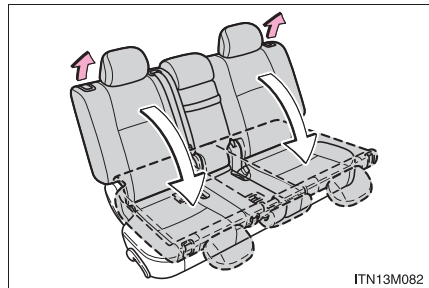
セカンドシートの前倒し（7人乗り車のみ）**■ セカンドシートを前倒しする前に**

ヘッドレストをいちばん下まで下げます。

**■ セカンドシートを前倒しするには**

前倒しレバーをいっぱいまで引き上げたまま、背もたれを前方に倒す

背もたれをもとの位置にもどすときは、確実にロックされるまで背もたれを起こしてください。

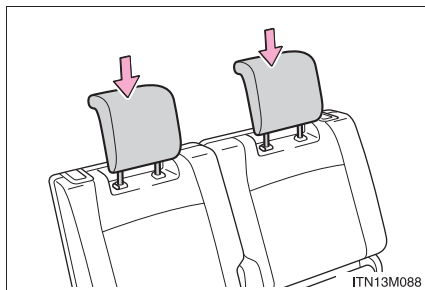


サードシートの格納（サードマニュアルシート装着車）

■ 格納する前に

ヘッドレストを下げる

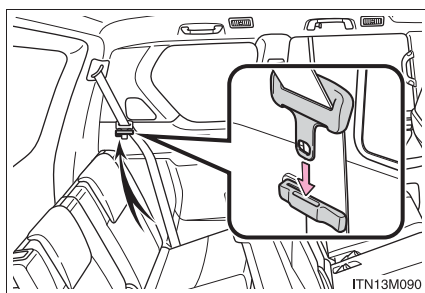
解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを押し下げます。



サードシートのシートベルトを格納する

シートベルトをシートベルトハンガーに挟み、ハンガーの穴部にプレートを挿し込みます。

使用するときにはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。

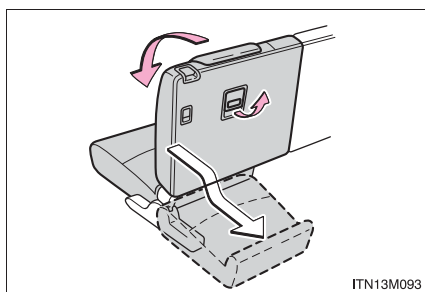


■ 格納するには

▶ バックドア側から操作するとき

背もたれ背面のレバーを引く

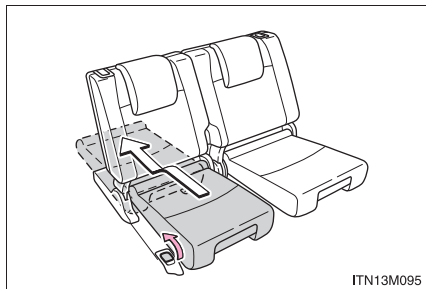
シートクッションと背もたれのロックが同時に解除され、シートクッションが自動でフロアに格納されます。



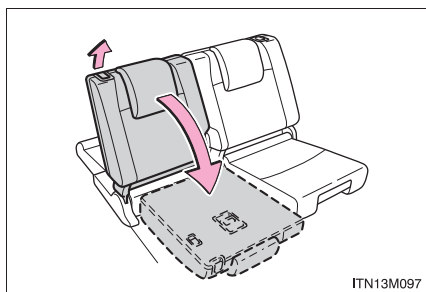
▶ 車室内から操作するとき

- 1** シート下部にあるレバーを引く

ロックが解除され、シートクッションが自動でフロアに格納されます。



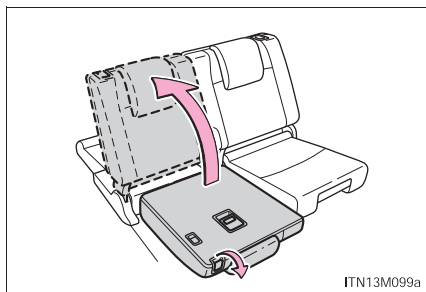
- 2** シートクッションが格納されたのを確認し、ヘッドレストの横にあるレバーを引きながら、背もたれを前に倒す



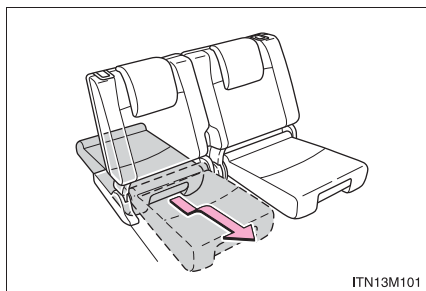
■ もとにもどすには

- 1** 背もたれを起こす

車室内からヘッドレストの横にあるレバーを引いてロックを解除したあと、固定される位置まで背もたれを起こします。



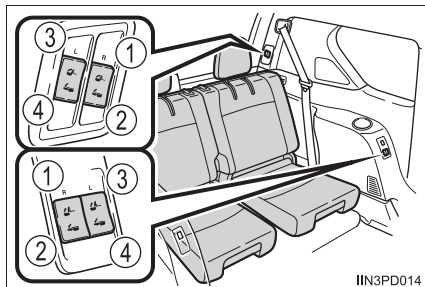
- 2** グリップを手前に引いて、シートクッションを引き出す



サードシートの格納（サードパワーシート装着車）

- ① 復帰スイッチ（運転席側用）
- ② 格納スイッチ（運転席側用）
- ③ 復帰スイッチ（助手席側用）
- ④ 格納スイッチ（助手席側用）

シート横またはバックドア横の、どちら側のスイッチでも同様に操作することができます。

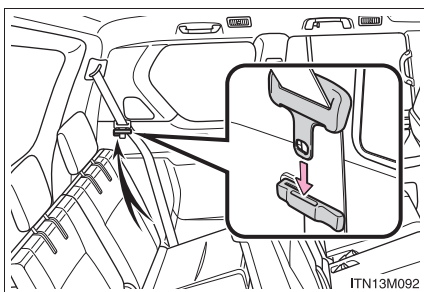


■ 格納する前に

サードシートのシートベルトを格納する

シートベルトをシートベルトハンガーに挟み、ハンガーの穴部にプレートを挿し込みます。

使用するときにはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。

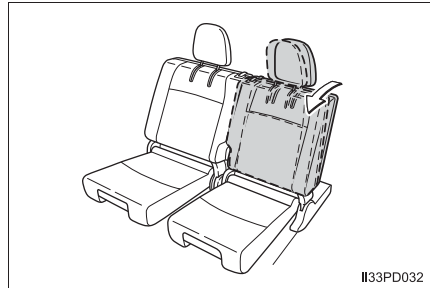



■ 格納するには

- 1  を押し続ける

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれが前方に動きます。作動中は、スイッチから手を離さないでください。

ブザーが 2 回鳴り、背もたれが垂直付近で自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。

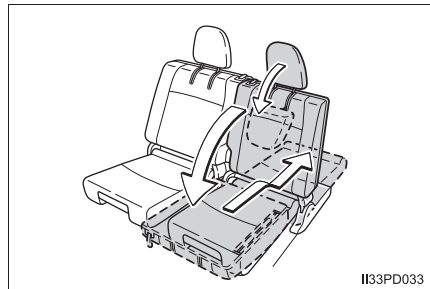


- 2  を押し続ける

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれの前倒し作動が開始し、シートクッションが自動でフロアに格納されます。

背もたれの前倒し作動に合わせて、ヘッドレストが自動で前に倒れ、背もたれが完全に前に倒れます。

格納作動が完了すると、ブザーが 2 回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。



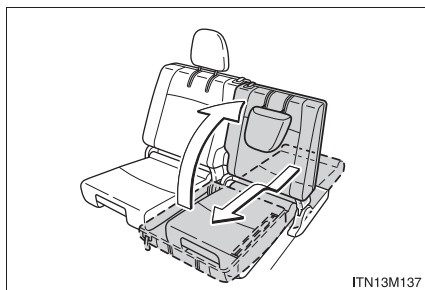
■ もとにもどすには

- 1  を押し続ける

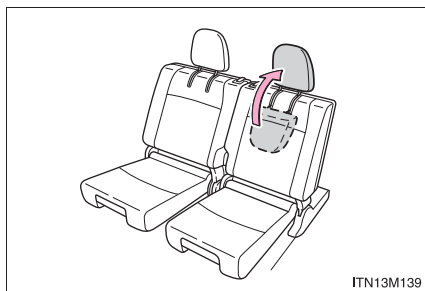
ブザーが2回鳴ったあと、背もたれとシートクッションが作動開始します。作動中は、スイッチから手を離さないでください。

復帰作動が完了すると、ブザーが2回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。

- 2 ヘッドレストをもとにもどす
ヘッドレストを引き起こします。



ITN13M137



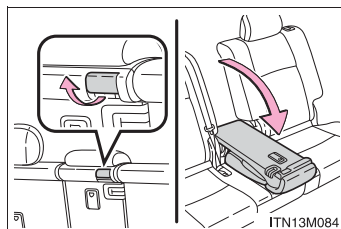
ITN13M139

知識

■ 中央席の前倒しについて

中央席の前倒しレバーをいっぱいまで引き上げると、中央席のみを前倒しすることができます。長い荷物を積む場合に便利です。

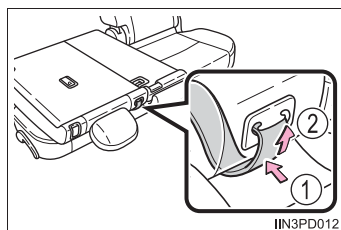
もとにもどすときは、ロックされる位置まで中央席を引き起こします。



ITN13M084

■ 前倒ししたあと、背もたれが引き起こせない場合は(7人乗り車の運転席側シート)

- ① 背もたれの先端を押し込んで、中央席のシートベルトをゆるめる
- ② シートベルトを少し巻き取らせてシートベルトのロックを解除する



IIN3PD012

■ サードシート格納時の作動条件（サードパワーシート装着車）

エンジンスイッチが OFF、またはイグニッション ON モードで、シフトレバーの位置が P にあるとき

■ サードシートの格納作動中は（サードパワーシート装着車）

作動開始後は、自動停止するまでスイッチから手を離さないでください。スイッチから手を離すと作動が中断し、ブザー（連続音）が鳴ります。再度スイッチを押すと、ブザーは止まります。

■ 警告ブザーが鳴り続けて止まらない場合は（サードパワーシート装着車）


システムに異常が発生すると、エンジンスイッチがイグニッション ON モードのあいだ、警告ブザーが鳴り続ける場合があります。その際は、次の操作を行ってください。


1  を押し続けてシートを復帰する

2  を押し続けてシートを格納する

各操作時は、シートが自動停止してブザーが 2 回鳴るまで、スイッチから手を離さないでください。

以上の処置で警告ブザーが止まらないときは、続けて次の操作を行ってください。

3 シート横の  を押し続けてシートを復帰する（バックドア横のスイッチは使用しません。）

4  を押し続けた状態のまま約 10 秒以内に （リクライニング前側）を 5 回押す

ブザーが 3 回鳴ったあと、連続で鳴り続けます。

5 再度手順 1～2 の操作を行う

以上の処置を行っても異常が解消しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートを操作するときは

- 走行中にシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■サードシートを格納するときは

- 操作前に必ず、シート周辺に人や荷物などがいないことを確認する
- 操作はゆっくり行う（サードマニュアルシート装着車）
- シート可動部分には絶対に手や足などを入れない
- お子さまにシートの操作をさせない
- シートクッションだけを格納した状態で使用しない（サードマニュアルシート装着車）

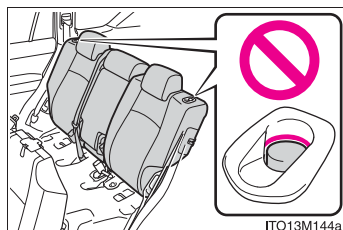
■リクライニング調整について

背もたれを必要以上に倒さないでください。

事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートをもともどしたあとは（セカンドシート）

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
5人乗り車ではシートが確実に固定されていない場合、ボタンのまわりに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないようにする

 **警告****■ シートをもとにもどしたあとは（サードシート）**

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する（サードマニュアルシート装着車）
- シートベルトを挟み込まないようにする
- シートベルトハンガーから、シートベルトをもとどおりに取りはずしてあるか確認する
- ヘッドレストをもとどおりに起こす（サードパワーシート装着車）

 **注意****■ シートを操作するときは**

- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

ポジションメモリー★ / メモリーコール機能★

自動で運転席・ハンドル・ドアミラーを動かし、お好みのドライビングポジションに調整します。

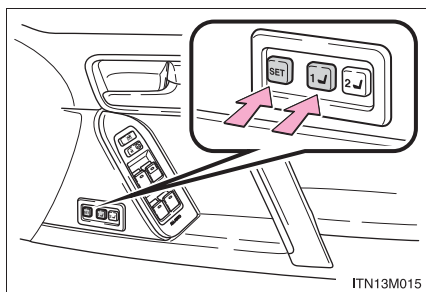
ポジションの登録

お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、2パターンまで登録できます。

■ 登録方法

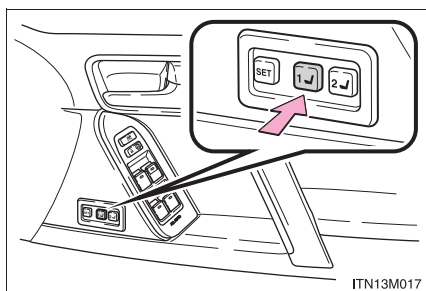
- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラーの角度をお好みの位置に調整する

- 4 “SET” ボタンを押しながら、または “SET” ボタンを押したあと3秒以内に1～2のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す
すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



■ 呼び出し方法

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 1～2のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- “SET” ボタンを押す
- 1 ～ 2 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 122）

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションに電子キーを登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■登録方法

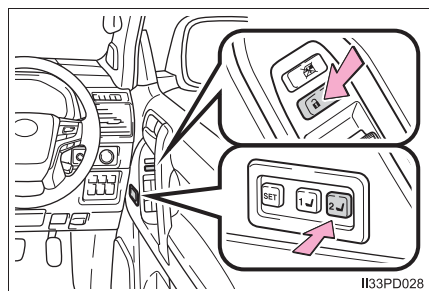
お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 2 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 2）を呼び出す

- 4 呼び出したポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

シートが登録されたポジションへ動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートは動きません。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが2つ以上あると、正確に解除できません。

- 1 エンジンスイッチを ON モードにする
- 2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧：→P. 435)

警告

■ シート調整時の警告

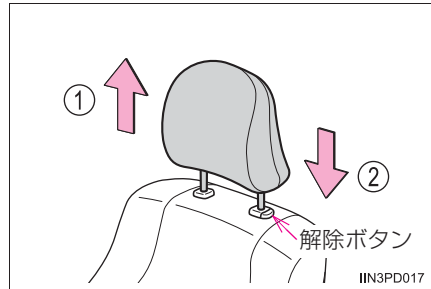
シート調整時は、シートがセカンドシート乗員にあたりたり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

■ フロントシート、セカンドシート、サードマニュアルシート★

- ① 上がる
- ② 下がる

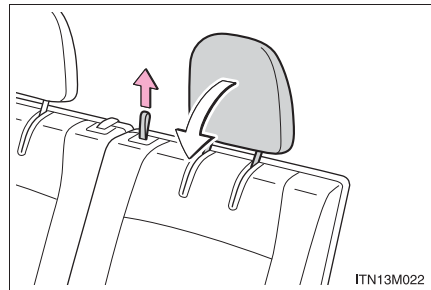
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



■ サードパワーシート★

ストラップを引くと、ヘッドレストが前に倒れます。

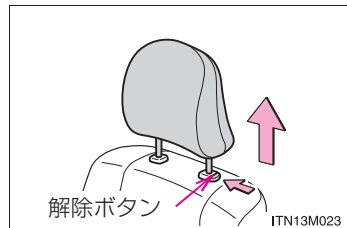
もとにもどすときは、ヘッドレストを引き上げます。



知識

■ ヘッドレストを取りはずすときは

- ▶ フロントシート、セカンドシート、サードマニュアルシート
解除ボタンを押しながら取りはずします。



▶ サードパワーシート

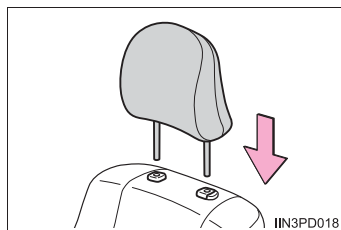
ヘッドレストを取りはずすことはできません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ヘッドレストを取り付けるときは（サードパワーシートを除く）

挿入穴にヘッドレストを挿入し、ヘッドレストがロックする位置まで押し込みます。

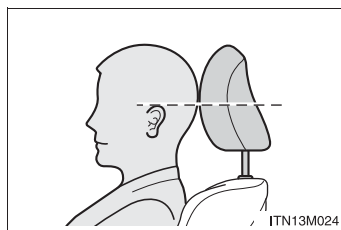
さらに下げるとき★は、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて ※1

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

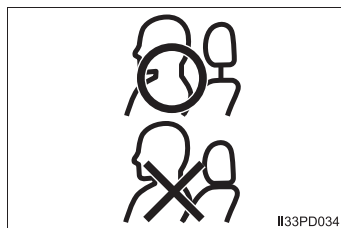
※1 5人乗り車のセカンドシートおよび、7人乗り車のセカンドシート中央席・サードシートを除く



■セカンドシート ※2・サードマニュアルシートのヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

※2 7人乗り車の左右席を除く



■サードパワーシートのヘッドレストの使用について

シートを使用するときは、必ずヘッドレストを起こした状態にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告****■ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

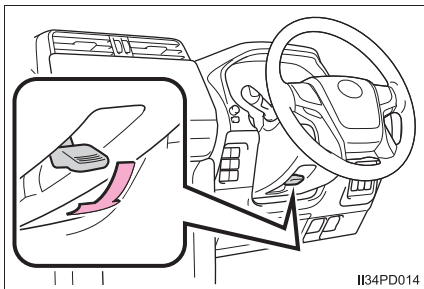
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- サードシートに乗車するときは、必ずヘッドレストを起こした状態にする（サードパワーシート装着車）

ハンドル

調整のしかた

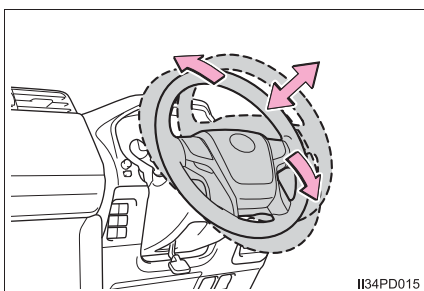
- ▶ 手動での調整
(マニュアルチルト&テレスコピックステアリング装着車)

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



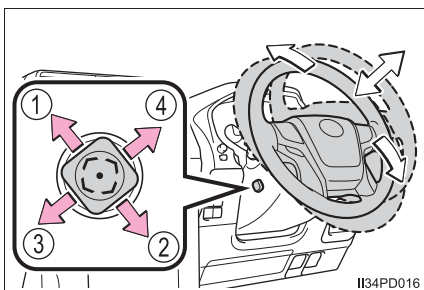
- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



- ▶ 電動での調整
(電動チルト&テレスコピックステアリング装着車)

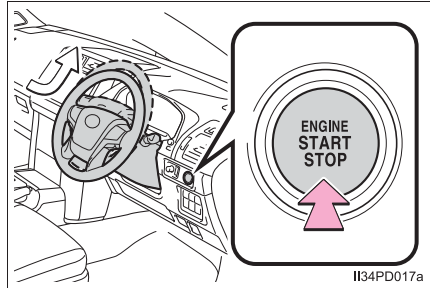
- ① 上方へ
- ② 下方へ
- ③ 前方へ
- ④ 手前へ



オートアウェイ&オートリターン機能★

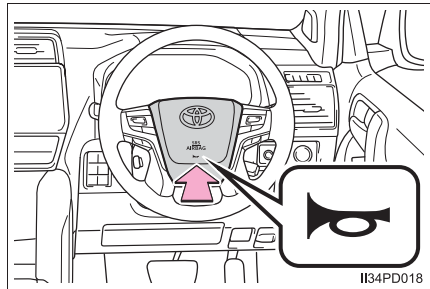
エンジンスイッチをOFFにすると、乗り降りしやすいようにハンドルが動きます。

エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

- **ハンドル位置調整の作動条件（電動チルト&テレスコピックステアリング装着車）**
エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき
- **ハンドル位置の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）**
お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 136）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ 走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ ハンドル位置を調整したあとは
(マニュアルチルト&テレスコピックステアリング装着車)**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

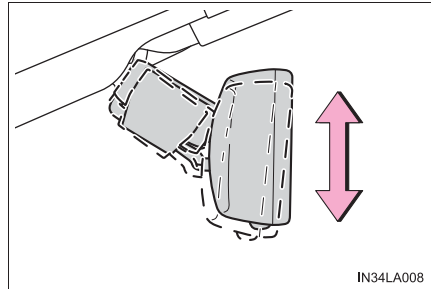
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

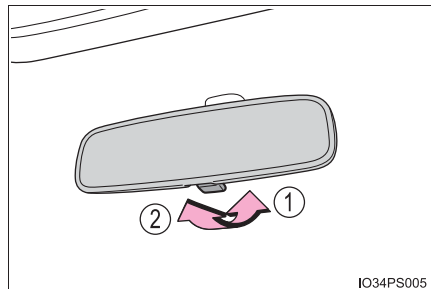


防眩機能

▶ マニュアル防眩ミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



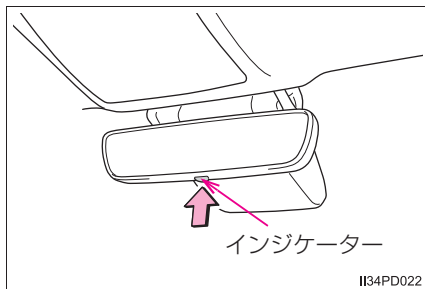
▶ 自動防眩ミラー

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。

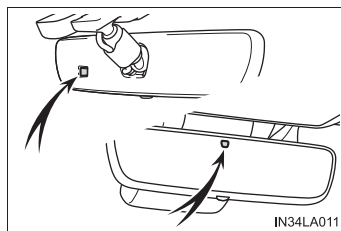
自動モードのON・OFFを切りかえる

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

**☐ 知識****■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）**

センサーの誤操作を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。

**⚠ 警告**

運転中はミラーの調整をしないでください。

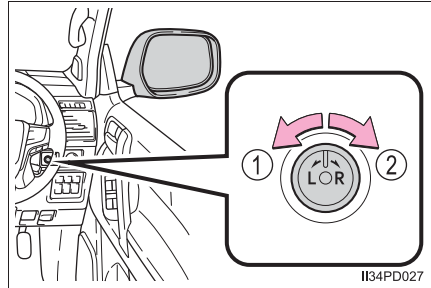
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

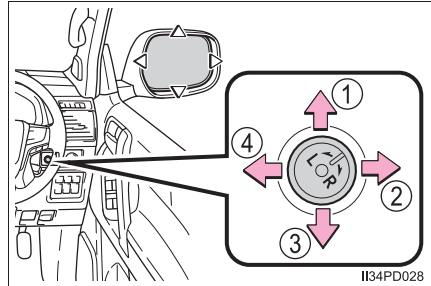
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを操作する

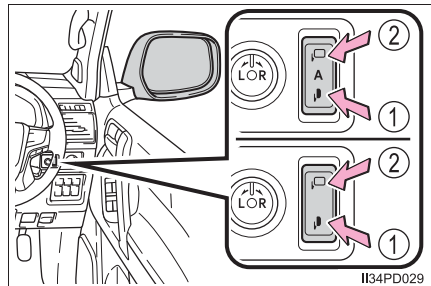
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納・復帰する

- ① ミラーを格納する
- ② ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置 (A) にするとオート作動★に切りかわり、ドアの施錠・解錠、パワースイッチの操作と連動して作動します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リバース連動機能について★

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(→ P. 283)

■ ミラー角度の自動調整 (ドライビングポジションメモリー装着車)

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 136)

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

 警告

■ 走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ミラーの調整をしない

● ミラーを格納したまま走らない

必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは

手をふれないでください。

手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

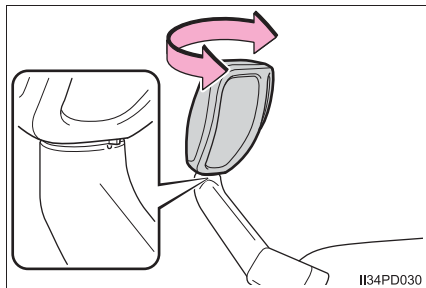
■ ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助確認装置★

発進時またはごく低速時に、車両前面と助手席側車両側面を確認するとき役に立ちます。

ミラーが動いてしまったときは、突起とマークの位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。

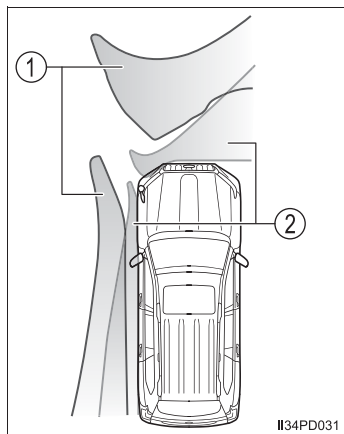


知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

- ① 地面が視認できる範囲
- ② 地上約 1m の高さまで視認できる範囲



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 補助確認装置について**

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウィンドウ

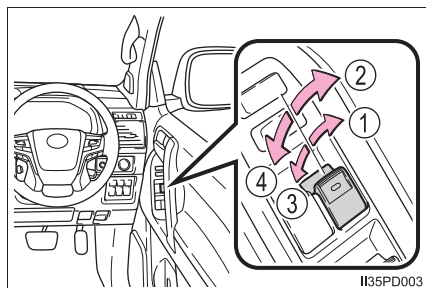
調整のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉 ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開 ※

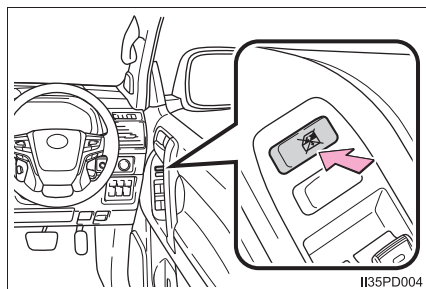
※途中で停止するとき、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアキー連動開閉機能などを設定することができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 431)

▲警告

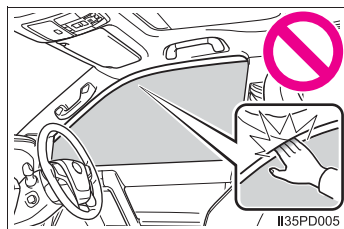
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するときは

- 運転者には、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P. 152)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

 **警告****■ 巻き込み防止機能**

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

 **注意****■ 挟み込み防止機能・巻き込み防止機能について**

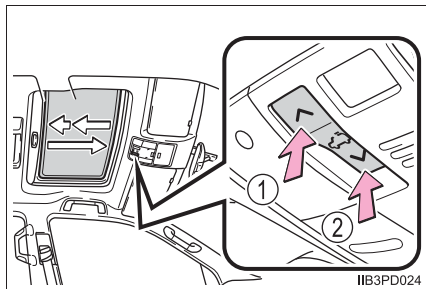
ドアガラスを開閉しているときに、ドアを強く閉めると挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動し、ドアガラスが反転・停止することがあります。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

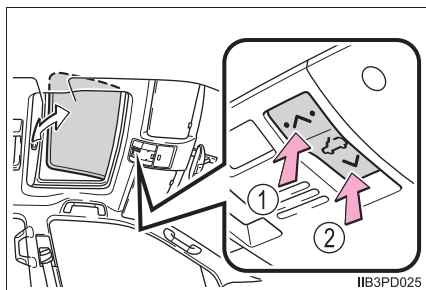
開閉

- ① ムーンルーフを開く ※
全開の手前の位置で止まります。(風切音の低減機能)
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。
- ② ムーンルーフを閉める ※
※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



チルトアップ／ダウン

- ① チルトアップ ※
- ② チルトダウン ※
※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ 閉め忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが OFF で、ムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

ドアキー連動開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2  の“V”側を押し続ける※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10秒間停止します。※2


その後再び閉じ、チルトアップし、1秒間停止します。


チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2  の“^”側を押し続け※1 ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3  から一度手を離し、再度“^”側を押し続ける※1

ムーンルーフがチルトアップの状態ですら10秒間停止し、※2 微調節後1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動でき

なくなります。その場合は、 の“V”または、 の“^”側を

押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1秒間停止します。

その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

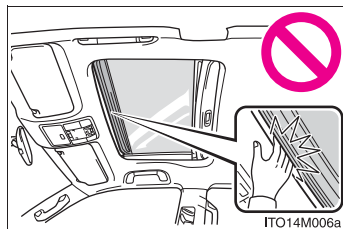
■ムーンルーフを開けているときは

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

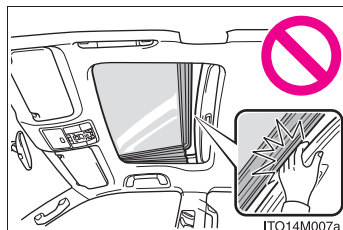
■ムーンルーフを開閉するときは

- 運転者には、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



- 車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転

4

- 4-1. 運転にあたって
 - 運転にあたって 162
 - 荷物を積むときの注意 173
- 4-2. 運転のしかた
 - エンジン（イグニッション）
スイッチ 175
 - オートマチック
トランスミッション 181
 - 方向指示レバー 187
 - パーキングブレーキ 188
 - 排出ガス浄化装置
（ディーゼル車） 189
- 4-3. ランプのつけ方・
ワイパーの使い方
 - ランプスイッチ 193
 - オートマチックハイビーム ... 196
 - フォグランプスイッチ 201
 - ワイパー&ウォッシャー
（フロント） 203
 - ワイパー&ウォッシャー
（リヤ） 208
 - ヘッドランプクリーナー 210
- 4-4. 給油のしかた
 - 給油口の開け方 211
- 4-5. 運転支援装置について
 - Toyota Safety Sense P ... 215
 - PCS（プリクラッシュ
セーフティシステム） 221
 - LDA（レーンディパーチャー
アラート） 231
 - レーダークルーズ
コントロール 240
 - ドライブモード
セレクトスイッチ 252
 - クリアランスソナー 254
 - 運転を補助する装置 264
 - BSM（ブラインド
スポットモニター） 270
- 4-6. 運転のアドバイス
 - 寒冷時の運転 276

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 175

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→ P. 181)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 188)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み
発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 181)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 188)、シフトレバーを P にする
(→ P. 181)
- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め^{*}を使用してください。

^{*} 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ヒルスタートアシストコントロール★について

ヒルスタートアシストコントロールにより、車両の後退を緩和し、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易に行うことができます。(→別冊「オフロード走行取扱書」)

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P. 383)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は S ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。
 - ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、次の操作を行うことにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。
 - ・ TRC の作動を停止する。（→ P. 266）
 - ▶ ディーゼル車
 - ・ トランスファースイッチを L4 にする ※
 - ・ センターデフをロック状態にする。 ※
 - ▶ ガソリン車
 - ・ トランスファースイッチを H4L / L4L にする ※
- ※ アクティブ TRC、トランスファースイッチ、センターデフロックの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■エンジン停止前のアイドリング運転について（ディーゼル車）

ターボ装置の損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドリング運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況		アイドリング運転時間
市街地などの一般走行		不要
高速走行	約 80km/h 定速	約 20 秒
	約 100km/h 定速	約 1 分
山岳ドライブウェイなど急な登坂、または 100km/h 以上の連続走行		約 2 分

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

● 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転するとき

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあります。危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 372を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 181)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたりしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。特にディーゼル車は高温になる場合がありますので、注意してください。(→ P. 189)

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

● ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。

ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

● ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

● 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまうす。

● ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために（ディーゼル車）

- 高速走行・登坂走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドリング運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。（→ P. 164）
- 排気管などには指定以外の部品を使わないでください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。（→ P. 426）

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 392 を参照してください。

 **注意****■ 冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。※

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んだエンジンの破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

※ 必要な注意事項を守って渡河を行う場合を除く
渡河を行う際の注意事項については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ トノカバー（装着車のみ）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（ルーフレール装着車）

 **警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。


これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む


マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。
表示されないと、エンジンは始動しません。

- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

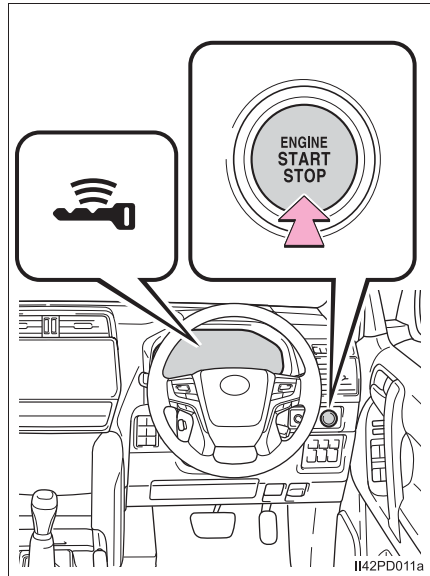
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

ディーゼル車:  (予熱表示灯) が点灯後消灯したらエンジンが始動します。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



エンジン停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 188)、シフトレバーを P の位置にする
- 3 エンジンスイッチを押す
- 4 ブレーキペダルから足を離れた状態にしてメーターの表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

① OFF*

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

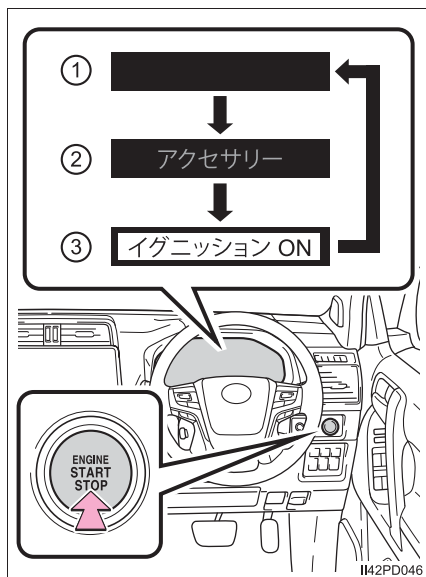
マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

* シフトレバーが P 以外の場合は、アクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーがP以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードはOFFになりません。次の手順でOFFにしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーをPの位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源をOffしてください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを1回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源をOffしてください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーがPにあるとき、20分以上アクセサリモードか1時間以上イグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切り替えやエンジン始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチOFF後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチOFF後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 94

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 118

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 119

■ エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→ P. 61)

トヨタ販売店へご連絡ください。

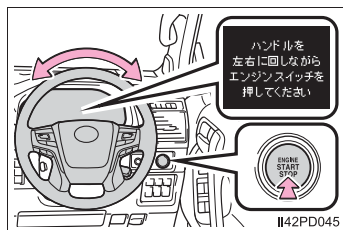
- シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとエンジンを始動することができない場合があります。

■ ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認してハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2～10秒程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 電子キーの電池が切れたときは

→ P. 351

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 410

 **警告****■ エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押ししてください。(→ P. 372)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、エンジンスイッチを押してください。

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンスイッチのインジケーターが消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。
エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■ エンジンを始動するとき

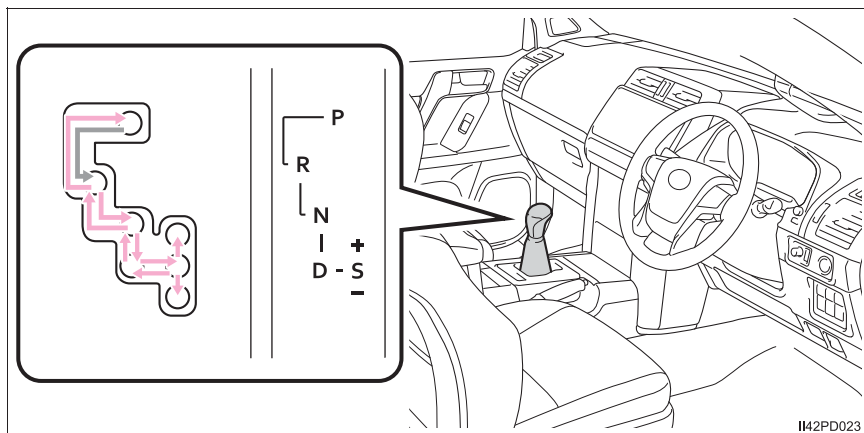
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



← エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態では、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフト ポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ^{※1}
S	Sモード走行 ^{※2} (→P. 183)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

走行モードの選択

■ スポーツモード／エコドライブモード

→ P. 252

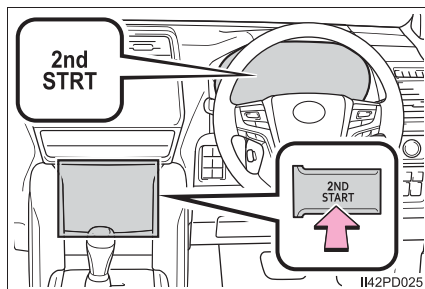
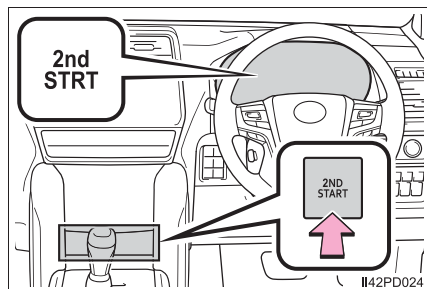
■ セカンドスタートモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行時に、走行モードをセカンドスタートモードに切りかえます。

セカンドスタートモードにするにはスイッチを押す

解除するには再度スイッチを押します。

- ▶ リヤハイトコントロールエアサスペンション非装着車
- ▶ リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車



Sモードでのシフトレンジ切りかえ

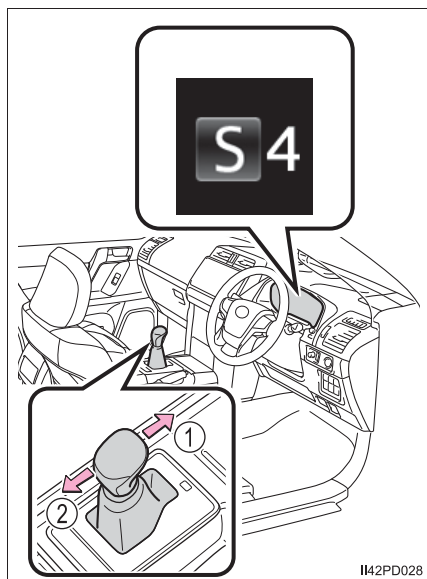
シフトレバーがSの位置にあるとき、シフトレバーを次のように操作できます。

- ① シフトアップ
- ② シフトダウン

1～6レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

Sポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて5または4レンジに設定されます。ただし、DポジションにてAI-SHIFT制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが3レンジになる場合があります。

(→ P. 185)



I42PD028

■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、6段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

 知識**■ リバース警告ブザー**

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤動作を防ぐシステムです。イグニッション ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ S モード

4 レンジ以下のとき、シフトレバーを+側へ保持すると、6 レンジに設定されません。

■ シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■ レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

S モード走行時に 4 または 5 へシフトダウンしても、エンジブレーキは効きません。（→ P. 240）

■ セカンドスタートモードの自動解除

セカンドスタートモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

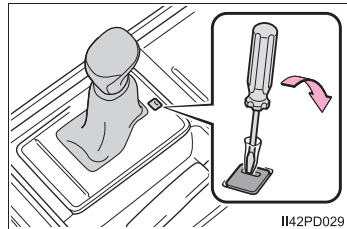
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

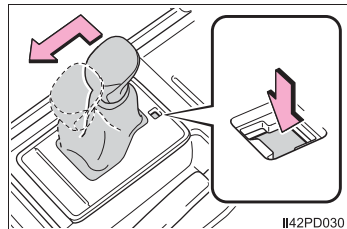
シフトロック解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■ シフトレバーを S にしても “S” が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。
(シフトレバーを S にすると、機能が解除されます)

■オートマチックトランスミッション保護機能

- ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。
このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤ段が一時的に固定される場合があります。
トランスミッションの温度が下がるとギヤ段の固定は解除され、通常作動にもどります。
- トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに「AT オイル油温異常」が表示されます。
ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーをPにして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待ちます。しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

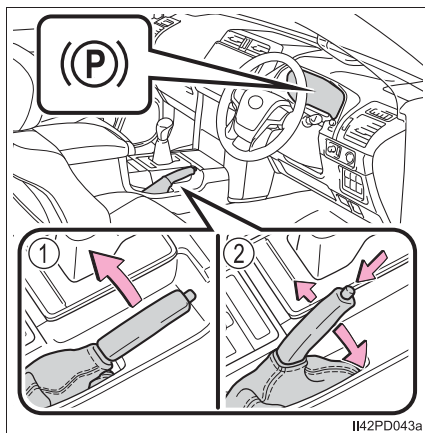
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

- ① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- ② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす



知識

- 駐車するとき
→ P. 162
- パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 383
- 冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 277


注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

排出ガス浄化装置（ディーゼル車）

排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

万一、マルチインフォメーションディスプレイ上に「DPF 再生不十分
販売店で点検を受けてください」が表示され、（エンジン警告灯）
が点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
（→ P. 192）

◆ 燃焼（再生）処理について

- 一般走行では数百 km[※] 走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。
- ススが規定量以上になったとき、スイッチ操作で燃焼処理を行うことができます。

※ 気候や走行状況等により異なります。

◆ 排出ガス浄化装置について

排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。

- 燃焼処理中はアイドル回転数が上がる
- 排気ガスの臭いが従来のディーゼル車とは異なる
- 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
- 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
- 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある

排出ガス浄化警告が表示されたときは

ススが規定量以上になると、マルチインフォメーションディスプレイ上に「DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください」と表示されます。メッセージが表示されたときは、次の手順で燃焼処理を行ってください。

- 1 車を安全な場所に停車する
- 2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする

エンジンは停止しないでください。

また、排気管の周辺に可燃物等がないことを確認してください。(→ P. 191)

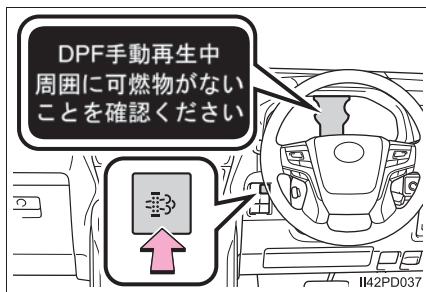
- 3 排出ガス浄化スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージが表示され、アイドリング回転数が上がります。

燃焼(再生)処理が終了するまでに、約15～40分^{*}程度の時間が必要です。

マルチインフォメーションディスプレイ上の「DPF 再生中」の表示が消え、アイドリング回転数がもとにもどれば終了です。

^{*} 外気温により異なります。



知識

■ 燃焼処理について

- 排出ガス浄化スイッチを押したあとは、アクセルペダルを踏まないでください。ペダルを踏むと処理が中断されます。処理が中断されてしまった場合は、すみやかに燃焼処理をやり直してください。
- 走行直後など排気管の温度が高いときに行くと、エンジンが冷えているときよりも早く処理が終了します。

■ エンジンオイルについて

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。(→P. 425)

■ 排出ガス浄化警告について

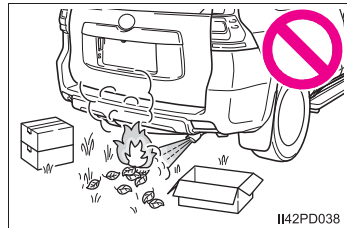
走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドリングストップを行った場合などに、通常より早く排出ガス浄化警告が表示される場合があります。

警告

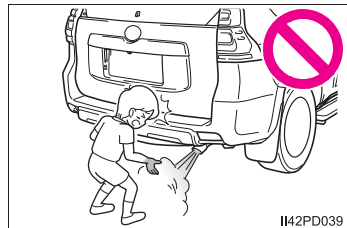
■ ススの燃焼（再生）処理中は

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害を受けたり、火災などが発生するおそれがあり危険です。

- 燃えやすい物や乾いた草の近くに車を停車しない



- 排気管周辺に人がいないことを確認する



- 車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼処理を行わない
- 燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない

 **注意****■ 排出ガス浄化警告が表示されたとき**

- 警告が表示されてから、約 50km 走行以内に排出ガス浄化スイッチを押して、燃焼処理をしてください。
- 排出ガス浄化警告が表示されたまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯します[※]。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
[※] このときは、排出ガス浄化スイッチが機能しなくなります。

■ 排出ガス浄化装置の故障を防ぐために




次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

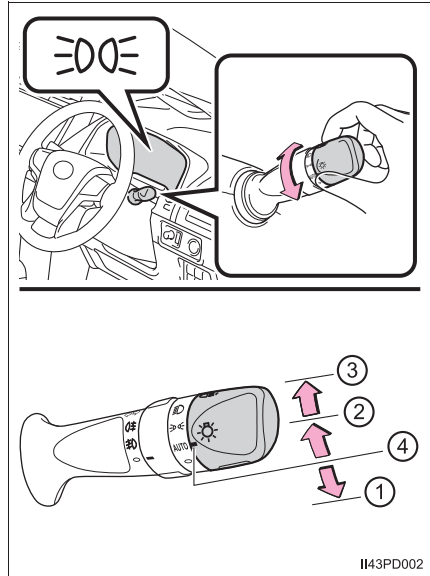
- 排出ガス浄化警告が表示されたまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などがないか定期的に点検する
異常が発見された場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

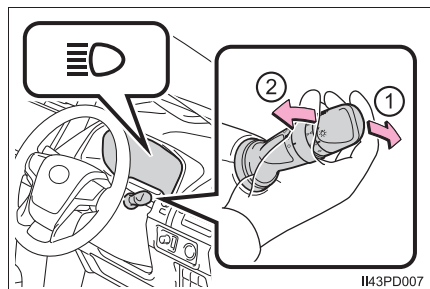
操作のしかた

- ①  消灯
- ②  車幅灯・尾灯・番号灯を点灯
- ③  上記ランプとヘッドランプを点灯
- ④ **AUTO** ヘッドランプ、LED デイライト (→ P. 194)、車幅灯などを自動点灯・消灯 (エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき)



ハイビームにする

- ① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



 知識

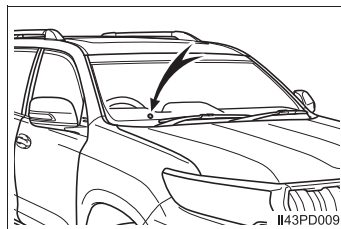
■ LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します。)

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。



■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなりま



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリモード、または OFF にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプや尾灯などが消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度  または  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ おもてなし照明★

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯と尾灯が自動で点灯します。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、インナーミラーに設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告


■安全にお使いいただくために

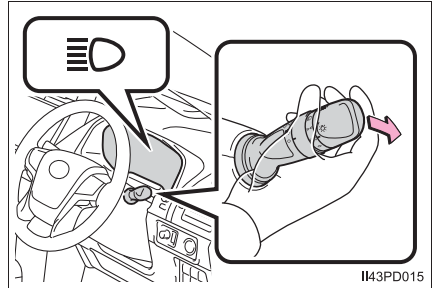
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

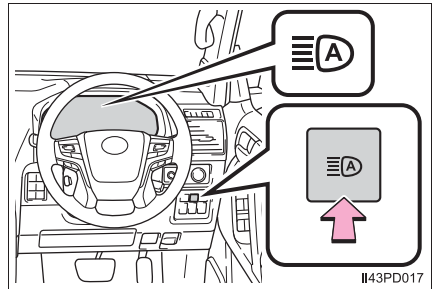
オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチをAUTOまたは  にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。

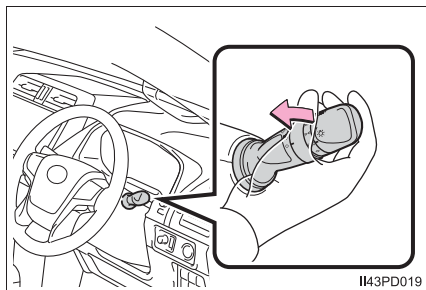


手動切りかえのしかた**■ ロービームへの切りかえ**

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

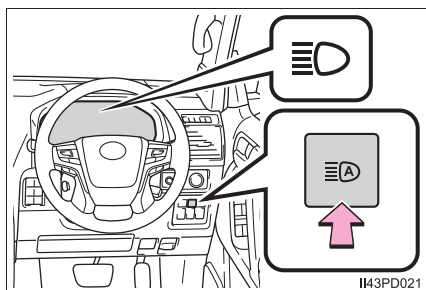
オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。

**■ ハイビームへの切りかえ**

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。



 知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

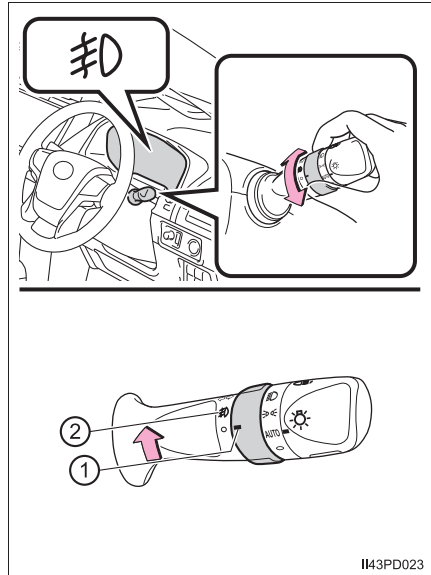
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ インナーミラーやカメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ カメラセンサーが極端に高温になっているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブが多い道路を走行しているとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
 - ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
 - ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ

- ① ○ 消灯する
- ② 霧点灯する

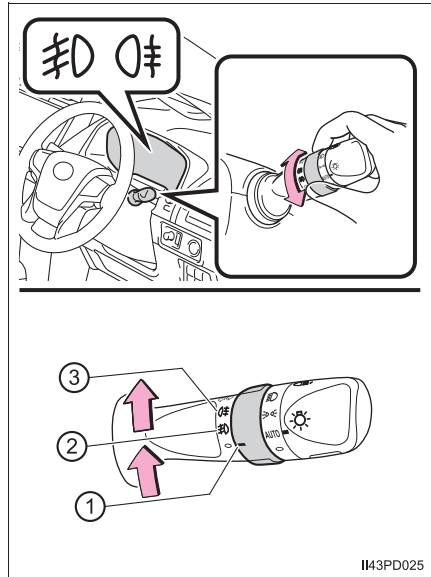


II43PD023

▶ フロント&リヤフォグランプスイッチ

- ① ○ 消灯する
- ② ㊦ フロントフォグランプを点灯する
- ③ ㊧ フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと ㊦ の位置までもどります。
再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



I143PD025

 知識

■ 点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：
フロントフォグランプまたはヘッドランプが点灯しているときのみ使用できません。

■ リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

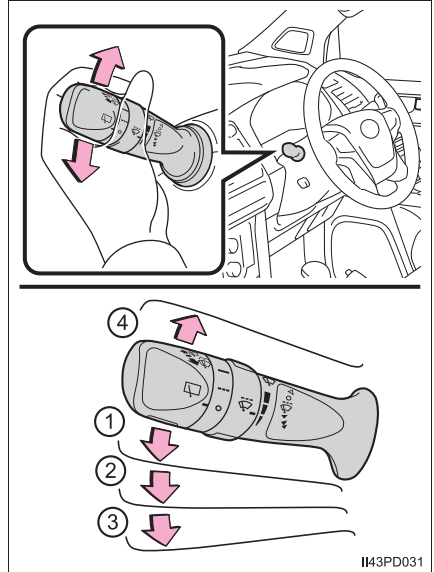
ワイパー&ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

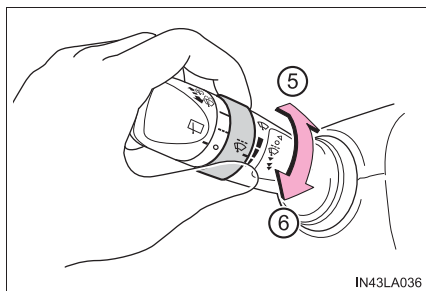
▶ 間欠作動調整式ワイパー

- ① 間欠作動（INT）
- ② 低速作動（LO）
- ③ 高速作動（HI）
- ④ 一時作動（MIST）

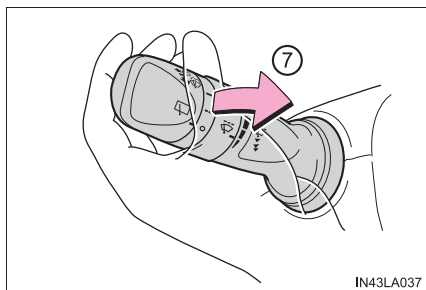


間欠作動が選択されているときは、次のようにつまみをまわして間欠時間を調整できます。

- ⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（増）
- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



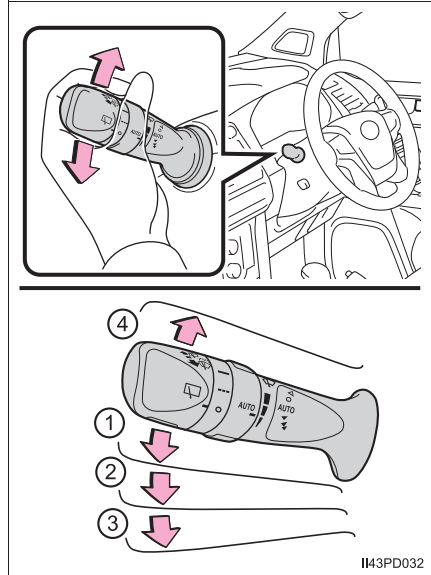
- ⑦ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー

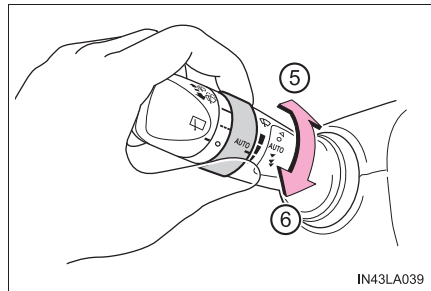
“AUTO” を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。

- ① 雨滴感知オート作動 (AUTO)
- ② 低速作動 (LO)
- ③ 高速作動 (HI)
- ④ 一時作動 (MIST)



“AUTO” が選択されているときは、次のようにツマミをまわして雨滴センサーの感度を調整できます。

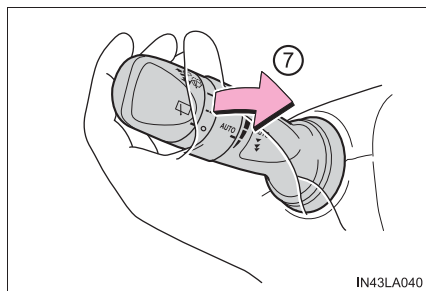
- ⑤ 雨滴センサーの感度調整 (高)
- ⑥ 雨滴センサーの感度調整 (低)



⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが運動して作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します)

ヘッドランプが点灯しているときは、ヘッドランプクリーナーが1回作動します。



IN43LA040

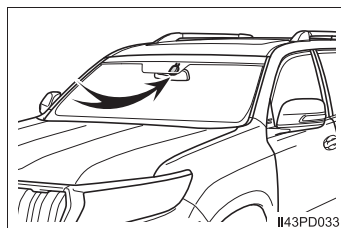
 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。



II43PD033

- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが1回作動します。
- ワイパースイッチが AUTO モードのときに雨滴感知センサーの感度調整を高側へ調整すると、作動確認のためにワイパーが1回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 90℃以上または -15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ 車速による作動への影響（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）がかわります。

LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。

（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 警告**■ AUTO モード時のワイパー作動に関する警告（雨滴感知式ワイパー装着車）**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが働くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■ フロントガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

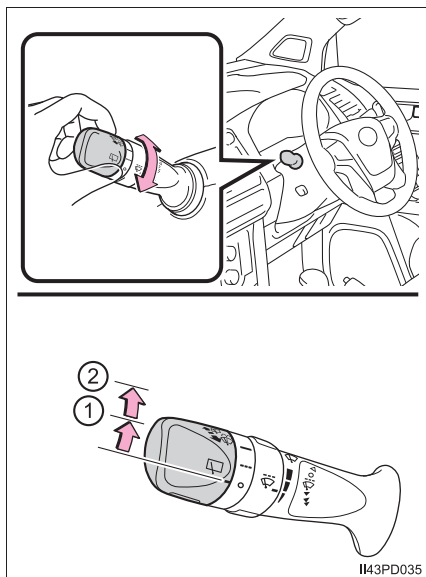
■ ノズルがつまったらときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

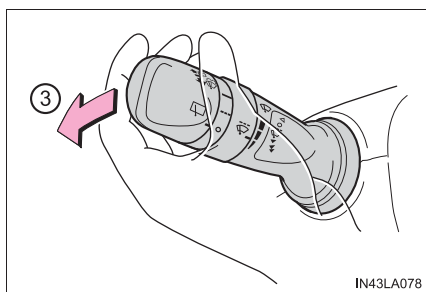
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

- ① 間欠作動（LO）
- ② 通常作動（HI）



- ③ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードで、バックドアガラス（→P. 109）が閉まっているとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 **注意****■ 窓ガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

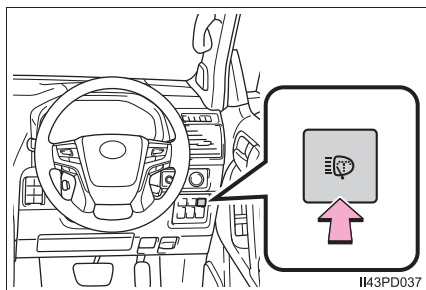
■ ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ヘッドランプクリーナー

ヘッドランプにウォッシャー液を噴射します。

スイッチを押してヘッドランプを洗淨する



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードでヘッドランプが点灯しているとき

■ フロントガラスウォッシャー連動作動

エンジンスイッチがイグニッションONモードでヘッドランプが点灯しているときに、フロントガラスのウォッシャーを作動させると、ヘッドランプクリーナーが1回作動します。(→ P. 203)

注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

▶ ガソリン車

無鉛レギュラーガソリン

▶ ディーゼル車

超低硫黄軽油 (S10ppm 以下)

■ エタノール混合燃料について (ガソリン車)

エタノール混合燃料 (エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下) も使用することができます。

 **警告****■ 給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

- 喫煙しないでください。

- 給油口にノズルを確実に挿入してください。

- 継ぎ足し給油をしないでください。

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 **注意****■ 給油するとき**

指定の燃料を使用してください。

指定以外の燃料（粗悪ガソリン・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

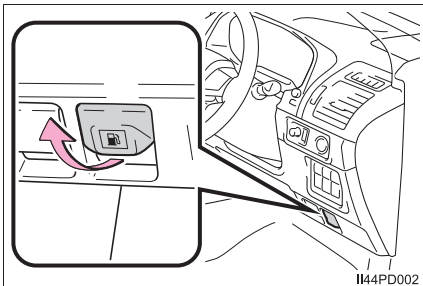
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する
- 排出ガス浄化装置が正常に機能しない（ディーゼル車）※

※ 指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。

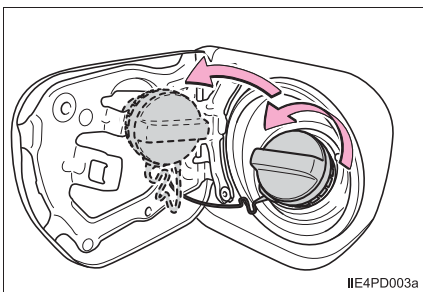
給油口の開け方

- 1 オープナーを上げて、給油口を開ける



IIE4PD002

- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける

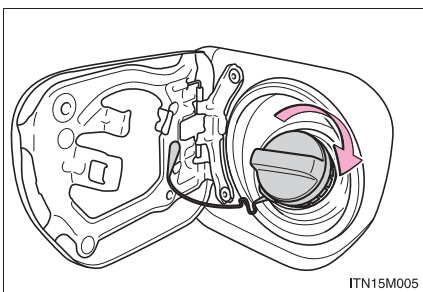


IIE4PD003a

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



ITN15M005

⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense P

Toyota Safety Sense P は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS (プリクラッシュセーフティシステム)

→ P. 221

◆ LDA (レーンディパーチャーアラート)

→ P. 231

◆ レーダークルーズコントロール

→ P. 240

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 196



警告

■ Toyota Safety Sense P について

Toyota Safety Sense P は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ・ カメラセンサーの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

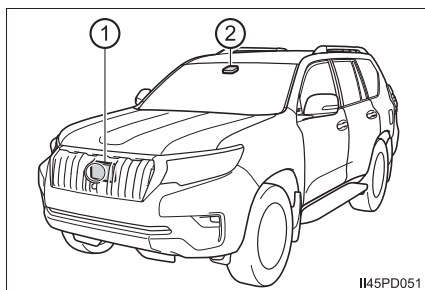
なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
 - ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
 - ・ トヨタが訴訟で使用する場合
 - ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。
- また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

- ① レーダーセンサー
- ② カメラセンサー



警告**■ レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。

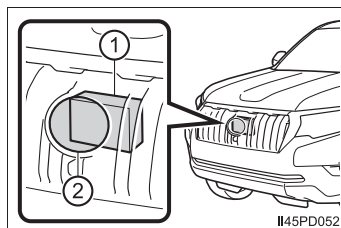
お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく

- ① レーダーセンサー
- ② フロントグリルエンブレム

レーダーセンサー前面やフロントグリルエンブレム前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。



- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けたら、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- レーダーセンサーを分解しない
- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしない
- レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■カメラセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

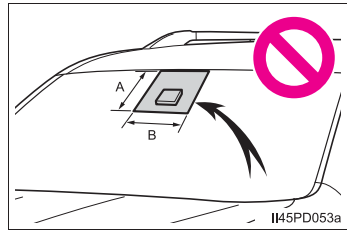
お守りいただかないと、カメラセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、カメラセンサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラス外側のカメラセンサー前部(図に示す範囲内)にステッカー(透明なものを含む)などを貼り付けない

A: フロントウインドウガラス上端からカメラセンサー下端より下約 1cm まで
B: 約 20cm (カメラセンサー中心から左右約 10cm)



- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く (→ P. 283)
- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーに強い光を照射しない

 **警告**

- カメラセンサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに強い衝撃を加えない
- カメラセンサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーなどのカメラセンサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、カメラセンサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、カメラセンサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 **知識****■ レーダーセンサーの取り扱い**

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

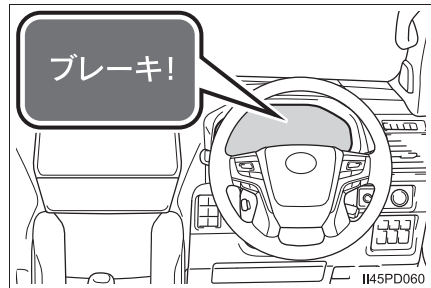
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 224）

◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

◆ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→ P. 450）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→ P. 226
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 228
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。


 **警告****■プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

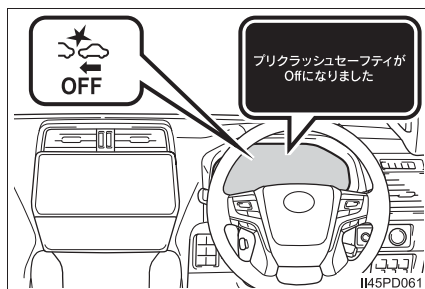
プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

■ プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF を変更する


マルチインフォメーションディスプレイの (→ P. 81) から、プリクラッシュセーフティシステムの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの (→ P. 81) から、プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更することができます。

エンジンスイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。

① 遠い

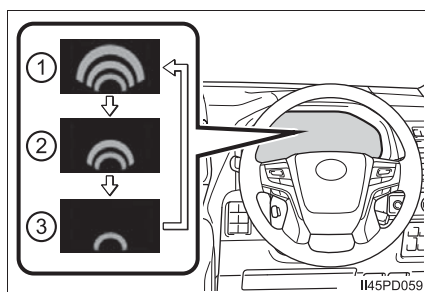
「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる



知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h (検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h)
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 自車速度約 30 ～ 180km/h (検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ～ 80km/h)
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

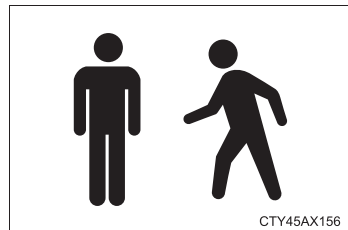
- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h (検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h)
 - ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上
- ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC が OFF のとき (衝突警報のみ作動可能状態になります)
- L4 作動表示灯が点灯しているとき (衝突警報のみ作動可能状態になります)

■ 歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。(→ P. 230)



■ プリクラッシュブレーキの作動解除

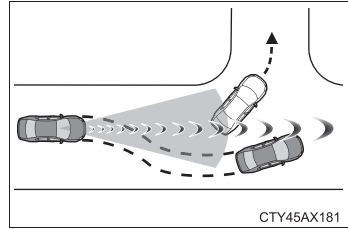
プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

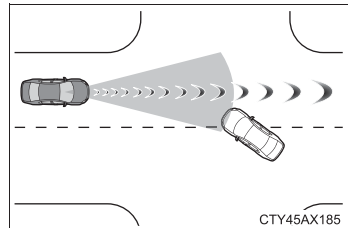
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

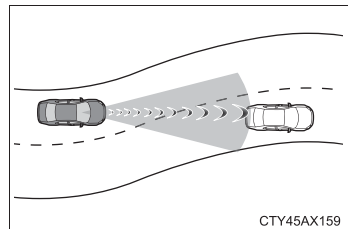
- ・ 車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して先行車を追いこすとき
- ・ 車線変更している先行車を追い抜くとき
- ・ 右左折する先行車を追いこすとき



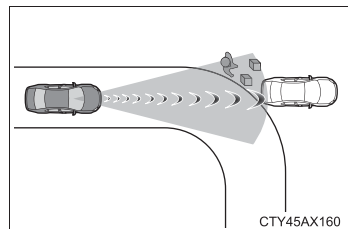
- ・ 右左折待ちの対向車とすれ違うとき



- ・ 隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

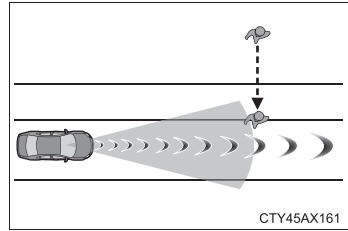


- ・ 前方車両に急接近したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

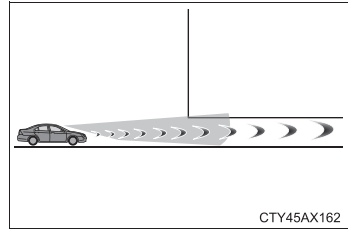


- ・ 道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
- ・ 路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき

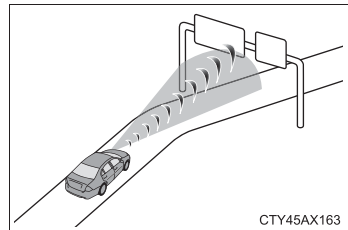
- ・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき



- ・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき

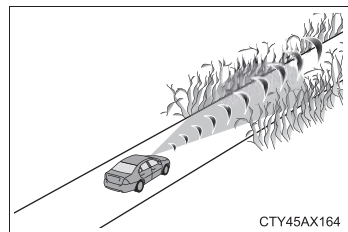


- ・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



- ・ETCゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
- ・洗車機を使用するとき

- ・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

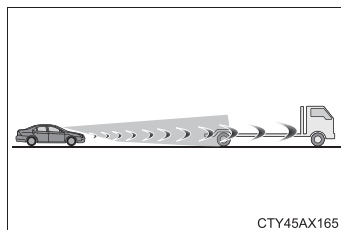


- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・路面または壁面に車両や歩行者との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

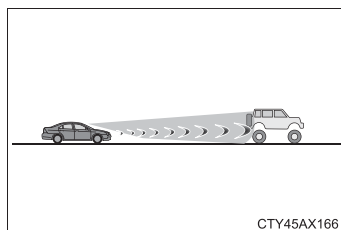
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

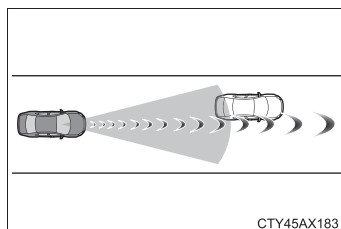
- ・前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
- ・前方車両がオートバイ・自転車のとき
- ・車両の側面または前面に近付いたとき
- ・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



- ・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

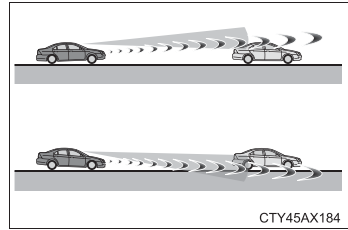


- ・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- ・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
- ・前方車両と自車の中心がずれているとき



- ・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）

- ・強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき
- ・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
- ・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・右左折中および右左折後の数秒間
- ・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・自車が横すべりしているとき
- ・車両姿勢が変化しているとき



- ・ホイールアライメントがずれているとき
 - ・ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
 - ・ふらつき運転をしているとき
 - ・過度な高速走行をしているとき
 - ・坂道を走行しているとき
 - ・前方センサーの向きがずれているとき
- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
- ・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
 - ・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
 - ・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

- 例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 身長が約 1m 以下、または約 2m 以上の歩行者
 - ・ 合羽・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
 - ・ 大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
 - ・ 前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
 - ・ ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
 - ・ 集団でいる歩行者
 - ・ 白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
 - ・ 夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
 - ・ 服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
 - ・ 壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
 - ・ 路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
 - ・ 歩く速度が速い歩行者
 - ・ 歩く速度を急激に変化させている歩行者
 - ・ 物陰から飛び出してきた歩行者
 - ・ 車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■ PCS 警告灯が点滅または点灯、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
 - ・ 炎天下などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が高いとき
 - ・ 極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
 - ・ 前方センサーの周辺に雪や汚れなどが付着しているとき
 - ・ カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：
→ P. 283）
 - ・ ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスのカメラセンサー付近にシールが貼り付けられているときなど、カメラセンサーの前方がさえぎられているとき
- 状況が改善されても PCS 警告灯が点滅または点灯、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ VSC を停止したとき

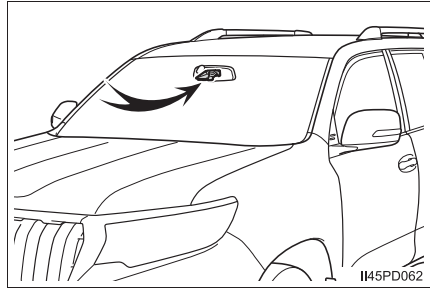
- VSC の作動を停止（→ P. 266）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA (レーンディパーチャーアラート) ※

機能概要

白 (黄) 線が整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

LDA は、フロントウィンドウガラス上部のカメラセンサーで、白 (黄) 線を認識します。

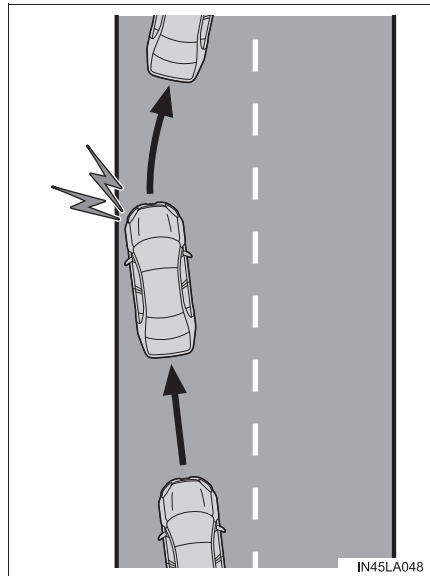


LDA に含まれる機能

◆ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

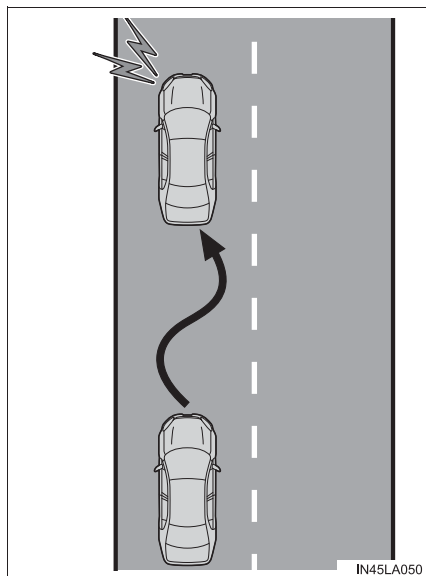
警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白 (黄) 線内の中央付近にもどってください。



※ : 車線逸脱警報

◆ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



⚠ 警告

■ LDA をお使いになる前に

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **警告****■ 誤作動を防ぐために**

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。

システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき

■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

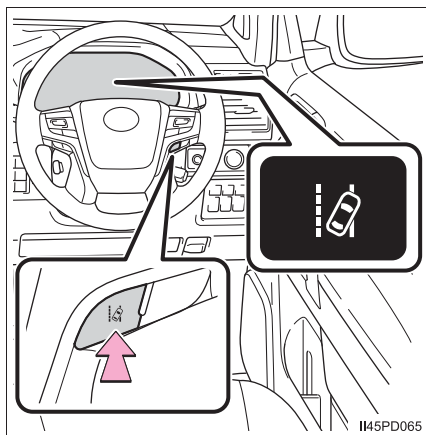
設定のしかた

LDA を ON するには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯します。

OFF には、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON / OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



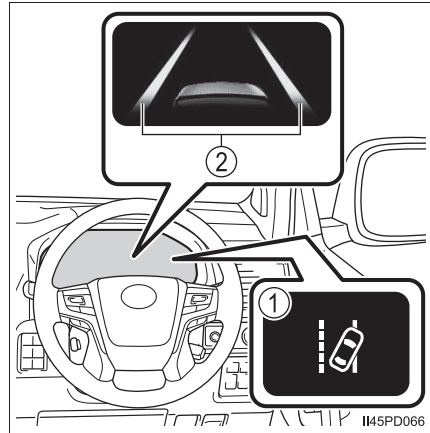
マルチインフォメーションディスプレイ表示

① LDA 表示灯

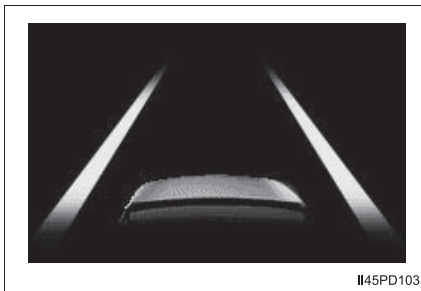
システムがONになっているときに点灯します。

② 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

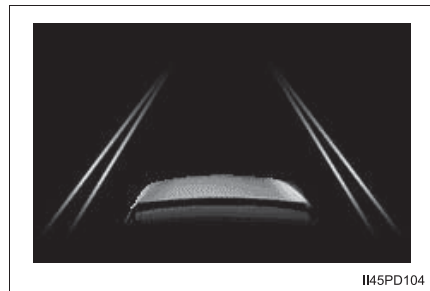


▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白（黄）線を認識しているとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 238）

● ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの「設定」で「ふらつき検知」を「On」に設定しているとき（→ P. 431）
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 238）

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 236）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■ 白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋸）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が消灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
「LDA 故障 販売店で 点検してください」	システムが正常に作動しなくなっているおそれがある → トヨタ販売店で点検を受けてください。
「前方カメラシステム 利用不可 フロントガラス汚れを 取ってください」	カメラセンサーの前のフロントウインドウガラスの汚れ・雨滴・結露・氷雪などが付着している → いったん LDA を OFF にして、汚れ・雨滴・結露・氷雪などを取り除いてから、再度 LDA を ON にしてください。
「前方カメラシステム 一時使用不可 少々お待ちください」	カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされていない → カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされると、LDA は使用可能になります。いったん LDA を OFF にして、しばらく待ってから、再度 LDA を ON にしてください。
「LDA 現在使用できません」	カメラセンサー以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している → いったん LDA を OFF にして、警告メッセージの内容に対処したあと、しばらくしてから再度、LDA を ON にしてください
「LDA 約 50km/h 以下で 使用できません」	車速が約 50km/h 以下のため LDA が使用できません → 約 50km/h より速い速度で走行してください。

その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報	警報感度
ふらつき警報機能	機能の ON / OFF
	警報感度

設定変更のしかたは、P. 431 を参照してください。

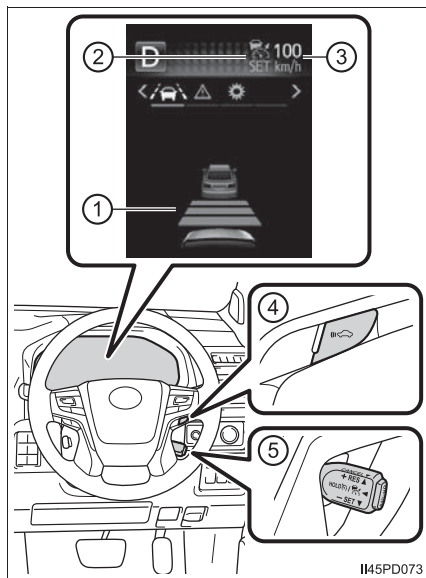
レーダークルーズコントロール

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード (→ P. 243)
 - 定速制御モード (→ P. 248)
- ① マルチインフォメーションディスプレイ
 - ② 表示灯
 - ③ 設定速度
 - ④ 車間距離切りかえスイッチ
 - ⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ



 **警告****■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながる恐れがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

 **警告****■ 誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときはON-OFFスイッチでシステムをOFFにしてください。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

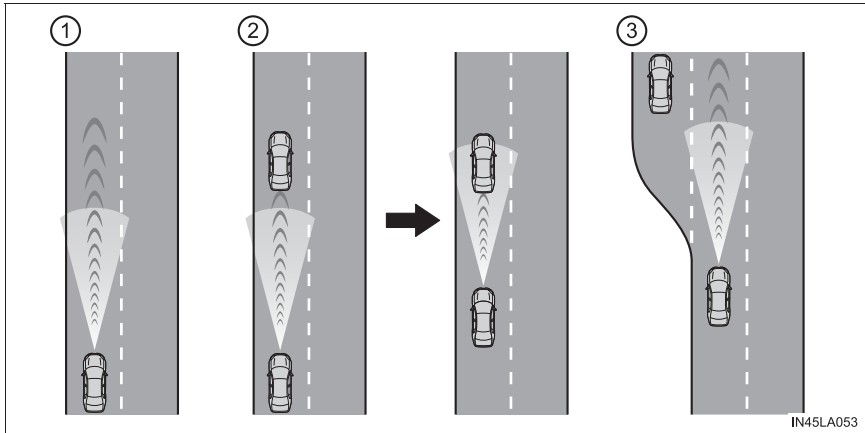
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
- トレーラー、または車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約100m以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



① 定速走行： 先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行一追従走行： 設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化にあわせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

③ 加速走行： 設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

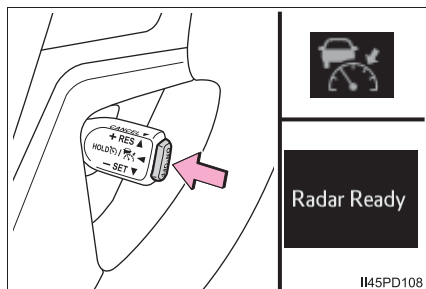
速度を設定する（車間制御モード）

- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF には再度スイッチを押します。

ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→ P. 248）

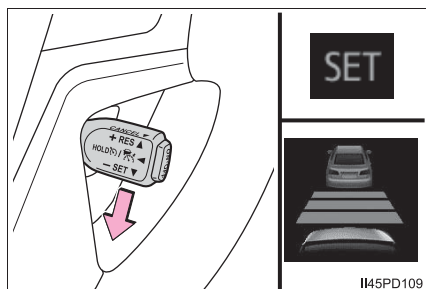


II45PD108

- 2 希望の車速（約 50km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



II45PD109

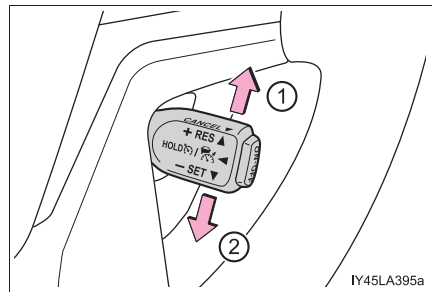
設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

- ① 速度を上げる
- ② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 248）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

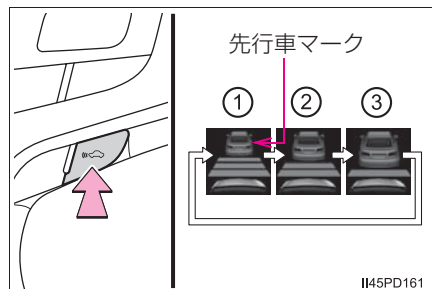
車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

- ① 長い
- ② 中間
- ③ 短い

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするたびに車間距離は ①にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

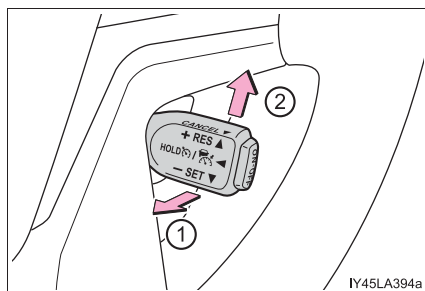
（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御を解除する・復帰させる

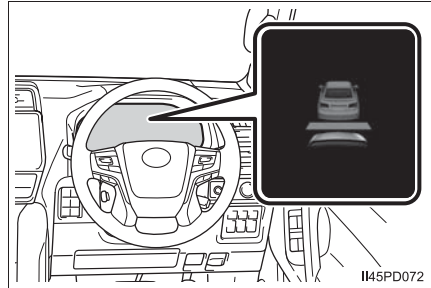
- ① 制御を解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
- ② 制御を復帰させるには、レバーを上げる
ただし、車速が約 40km/h 以下の時は復帰しません。



IY45LA394a

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

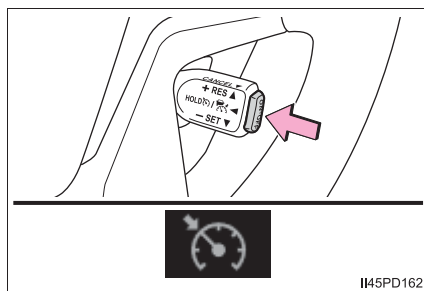
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切り替えが可能です。



II45PD162

- 2 希望の車速（約 40km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げた速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

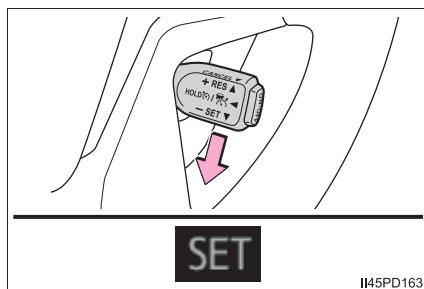
レバーを離れたときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる

→ P. 245

制御を解除する・復帰させる

→ P. 246



II45PD163

 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- 車速が約 50km/h 以上のとき設定できます。

■ 速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車速が約 40km/h 以下になったとき
 - VSC が作動したとき
 - アクティブ TRC が一定時間作動したとき
 - アクティブ TRC または VSC を OFF にしたとき
 - 走行モードをセカンドスタートモードにセットしたとき
 - センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
 - ブリクラッシュブレーキが作動したとき
 - センターデフロックへの切りかえ操作後に、切りかえ作動が約 5 秒以上続いた
- その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
 - 車速が約 40km/h 未満になったとき
 - VSC が作動したとき
 - アクティブ TRC が一定時間作動したとき
 - アクティブ TRC または VSC を OFF にしたとき
 - ブリクラッシュブレーキが作動したとき
 - センターデフロックへの切りかえ操作後に、切りかえ作動が約 5 秒以上続いた
- その他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

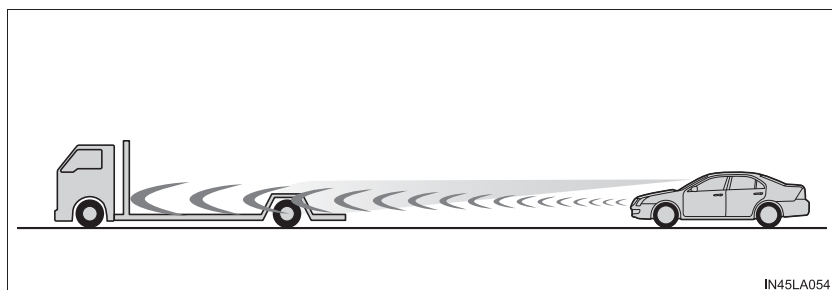
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

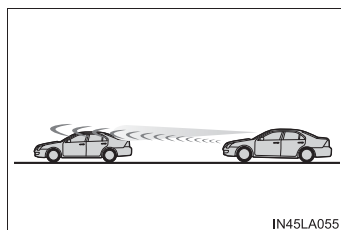
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 247）も作動しないおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



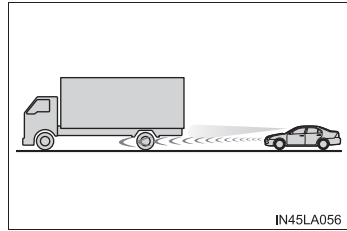
IN45LA054

- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



IN45LA055

- 先行車の車高が極端に高いとき

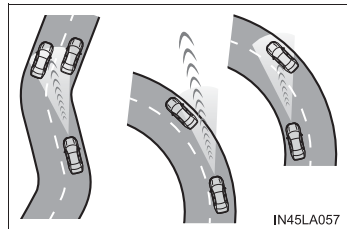


■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

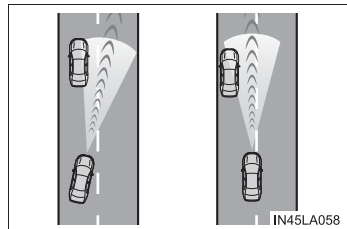
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



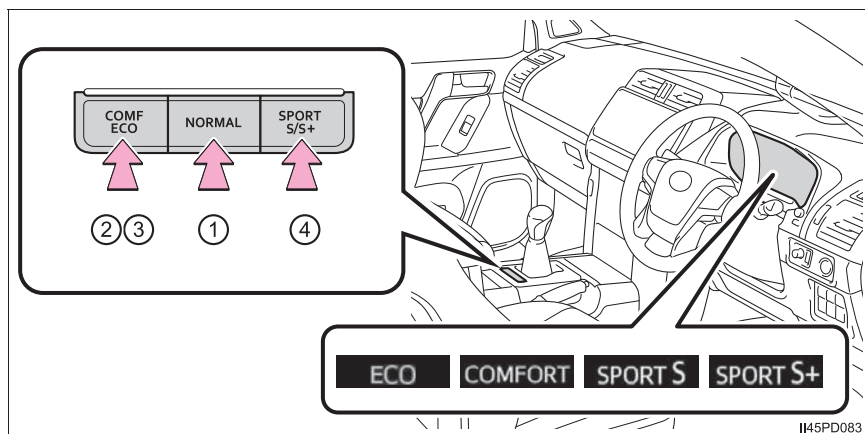
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- 先行車が急ブレーキをかけた場合

ドライブモードセレクトスイッチ★

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。



① ノーマルモード

通常の走行に適しています。

ノーマルモード以外の際に“NORMAL”スイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

② コンフォートモード

サスペンションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。

コンフォートモード以外の際に“COMF ECO”スイッチを押すとコンフォートモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「COMFORT」と表示されます。

③ エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

コンフォートモードの際に“COMF ECO”スイッチを押すとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「ECO」と表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

④ スポーツモード

・スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速をしたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときに“SPORT S/S+”スイッチを押すとスポーツ S モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S」と表示されます。

・スポーツ S +モード

トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、スポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときに“SPORT S/S+”スイッチを押すとスポーツ S +モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S +」と表示されます。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。(→ P. 282)

■スポーツモードの自動解除

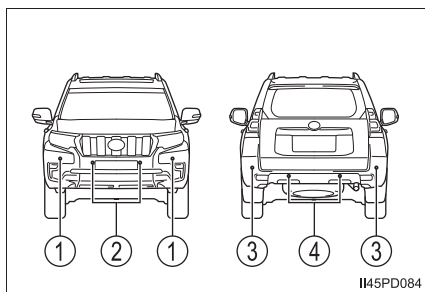
スポーツモードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面★の距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

センサーの位置・種類

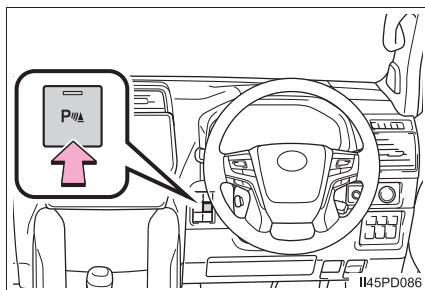
- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ バックセンサー



クリアランスソナースイッチ

ON / OFF

OFF にはするには再びスイッチを押します。

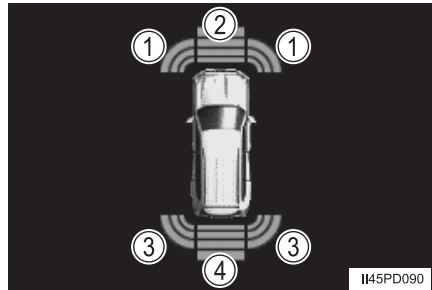


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの表示のしかた

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

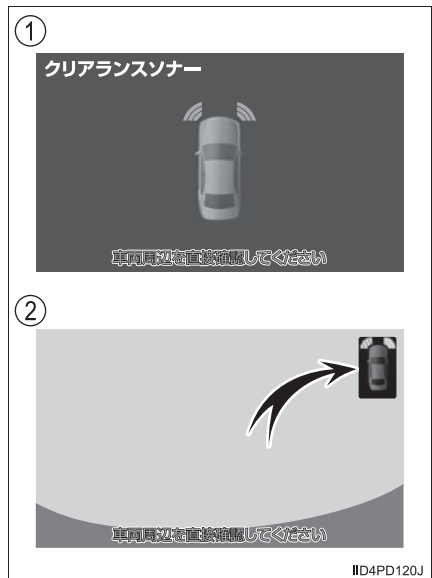
- ① フロントコーナーセンサー作動表示
- ② フロントセンサー作動表示
- ③ リヤコーナーセンサー作動表示
- ④ バックセンサー作動表示



■ ナビゲーション画面の表示★









障害物を感知すると自動的に表示されます。

- ① クリアランスソナー表示
バックガイドモニター・マルチディスプレイモニター★非表示時
表示されないように設定することができます。(→ P. 259)
- ② 割り込み表示
バックガイドモニター・マルチディスプレイモニター★表示時
画面上に簡略表示されます。
(右の画面はバックガイドモニターの場合です)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

距離表示の見方

通常表示	割り込み表示	障害物までのおおよその距離	
		フロントコーナー& フロントセンサー	リヤコーナー& バックセンサー
 (点灯)	 (遅い点滅)	フロントセンサー： 100cm ~ 60cm	バックセンサー： 150cm ~ 65cm
 (点灯)	 (点滅)	コーナーセンサー： 60cm ~ 40cm フロントセンサー： 60cm ~ 45cm	コーナーセンサー： 50cm ~ 40cm バックセンサー： 65cm ~ 50cm
 (点灯)	 (速い点滅)	コーナーセンサー： 40cm ~ 30cm フロントセンサー： 45cm ~ 30cm	コーナーセンサー： 40cm ~ 30cm バックセンサー： 50cm ~ 40cm
 (点滅 ^{※1} または 点灯 ^{※2})	 (点灯)	30cm 以下	コーナーセンサー： 30cm 以下 バックセンサー： 40cm 以下

※1 マルチインフォメーションディスプレイ

※2 ナビゲーション画面★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。

- ・ フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
- ・ フロントセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
- ・ リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 25cm 以下
- ・ バックセンサーが感知した障害物との距離が約 40cm 以下

- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ ピー」をくり返します。
- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。

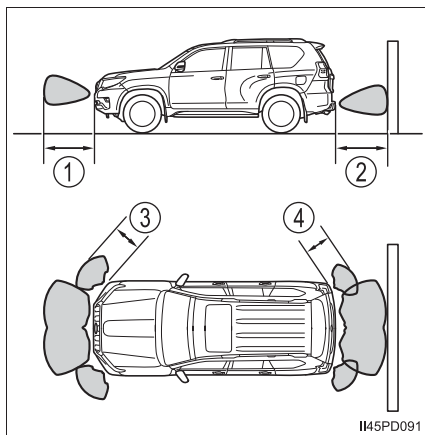
- ナビゲーションシステム装着車：→ P. 259
- ナビゲーションシステム非装着車：→ P. 431

障害物を感知できる範囲

- ① 約 100cm
- ② 約 150cm
- ③ 約 60cm
- ④ 約 50cm

感知できる範囲は右図のとおりです。
ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



音声案内・ナビゲーション画面表示・ブザーの設定 (ナビゲーションシステム装着車のみ)

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

- 1 画面外の「設定・編集」を押す
- 2 画面内の「運転支援」を選択する
- 3 画面内の「クリアランスソナー設定」を選択する

■ ブザー音量設定

設定したい音量を選択する

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON・OFF (ソナー表示)

画面内の「ソナー表示なし」を選択する

- 選択するごとに、「表示される」と「表示されない」が切りかわります。
- 「表示されない」にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の「切換え」を選択する

- フロントセンサー：
選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 100cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。
- バックセンサー：
選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 150cm 以内）と「近」（黄色、約 65cm 以内）に切りかわります。

フロントセンサー・バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

 知識

■ 作動条件

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが P 以外にあるとき
 - ・ 車両の速度が約 10km/h 以下のとき (シフトレバーが R にあるときは除く)
- フロントセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが P・R 以外にあるとき
 - ・ 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー・バックセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが R にあるとき

■ センサーの感知について

- センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。
- センサーが障害物に近づきすぎると感知できないことがあります。
- 障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 25cm 以内に接近するおそれがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ソナー汚れ」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ソナー故障」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

 **警告****■ クリアランスソナーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- センサーが感知する範囲にはアクセサリ用品などを取り付けしないでください。

 **警告****■ センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

 **警告****■ 正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

 **注意****■ クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ・ 障害物を感知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- ・ センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- ・ バンパーをぶつけたとき
- ・ ブザー音がしないのに表示が点灯したままのとき

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ マルチテレイン ABS（アンチロックブレーキシステム）★

→別冊「オフロード走行取扱書」

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）※¹

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ アクティブ TRC（トラクションコントロール）※²

→別冊「オフロード走行取扱書」

◆ ヒルスタートアシストコントロール★

→別冊「オフロード走行取扱書」

◆ KDSS（キネティックダイナミックサスペンションシステム）★

→別冊「オフロード走行取扱書」

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ PCS (プリクラッシュセーフティシステム)

→ P. 221

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

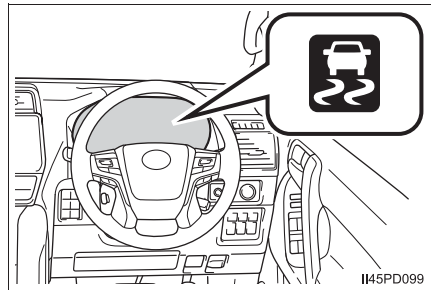
※¹ トランスファースイッチが H4 のとき

※² トランスファースイッチが L4 のとき

ただし、マルチテレインセレクト装着車は、マルチテレインセレクトが ON のときのみ作動します。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

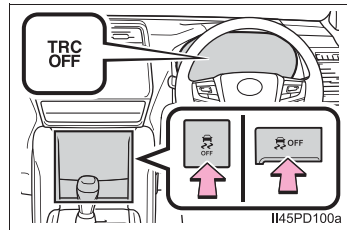
知識

■ TRC を停止するには

TRC を停止するには VSC OFF スイッチを押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に VSC OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。*

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

* プリクラッシュブレーキ、プリクラッシュブレーキアシスト (→ P. 221) も停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P. 230)

■ VSC OFF スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみ作動を停止している場合) 車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ TRC が長時間作動すると

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、TRC が自動的に解除されます。この場合、TRC OFF 表示灯が点灯します。(通常走行は可能です)

しばらくして、TRC OFF 表示灯が消えれば TRC が作動可能になります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■ ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABSの作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABSの作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ KDSS について

KDSSシステムにより左右の車高に若干の差が発生する事がありますが、異常ではありません。

詳細は販売店までお問い合わせください。

警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

 **警告****■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 429）異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

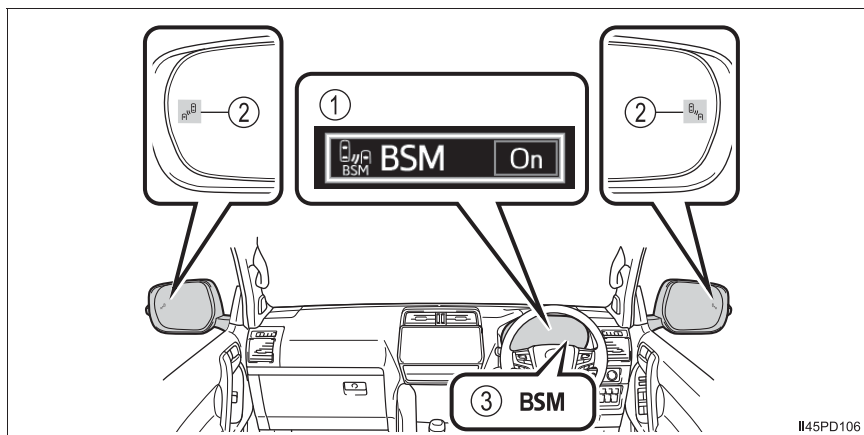
■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターは、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

レーダーセンサーにより、隣の車線のドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによって車両の存在を知らせます。



II45PD106

- ① マルチインフォメーションディスプレイ
ON のときはメーターに BSM 表示灯が点灯します。
- ② ドアミラーインジケーター
死角領域に車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。
検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。
- ③ BSM 表示灯
BSM 機能の ON / OFF を切り替えます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

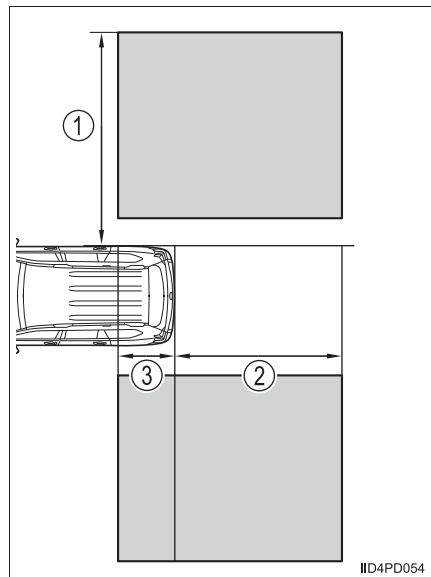
設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチで、 を選択する。
- 2 「 BSM」を選択し、 を押す。
- 3 「BSM」を選択し、 を押す。
 を押すたびに ON / OFF が切りかわります

ブラインドスポットモニターが検知できる範囲

死角領域となる、次の範囲に入った車両を検知します。

- ① 車両側面から外側に約 3.5m
 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません
- ② 車両後端から後方に約 3m
- ③ 車両後端から前方に約 1m



知識

■ ブラインドスポットモニターの作動条件

ブラインドスポットモニターの機能を ON に設定している状態で、車速が約 16km/h 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型の二輪車・自転車・歩行者など[※]
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物[※]
- 同じ車線を走行する後続車[※]
- 2つ隣の車線を走行する他車[※]

[※] 状況によっては検知をすることがあります。

■ ブラインドスポットモニター機能が有効に作動しないおそれがある状況

- ブラインドスポットモニター機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さ差に差がありすぎるとき
 - ・ ブラインドスポットモニターの機能を ON に設定した直後
- ブラインドスポットモニター機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

■ ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケータが見えづらいことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 使用できません」が表示されたときは

電圧異常やセンサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます（→ P. 275）。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM システムチェック」が表示されたときは

センサーの故障や位置、向きのはずれなどが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

 **警告**

■ **安全にお使いいただくために**

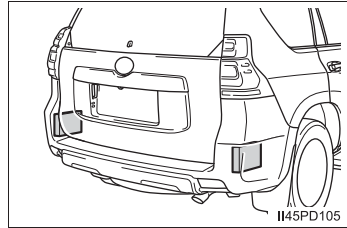
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、死角に入った車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認を行う必要があります。

警告

■ レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両後部に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- センサー周辺のバンパーは常にきれいにしておく
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
 センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
 次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
 - ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部がはずれている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のバンパーにステッカーを貼らない
- センサーやセンサー周辺のバンパーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください
- 本製品は各国の電波法に適合しています。製品に貼られているシールはその証明ですので、剥がさないでください。
 製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
 - ・ 燃料（ディーゼル車）
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。
 - ・ タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 327）
 - ・ タイヤチェーンは、必ずランドクルーザープラド指定のトヨタ純正品を使用してください。（→ P. 279）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウィンドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただしにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については、次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ~ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ ディーゼル車の燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分以上にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安 [※]
JIS 2 号軽油	- 5℃
JIS 3 号軽油	- 12℃
JIS 特 3 号軽油	- 19℃

※ 環境や使用状況により異なります。

■ リヤライトコントロールエアサスペンション[※] 装着車は

寒冷時は、リヤライトコントロールエアサスペンションの作動に制限がかかる場合があります。

※ リヤライトコントロールエアサスペンションについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

⚠ 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

- 必ずランドクルーザープラド指定のトヨタ純正品を使用してください。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■ フロントウィンドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコン・デフォグガーの
使い方

オートエアコン	282
シートヒーター & ベンチレーター	288

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	290
・フロント パーソナルランプ	291
・ルームランプ	292
・読書灯	292
・ラウンジ照明調光 スイッチ	293

5-3. 収納装備の使い方

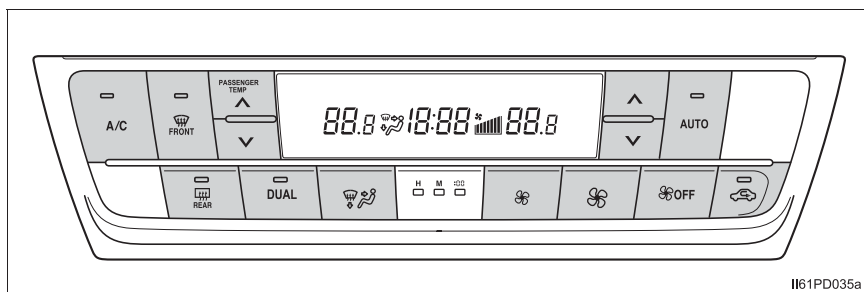
収納装備一覧	295
・グローブボックス	296
・コンソールボックス	297
・カップホルダー／ ボトルホルダー／ ドアポケット	299
・小物入れ	302
・オープントレイ	303
・カードホルダー	304
ラゲージルーム内装備	305

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	309
・クールボックス	309
・サンバイザー	311
・バニティミラー	311
・後席確認ミラー	312
・時計	313
・アクセサリーソケット・ アクセサリーコンセント	314
・アームレスト (セカンドシート)	317
・コートフック	317
・アシストグリップ	318

オートエアコン



設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。




■ 温度を調整する


設定温度を上げるときは “ ^ ” を、下げるときは “ v ” を押す

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは  を、減らすときは  を押す

 OFF を押すと、ファンがとまります。


■ 吹き出し口を切りかえる

 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

エアコン操作について

■ オート設定で使用する

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 ファンをとめたいときは  OFF を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- DUAL スイッチを押す
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

左右独立モードのとき、リヤ吹き出し口の設定温度は、運転席側の設定温度になります。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す


スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ フロントガラスの曇りを取るには


を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグター & ミラーヒーター

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときにご使用ください。

を押す

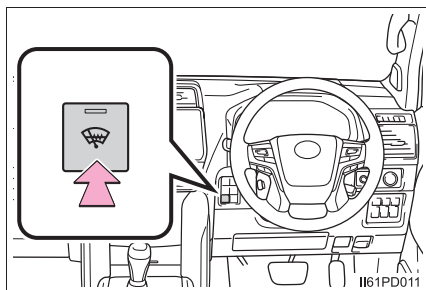
リヤウインドウデフォグターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ フロントワイパーデアイサー★

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにご使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



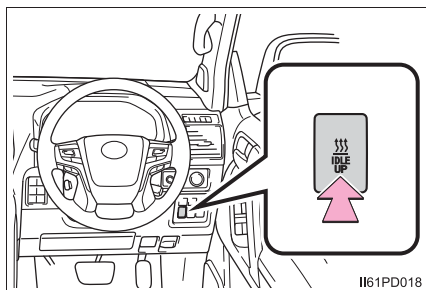
■ ヒーターアイドルアップ機能★

寒冷時に暖房効果を高めるためにご使用ください。

ヒーターアイドルアップスイッチを押す

アイドル回転数が上がります。もう一度スイッチを押すと、もとのアイドル回転数にもどります。

スイッチを押した状態でエンジン停止後にエンジンを再始動すると、アイドル回転数が上がります。

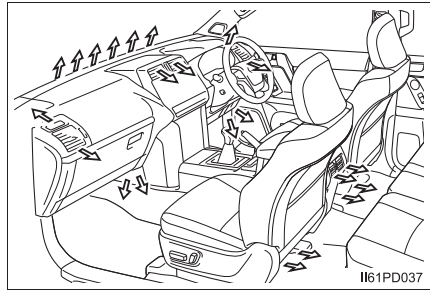


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

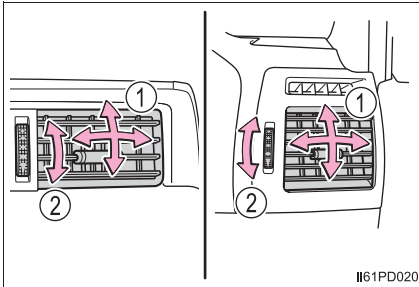
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。

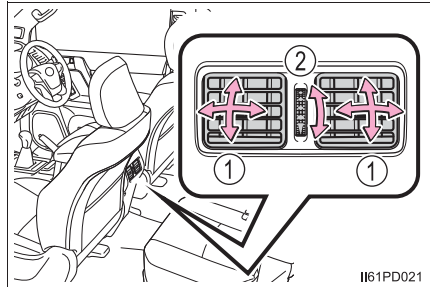


■ 風向き調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント



▶ リヤ



- ① 風向き調整
- ② 吹き出し口の開閉

 知識**■ オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内気循環／外気導入について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車室内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

A/C スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について（ドライブモードセレクトスイッチ装着車）

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
 - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ 風量を調整する。
 - ・ エコドライブモードを解除する。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 347

■ 設定可能な機能

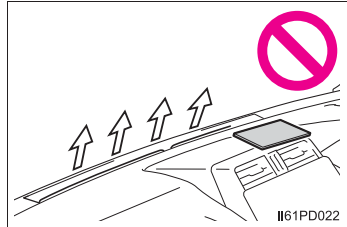
AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。

(カスタマイズ一覧→ P. 431)

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、**FRONT** を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■ リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー作動中の警告

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。(フロントワイパーデアイサー装着車)

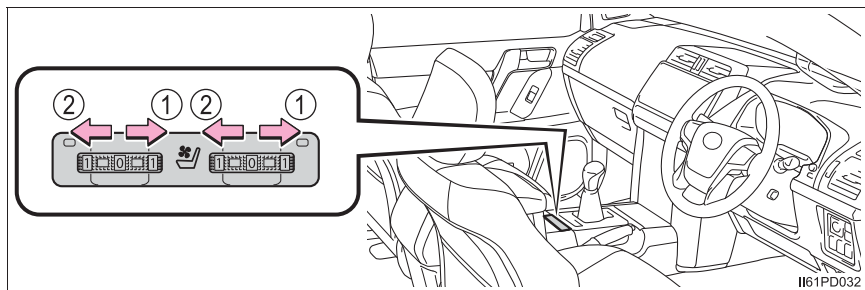
⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

シートヒーター & ベンチレーター★

フロントシートを暖めたり、フロントシートから風を出して通気をよくできます。



- ① シートを暖める
表示灯が点灯します。
数字が大きくなるほど高温になります。
- ② シートから風を出す
表示灯が点灯します。
数字が大きくなるほど風が強くなります。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON モードのとき

■ フィルターについて

ベンチレーターにはフィルターが入っています。交換の際はトヨタ販売店にご相談ください。

■ 使用しないときは

ノブを “0” にもどしてください。表示灯が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

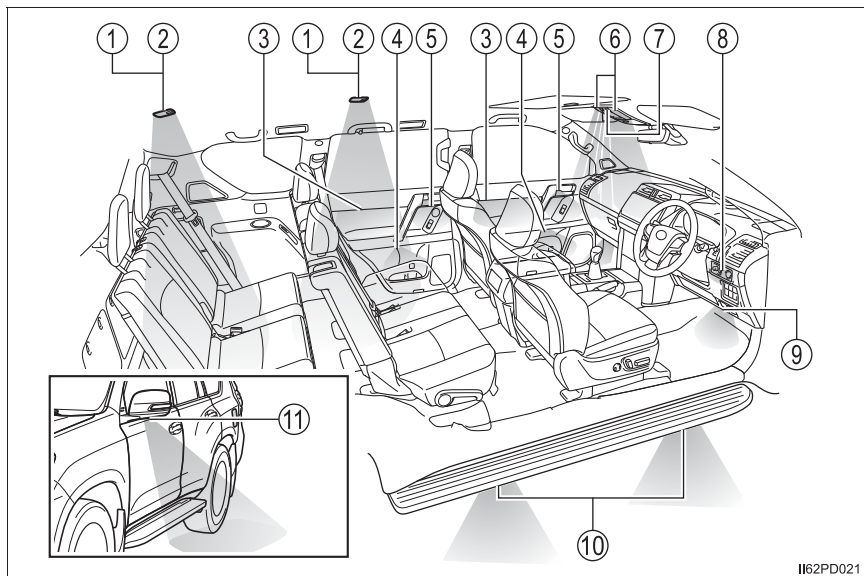
 **警告**

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

 **注意**

- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが停止した状態で使用しないでください。

室内灯一覧



I162PD021

- ① ルームランプ★ (→ P. 292)
- ② 読書灯★ (→ P. 292)
- ③ ドアトリム照明★ ※
- ④ ドアポケット照明★ ※
- ⑤ インサイドドアハンドル照明★ ※
- ⑥ フロントパーソナルランプ (→ P. 291)
- ⑦ センターコンソールイルミネーション★
- ⑧ エンジンスイッチ照明
- ⑨ 足元照明★ ※
- ⑩ サイドステップ照明★
- ⑪ ドアミラー照明★

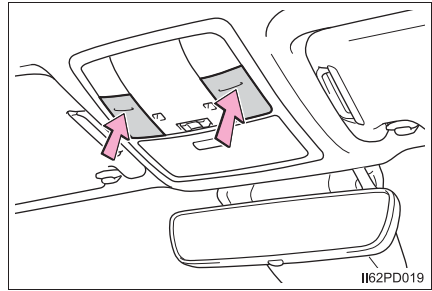
※ ラウンジ照明調光スイッチ (→ P. 293) で、明るさを調整できます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントパーソナルランプ

■ 独立スイッチでの操作

ランプを点灯・消灯する

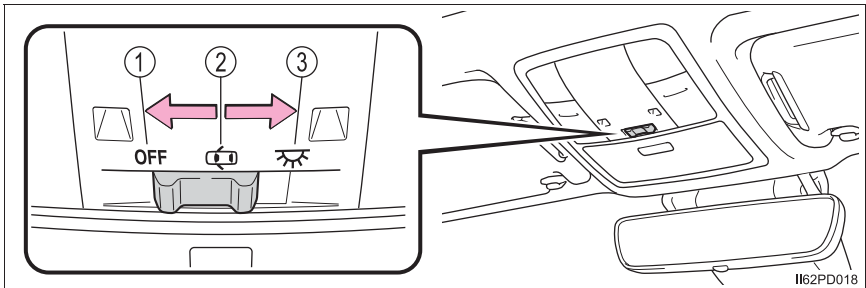


■ 連動スイッチでの操作

フロントパーソナルランプの連動スイッチを操作すると、ルームランプ※¹ または読書灯※² も連動して作動します。

※¹ ルームランプのスイッチがドアポジションのときに連動します。
(→ P. 292)

※² 読書灯のスイッチが OFF のときに連動します。(→ P. 292)

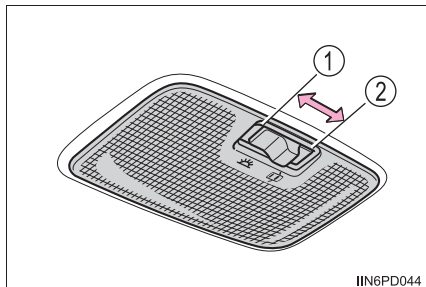


- ① ランプを消灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）を ON にする
ドアを開けると点灯し、ドアを閉めると消灯します。
- ③ ランプを点灯する

ルームランプ★

- ① ランプを点灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）を ON にする

フロントパーソナルランプの連動スイッチに連動して作動します。
 (→ P. 291)



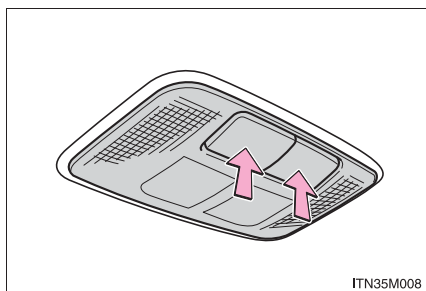
IIN6PD044

読書灯★

押すたびにスイッチの ON / OFF が切りかわります。

- ・ ON :
ランプを点灯する
- ・ OFF :
フロントパーソナルランプの連動スイッチに連動して作動する
(→ P. 291)

連動スイッチによって点灯しているときは、読書灯のスイッチで消灯することはできません。



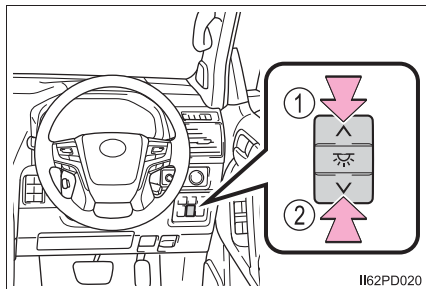
ITN35M008

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラウンジ照明調光スイッチ★

次の照明の明るさを調整することができます。

- インサイドドアハンドル照明
 - ドアトリム照明
 - ドアポケット照明
 - 足元照明
- ① 明るくする
 - ② 暗くする



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明^{*}が自動的に点灯・消灯します。

^{*} フロントパーソナルランプとルームランプの両方共に、スイッチの位置がドアポジション (☞) のときに作動します。

■ 自動消灯機能

エンジンスイッチが OFF の場合、次の照明が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

- フロントパーソナルランプ
- ルームランプ[★]
- ドアトリム照明[★]
- ドアポケット照明[★]
- インサイドドアハンドル照明[★]
- 足元照明[★]

■ カスタマイズ機能

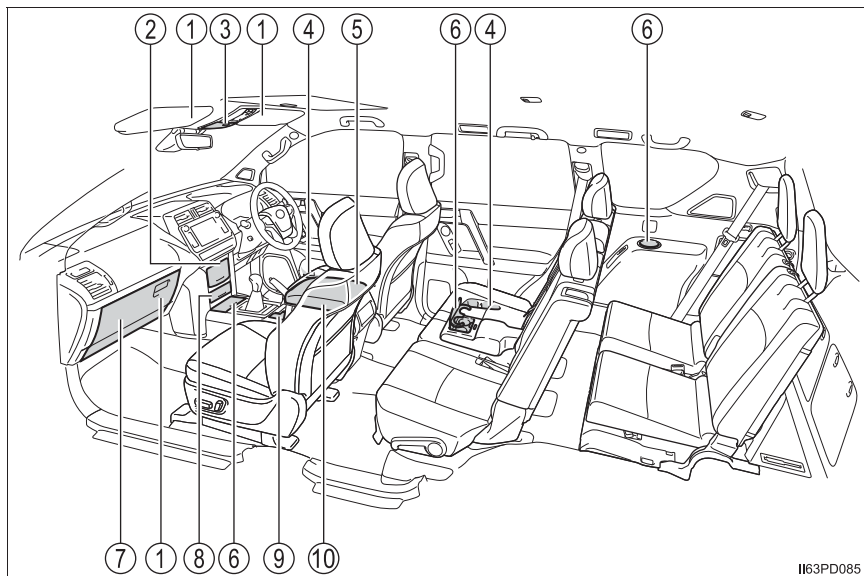
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 435)

 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

[★]：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



- ① カードホルダー (→ P. 304)
- ② センターボックス★ (→ P. 302)
- ③ オーバーヘッドコンソールボックス (後席確認ミラー付き)
(→ P. 302)
- ④ ボトルホルダー (→ P. 300)
- ⑤ ドアポケット (→ P. 300)
- ⑥ カップホルダー (→ P. 299)
- ⑦ グローブボックス (→ P. 296)
- ⑧ インstrumentパネルボックス★ (→ P. 302)
- ⑨ オープントレイ★ (→ P. 303)
- ⑩ コンソールボックス (エアコン送風機能付き)★ (→ P. 297) / クールボックス★ (→ P. 309)

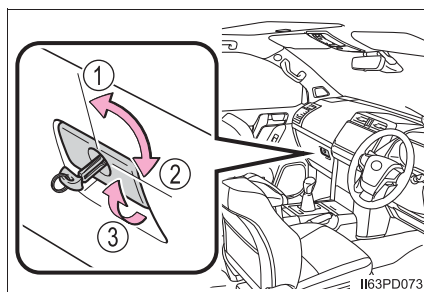
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
 放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
 急ブレーキや急回転時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

- ① メカニカルキーで解錠
- ② メカニカルキーで施錠
- ③ 開ける（レバーを引き上げる）



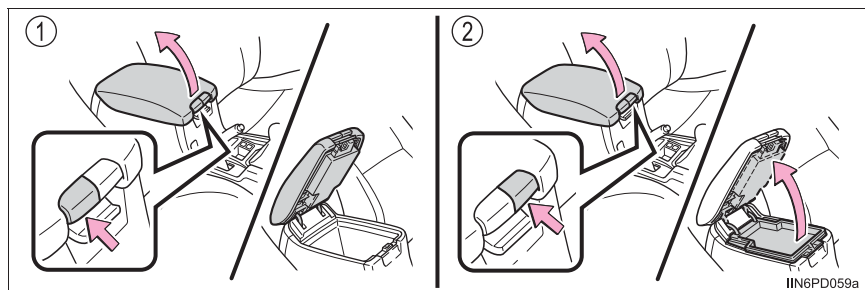
知識

- 車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。
- グローブボックス内に、カードホルダーがあります。（→ P. 304）

コンソールボックス（エアコン送風機能付き）★

コンソールボックスには、保冷機能が付くタイプ（クールボックス）と付かないタイプがあります。

クールボックスについては、P. 309 を参照してください。



左右いずれかのノブを引き上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

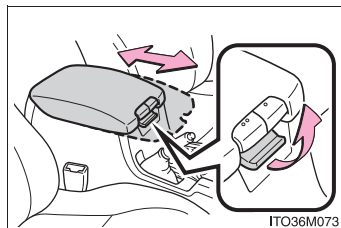
- ① 中間トレイごと開くとき
- ② フタのみを開くとき

中間トレイは持ち上げて開くことができます。

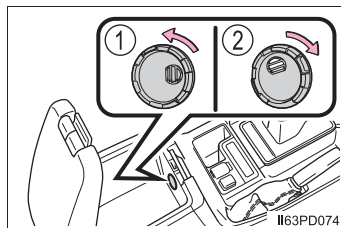
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

- コンソールボックスのフタをアームレストとして使うときは、レバーを引き上げ、フタを前後にスライドして位置を調整できます。



- A/C スイッチ(→ P. 282)が ON のとき、エアコンの冷風をコンソールボックス内へ送風することができます。また、送風開閉ダイヤルで送風機能の ON / OFF 切りかえが可能です。(エアコン送風機能)



- ① 開ける
- ② 閉じる

- 入れるものとして適さないもの
 - ・ フタがされていない容器に入ったもの
 - ・ 割れもの・腐るもの・臭いが強いもの
 - ・ 取扱書・車検証・電子機器・CD など

注意

コンソールボックスのフタや中間トレイが閉まらない、またはフタだけを閉めようとしても中間トレイが一緒に持ち上がってしまうときは、次のことを確認してください。

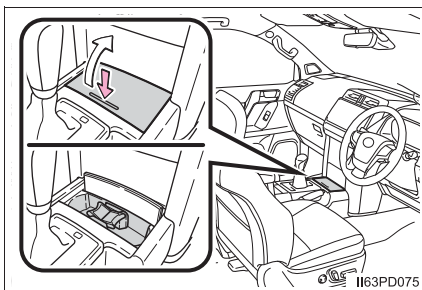
無理に操作すると、コンソールボックスや収納物などの損傷につながるおそれがあります。

- コンソールボックスに収納したものが中間トレイに干渉していないか
- 中間トレイに収納したものがコンソールボックスのフタに干渉していないか

カップホルダー／ボトルホルダー／ドアポケット

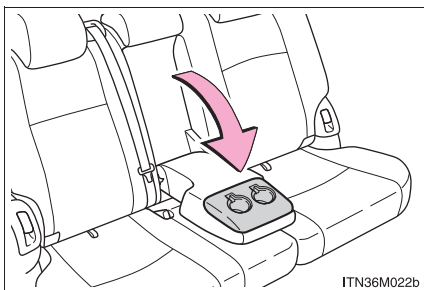
■ カップホルダー★

▶ フロントシート



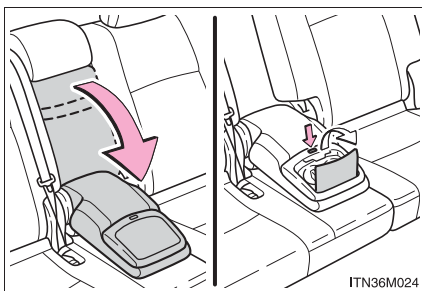
フタの手前側を押して開ける

▶ セカンドシート (5人乗り車)



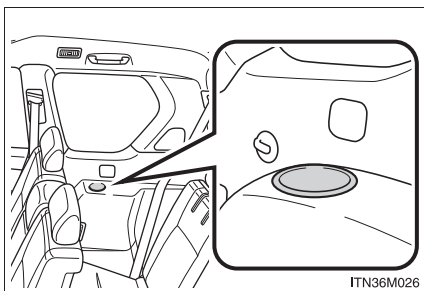
セカンドシートアームレストを
引き出す

▶ セカンドシート (7人乗り車)



セカンドシートアームレストを
引き出して、ボタンを押す

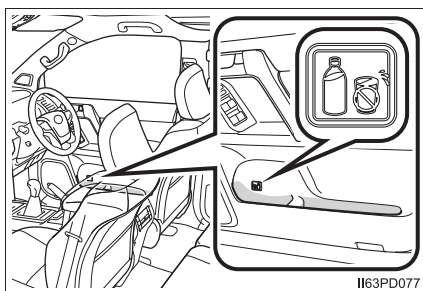
▶ サードシート



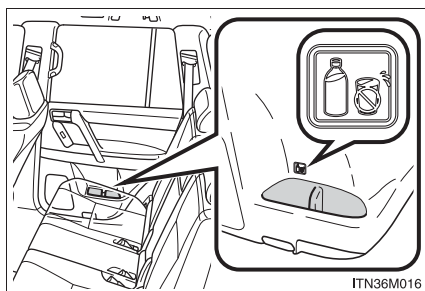
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ボトルホルダー／ドアポケット

▶ フロントシート



▶ セカンドシート

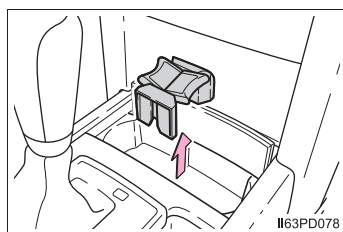


□ 知識

■ カップホルダーの仕切りの取り外し

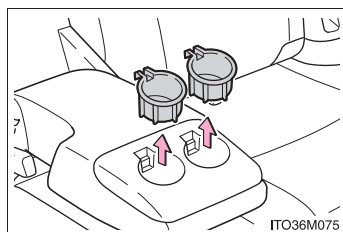
▶ フロントシート

ベース部分を持ってホルダーを引き上げます。



▶ セカンドシート (5人乗り車)

ホルダーを引き上げます。



■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

 **警告**

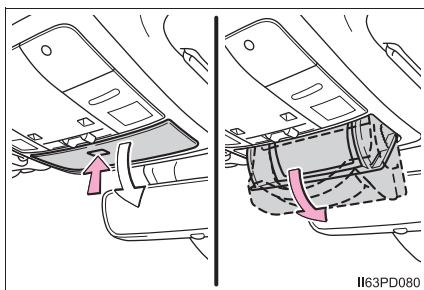
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

 **注意**

- カップホルダーの破損を防ぐために、カップホルダーのフタに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- カップホルダーの破損を防ぐために、セカンドシートのカップホルダーを開いた状態で、アームレストを格納しないでください。(7人乗り車のみ)
- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

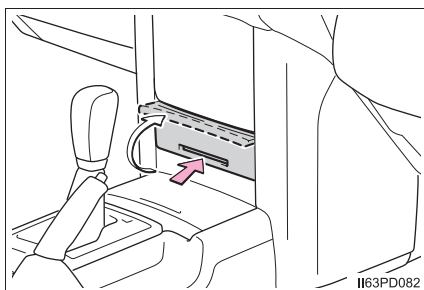
- ▶ オーバーヘッドコンソールボックス
- ▶ センターボックス★



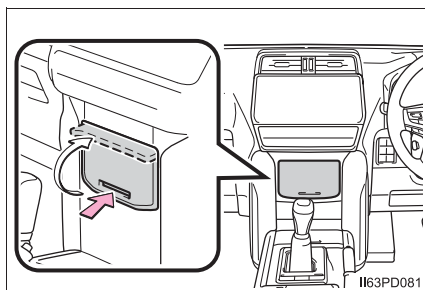
ボタンを押して、いっぱいまで開ける

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

- ▶ インstrumentパネルボックス★



フタの下側部分を押し開ける



フタの下側部分を押し開ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

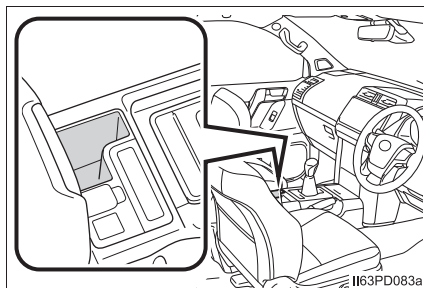
後席確認ミラー（オーバーヘッドコンソールボックスのフタ側面）

→ P. 312

 警告

オーバーヘッドコンソールボックスに 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オープントレイ

 警告

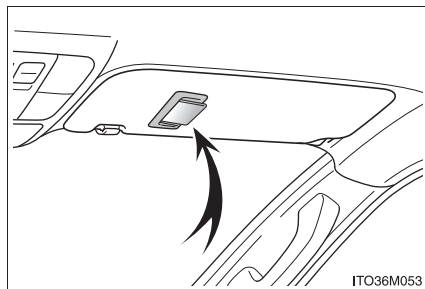
オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

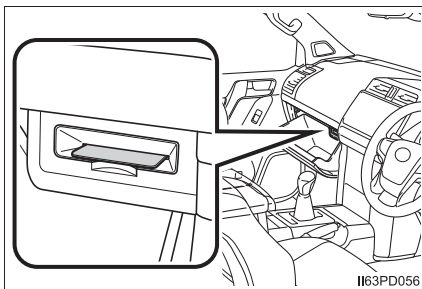
オープントレイには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カードホルダー

▶ サンバイザー



▶ グローブボックス内★



使用するときは、レバーを引き上げてグローブボックスを開きます。(→ P. 296)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

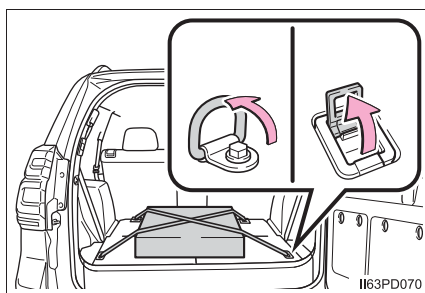
ラゲージルーム内装備

デッキフック★

フックを起こして使用してください。

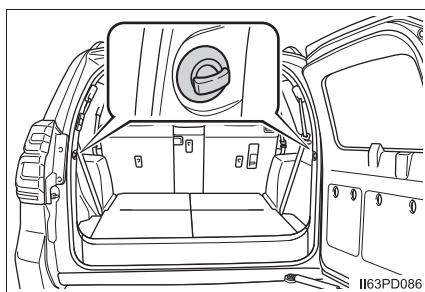
フックを使って荷物を固定することができます。

デッキフックの装着位置・形状は車種により異なります。



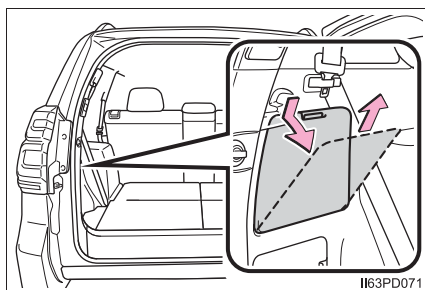
ネットフック

積荷ネットなどをかけるフックです。



小物入れ★

ツメを押しながらフタを手前に開き、取りはずす



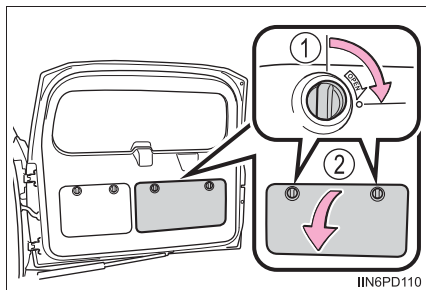
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

三角表示板等収納スペース

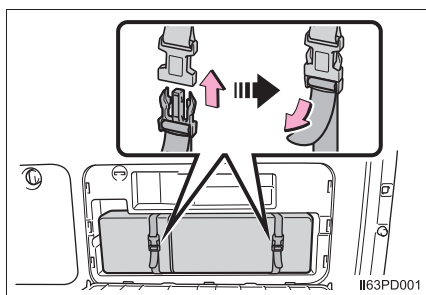
市販の三角表示板などを収納することができます。

1 カバーを開く

- ① ダイヤルを OPEN 側にまわしてロックをはずす
- ② カバーを手前開く



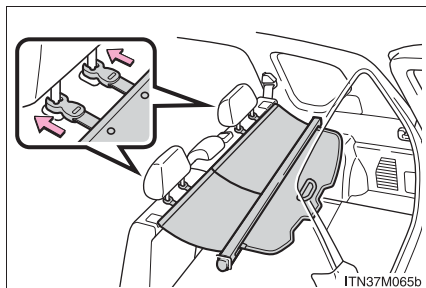
2 三角表示板を収納し、ベルトで固定する



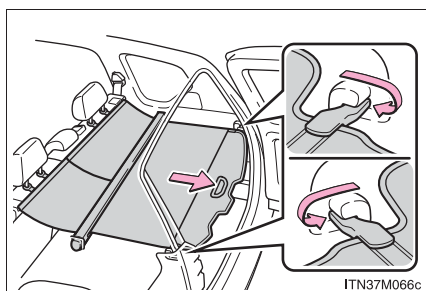
トノカバー★

■ トノカバーの取り付け

- 1 サブカバーのクリップをセカンドシートヘッドレストに取り付ける



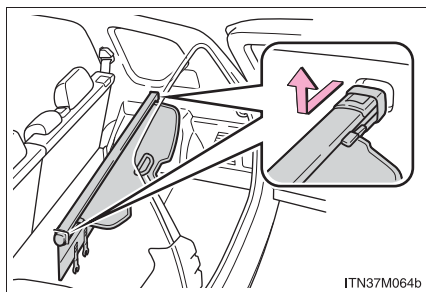
- 2 カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける



■ トノカバーの取りはずし

トノカバー本体の両端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす

取りはずしたあとは、車から降ろして保管してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

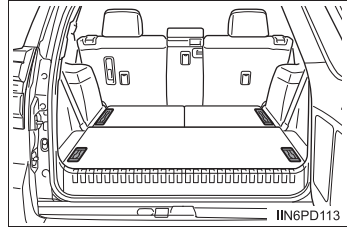
知識

■三角表示板の収納について

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

■ラゲージレールについて★

ラゲージルームにあるレールは、販売店オプションのアクセサリ用品取り付け用です。アクセサリ用品の購入や取り扱い方法などについては、トヨタ販売店にご相談ください。



警告

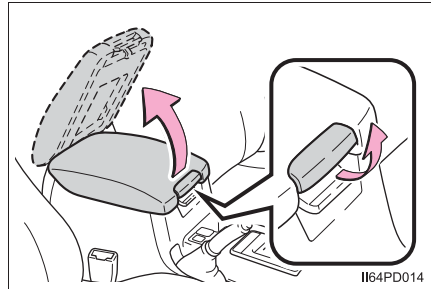
- デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。
- 各収納スペースのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。
トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(トノカバー装着車)
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。(トノカバー装着車)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

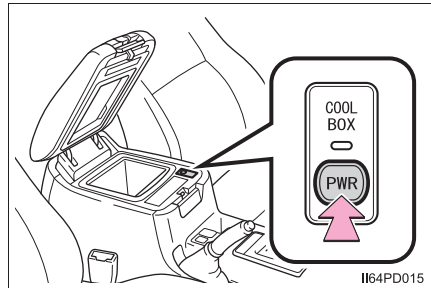
その他の室内装備

クールボックス★

- 1 ノブを引き上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く



- 2 ON / OFF を切りかえる
クールボックスが ON のときは、作動表示灯が点灯します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
(ただし、エンジン回転中でないと保冷機能は働きません)

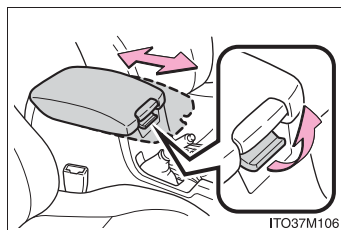
■ クールボックスを ON にすると

- 連動してエアコンが作動します。なお、エアコンを停止した状態でクールボックスを使用することはできません。
- エアコンの冷房性能がわずかに低下します。不要の際は、クールボックスを OFF にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クールボックスのフタをアームレストとして使うときは

レバーを引き上げ、フタを前後にスライドして位置を調整できます。

**■ 作動表示灯が点滅したときは**

次の場合、クールボックスの作動表示灯が点滅します。このときは、クールボックスを使用することができません。

- クールボックスをONにしたあとでA/Cスイッチ(→P. 282)をOFFにしたとき
その場合はA/CスイッチをONにしてください。
- 外気温が約0℃以下のとき

上記の処置を行っても作動表示灯が点滅したままの場合は、システムの異常が考えられますので、クールボックスのスイッチとA/CスイッチをOFFにして、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ クールボックスに入れるものとして適さないもの

- フタがされていない容器に入ったもの
- 割れもの・腐るもの・臭いが強いもの
- 取扱書・車検証・電子機器・CDなど

■ クールボックス内を清掃するときは

水を少し含ませた布などで、汚れをふき取ってください。ボックス内に直接水をかけると、故障の原因になります。

▲ 警告

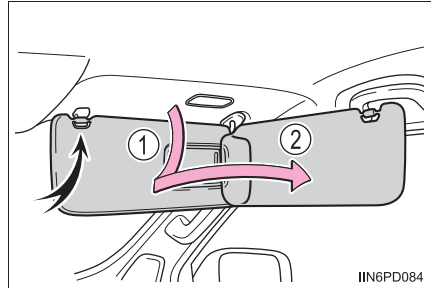
クールボックスを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをされるおそれがあります。

▲ 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、クールボックスを長時間使用しないでください。

サンバイザー

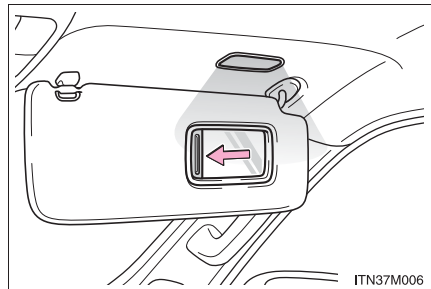
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

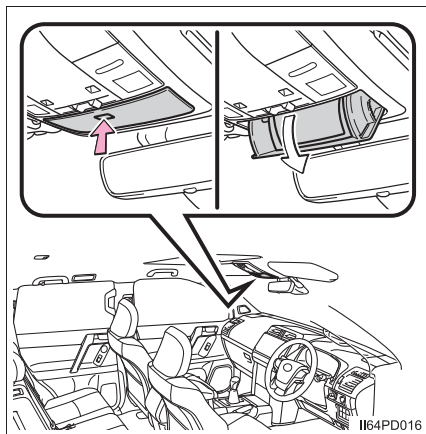
注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

後席確認ミラー

車室内後方の状態を確認することができます。

ボタンを押して開ける



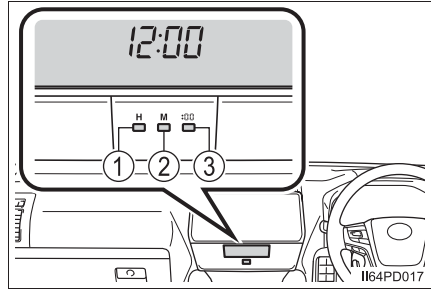
知識

後席確認ミラーをいっぱいまで引き出すと、サングラスなどの小物入れとして使用することができます。(→ P. 302)

時計

- ① “時” を調整する
- ② “分” を調整する
- ③ “分” を00にする※

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

アクセサリースOCKET・アクセサリコンセント★

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

アクセサリースOCKET：

DC12Vで最大電流10A（最大消費電力120W）以下の電気製品※

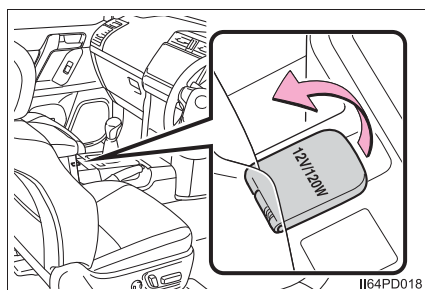
アクセサリコンセント：

AC100Vで最大消費電力100W以下の電気製品

※ 電気製品の使用時は、車両に装着されているすべてのアクセサリースOCKETの合計で、最大消費電力が120W以下になるようにしてください。

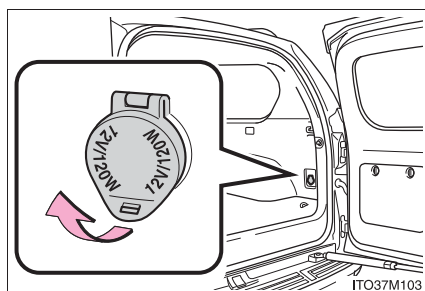
■ アクセサリースOCKET

▶ フロント



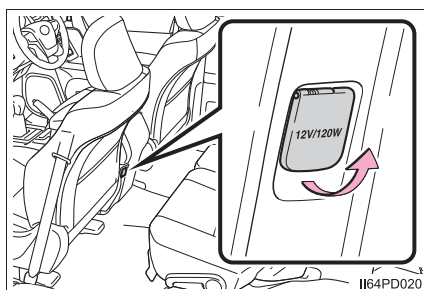
フタの前側を引き上げて開ける

▶ ラゲージルーム★



フタの下側を引き上げて開ける

▶ リヤ

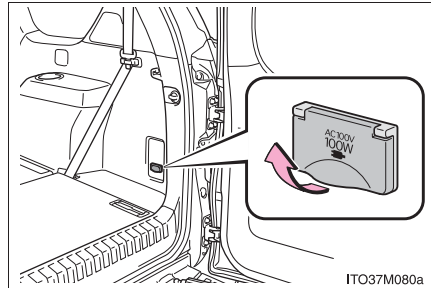


フタの下側を引き上げて開ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アクセサリーコンセント

フタの下側を引き上げて開ける



□ 知識

■ 使用条件

▶ アクセサリーソケット

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶ アクセサリーコンセント

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ アクセサリーソケットを使用するときは

接続する機器によっては、USB 接続端子★と同時に使用することができない場合があります。

USB 接続端子については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ ショートや故障を防ぐために**

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために**▶ アクセサリーソケット**

DC12V で最大電流 10A (最大消費電力 120W) 以上の電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケット・アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正常に使用できないおそれのある電気製品 (アクセサリーコンセント)

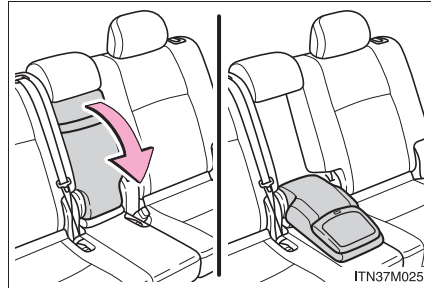
次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ (50 / 60Hz) のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

アームレスト (セカンドシート)

手前に倒して使用します。

アームレストは、車種により形状が異なります。

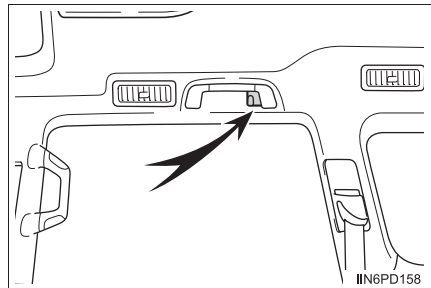


⚠ 注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフックが付いています。



⚠ 警告

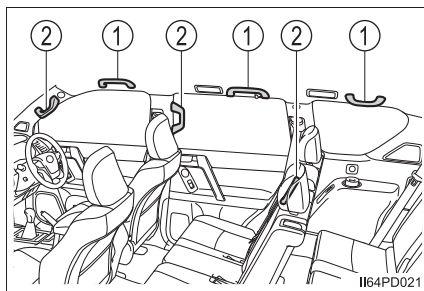
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップ

アシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

乗降時などでは、アシストグリップ（固定式）をお使いください。

- ① アシストグリップ（回転式）
- ② アシストグリップ（固定式）



⚠ 警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	320
内装の手入れ.....	324
タイヤについて.....	327
タイヤ空気圧について.....	337

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	339
エンジンルームカバー.....	341
AdBlue® (尿素水) の補充 (ディーゼル車).....	343
エアコンフィルターの 交換.....	347
ウォッシャー液の補給.....	349
キーの電池交換.....	351
ヒューズの点検・交換.....	354
電球 (バルブ) の交換.....	357

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。
- リヤライトコントロールエアサスペンション装着車は、ノズルの先端をエアサスペンション付近に近付けすぎないでください。

■ スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- ・ 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- ・ 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→ P. 117）

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

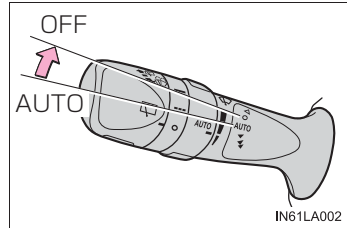
警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。ディーゼル車は特に高温になりますのでご注意ください。

■ ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識■ **本革部分のお手入れの目安**

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ **カーペットの洗浄**

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ **シートベルト**

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ **スーパー UV カットガラスについて**

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

 **警告**■ **車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 32)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

 **注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・アルコール・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次の注意をお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは

カメラセンサーのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。

また、レンズにはふれないでください。(→ P. 219)

■ リヤウィンドウガラス・リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパーUV カットガラスを清掃するとき

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの溝の深さ

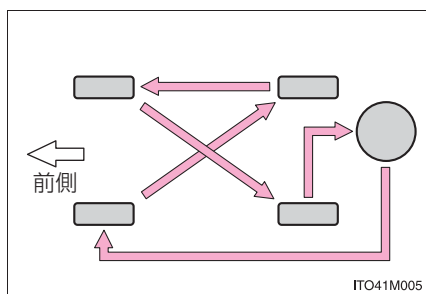
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。



タイヤ空気圧警報システム★

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→ P. 382)
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。



◆ 空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用のIDコードをコンピューターに登録する必要があります。(→ P. 330)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ タイヤ空気圧警報システム★の初期化

■ 初期化が必要な場合

- タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になった場合
- タイヤローテーションを実施した場合
- ID コードの登録を実施したとき (→ P. 330)

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

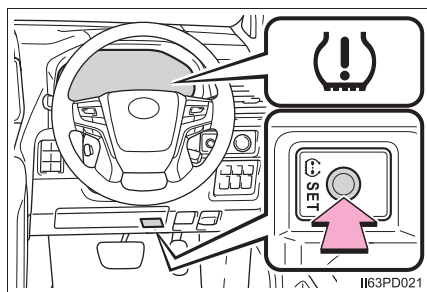
- 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する (→ P. 429)

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

- 3 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

- 4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「--」になり、タイヤの位置判定を開始します。位置判定が終了すると、再びタイヤ空気圧が表示されます。



- 5 約 40km/h 以上で約 10 ~ 30 分走行すると、タイヤの空気圧がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、初期化は終了します。

車両状態や走行条件、走行環境によっては、初期化に約 1 時間かかる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ ID コードの登録について（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ／送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

ID 登録をするときは、次の手順で行ってください。

■ ID コードの登録のしかた

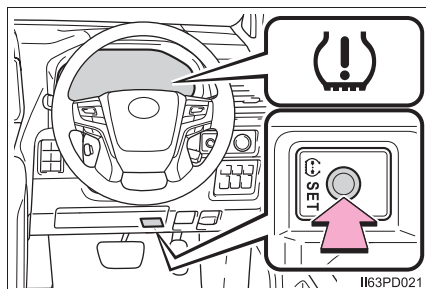
1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 リセットスイッチを素早く
3 回連続で押す

タイヤ空気圧警告灯が3回ゆっくり点滅します。

センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「--」になります。



その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。

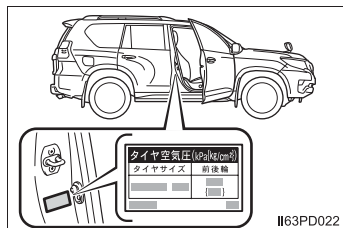
3 約 40km/h 以上で約 10 ～ 30 分走行すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、タイヤの空気圧がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、ID コードの登録は終了します。

走行時間は、走行条件や走行環境によって変化します。

知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 [kPa (kg/cm ²)]	
	前輪	後輪
265/65R17 112S	220 (2.2)	220 (2.2)
265/55R19 109V	220 (2.2) ※ 230 (2.3)	220 (2.2) ※ 230 (2.3)

※ リヤライトコントロールエアサスペンション装着車

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ ホイールごとタイヤを交換するとき（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■ タイヤ空気圧警報★システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧警報システム★の警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によって変わります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ空気圧警報システム★が正常に働かないおそれのある状況

● 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。

- ・ 純正ホイール以外を使用したとき
- ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
- ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ・ 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
- ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
- ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
- ・ タイヤ空気圧が 480kPa (4.9kg/cm²) 以上のとき
- ・ スペアタイヤが電波受信の悪い環境下にあるとき
- ・ 電波受信に影響を及ぼすような大きな金属がラゲージルームにあるとき

● 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

- ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

● 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

● タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■ 初期化操作について（タイヤ空気圧警報システム装着車）

● 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。

なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

● 初期化中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回イグニッション ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらかじめリセットスイッチを押し直す必要はありません。

● 初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

● タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ空気圧警報システム★の初期化がうまくいかないとき

- 初期化中に車両を後退させないでください。初期化がやり直しになり、通常よりも時間がかかることがあります。
- 未舗装の場所では初期化に時間がかかる場合があるため、できるだけ舗装された場所を走行してください。通常は約 10 ～ 30 分で終了します。(走行環境やタイヤの状態などにより異なります)

- ・ 約 30 分走行しても終了しないときは、しばらくそのまま走行を続けてください。
- ・ 約 1 時間走行し続けても終了しないときは、安全な場所に約 20 分間停車したあと、約 40km/h 以上の速度* で適度に右左折・直進しながら、約 10 ～ 30 分走行してください。

上記の方法でうまくいかない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

* 右左折時を除く

- 次のときは、初期化されておらず、システムが正常に作動しないおそれがあります。このような場合は、初期化操作をやり直してください。
 - ・ スイッチの操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合
 - ・ 初期化してから約 20 分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

■ ID コードの登録をするときは (タイヤ空気圧警報システム装着車)

- ID 登録をしたあとに初期化を行ってください。ID 登録前に初期化すると、初期化が無効になります。
- ID 登録をしたあとは、走行によりタイヤが熱くなっているためタイヤが十分に冷えたあとで初期化操作を行ってください。

■ センサー登録モードの解除について (タイヤ空気圧警報システム装着車)

- センサー登録モードにしたあと、走行前にエンジンスイッチを OFF にするとセンサー登録モードが解除されます。
- センサー登録モードにしたあと走行を開始すると、それ以降はセンサー登録モードを解除できません。解除したいときは、再度、ID 登録の手順を行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。
- センサー登録モードを解除した場合、すでに登録されている ID で通信を開始します。通信が完了するとタイヤ空気圧警告灯が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ID 登録がうまくいかないとき（タイヤ空気圧警報システム装着車）

- 次のときは、ID 登録に時間がかかったり、正常に登録できなかったりすることがあります。
 - ・ 登録中に車両を後退させたとき
登録がやり直しになり、通常よりも時間がかかることがあります。
 - ・ 渋滞等で他車が併走しているとき
自車のセンサーの判定に時間がかかることがあります。
 - ・ 空気圧バルブ／送信機が車内にあるとき
ID コードが登録できないことがあります。
- ID 登録中は、できるだけ舗装された場所を走行してください。通常は約 10 ～ 30 分で終了します。（走行環境やタイヤの状態などにより異なります）
 - ・ 約 30 分走行しても終了しないときは、しばらくそのまま走行を続けてください。
 - ・ 約 1 時間走行し続けても終了しないときは、安全な場所に約 20 分間停車したあと、約 40km/h 以上の速度^{*} で適度に右左折・直進しながら、約 10 ～ 30 分走行してください。
 上記の方法を試しても登録が終了しない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
 - ^{*} 右左折時を除く
- スイッチの操作時に警告灯がゆっくりと 3 回点滅しないときは、ID が登録されておらず、システムが正常に作動しないおそれがあります。その場合は、登録操作をやり直してください。

警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

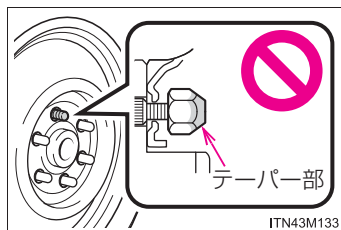
- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ空気圧警報システム★を初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリスをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリスがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機（タイヤ空気圧警報システム装着車）・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。
- トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 429)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等につけないようにする

 **警告****■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 **注意****■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

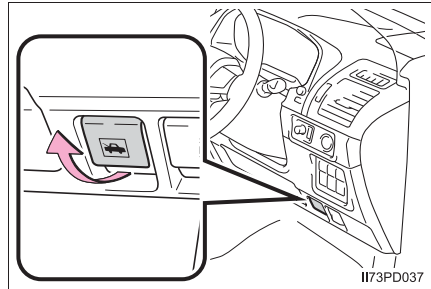
タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

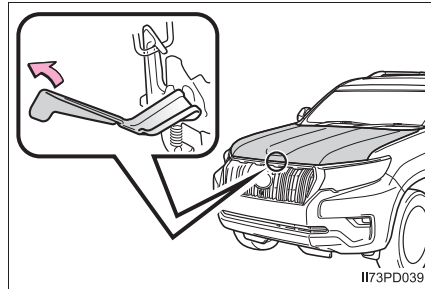
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを左に引いてフックをはずし、ボンネットを持ち上げる



知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ 走行前の確認

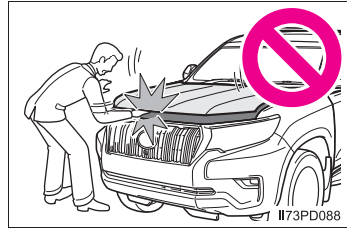
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

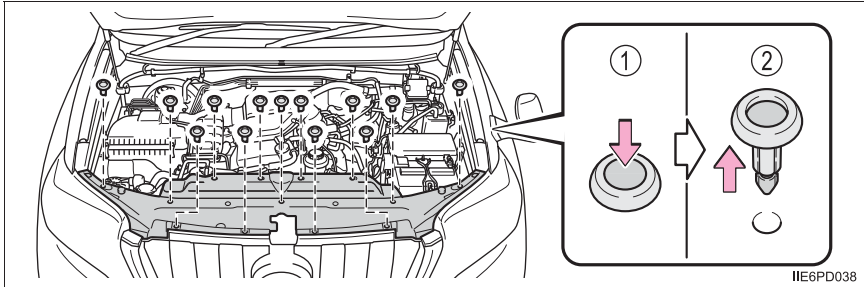
■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

エンジンルームカバー

メンテナンス時など、必要に応じて取りはずすことができます。

エンジンルームカバーの取りはずし方



① 中央部分を押し

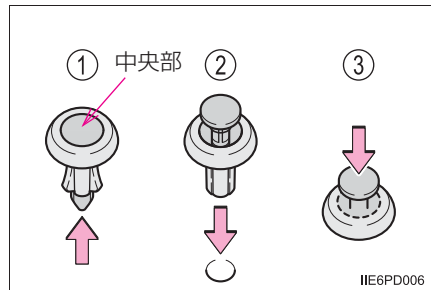
② 引き抜く

クリップの取り付け方

① クリップ中央部分を押し上げる

② 挿し込む

③ クリップ中央部分を押し



 **警告****■ けがを防ぐために**

エンジンルームカバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **注意****■ エンジンルームカバーを取り付けたあとは**

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

AdBlue[®]（尿素水）の補充（ディーゼル車）

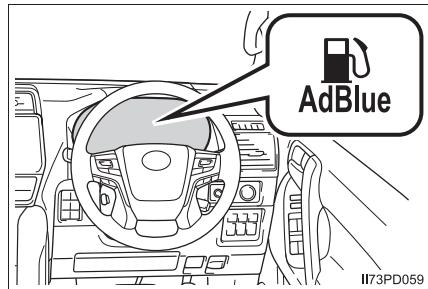
この車は排気ガス中の窒素酸化物を低減するために AdBlue[®] を使用しています。AdBlue[®] は走行に伴い消費されるため、以下のことにご留意ください。

- 1000km 走行すると、1L の AdBlue[®] を消費します。通常は、最大まで補充した状態から約 12000km 走行すると、残量がなくなります。ただし、走行状況によっては、それよりも早くなくなる場合があります。
- 走行可能距離が約 5000km 以下になると、警告灯・警告メッセージが点灯します。
- 残量がなくなるとエンジンを再始動できなくなります。
- 補充の際に誤ってこぼしてしまうと、車両の部品や塗装などの損傷につながるおそれがあります。

補充する際は、トヨタ販売店で補充することをおすすめします。

AdBlue[®] の警告灯・警告メッセージ

AdBlue[®] の残量が少なくなると警告メッセージと警告灯でお知らせします。（→ P. 344）



■ マルチインフォメーションディスプレイに AdBlue[®] に関する警告メッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

警告メッセージ	対処方法
「AdBlue を 5000km 以内に 補充してください」	AdBlue [®] を補充してください。 トヨタ販売店で補充することをおすすめします。
「AdBlue を 2000km 以内に 補充してください」	
「AdBlue 残量が 少なくなっています あと 800km で 再始動不可 AdBlue を 補充してください」	表示されている距離をこえて走行すると、エンジンを再始動できなくなります。ただちに AdBlue [®] を補充してください。 トヨタ販売店で補充することをおすすめします。
「AdBlue 残量が 少なくなっています エンジン再始動不可 AdBlue を補充してください 取扱説明書を参照ください」	ただちに AdBlue [®] を補充してください。 エンジンを停止させると、再始動できません。エンジンを停止せず、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ AdBlue[®] の補充について

AdBlue[®] (ISO 22241-1 に準拠したもの) を使用してください。

AdBlue[®] (アドブルー) はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。

■ AdBlue[®] に関する警告メッセージの走行可能距離について

走行可能距離は、目安としてご利用ください。補充方法・運転状況・走行環境などにより、表示された走行可能距離と実際の走行距離とが異なる場合があります。

注意

■ AdBlue[®] の残量が少なくなったとき

AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを始動できなくなります。

残量がなくなる前に AdBlue[®] を補充してください。

トヨタ販売店で補充することをおすすめします。

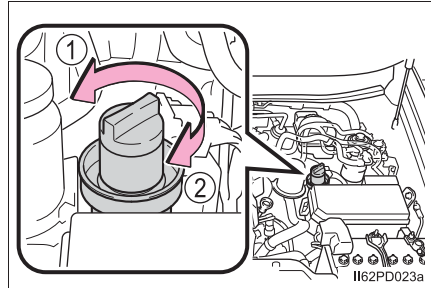
緊急時にご自身で AdBlue® を補充する場合

AdBlue®の残量がなくなってエンジンが始動できなくなってしまったときは、約 3.8L 以上の AdBlue® を補充することで、エンジンを始動することができます。次の手順で AdBlue® を補充してください。(AdBlue® タンク容量は 12.1 L です)

- 1 平坦な場所に駐車してエンジンスイッチを OFF にし、ボンネットを開ける (→ P. 339)
- 2 補給口のキャップを開け、あふれないようゆっくりと AdBlue® を補充する

- ① 開ける
- ② 閉める

キャップが「カチッ」と鳴るまで閉めてください。



- 3 エンジンが始動することを確認する

警告灯・警告メッセージが消えたことを確認してください。

トヨタ販売店で AdBlue® をいっぱいまで補充することをおすすめします。

知識

■ AdBlue® を補充するとき

AdBlue® の補充後は、エンジンが始動するまでの時間が通常よりも数秒、長くなる場合があります。

 **注意****■ AdBlue[®] を補充するとき**

AdBlue[®] を補充するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装などの損傷につながるおそれがあります。

- AdBlue[®] 以外の尿素水を補充しない
- AdBlue[®] が車両の塗装部分に付着してしまった場合は、すぐに水で洗い流す
- AdBlue[®] をエンジンルームにこぼしてしまった場合は、水を含ませた布ですぐにふき取る

■ AdBlue[®] の保管について

AdBlue[®] を保管するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装の損傷、また、AdBlue[®] の成分が変質し異臭の発生につながるおそれがあります。

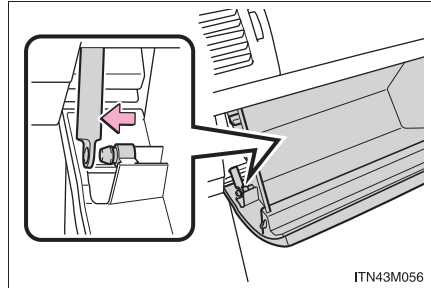
- AdBlue[®] を車内に放置しない
- AdBlue[®] の容器を密閉し、直射日光の当たらない、換気の良い冷暗所に保管する

エアコンフィルターの交換

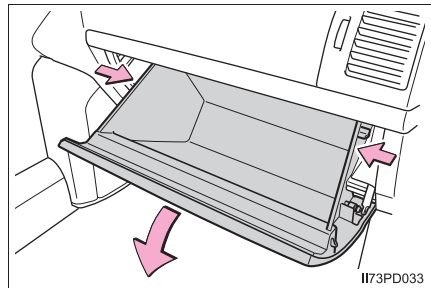
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

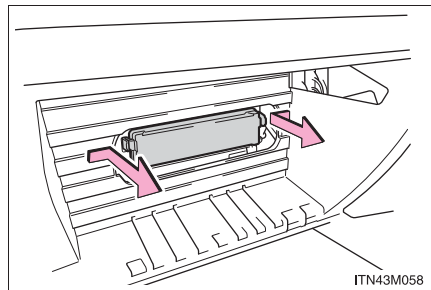
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーasteのピンをはずす



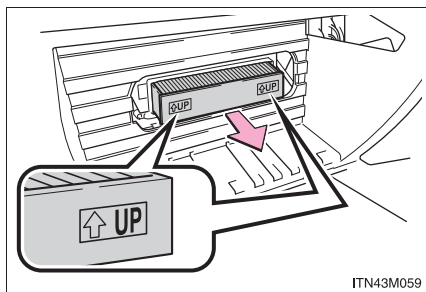
- 3 グローブボックス側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす



- 4 フィルターカバーを取りはずす



- 5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



- 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km[7500km*] ごと

* 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

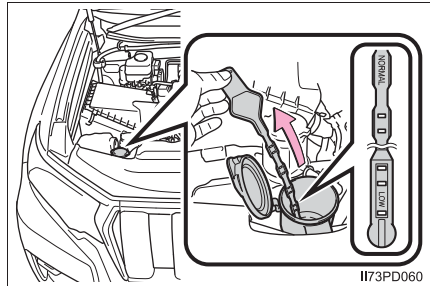
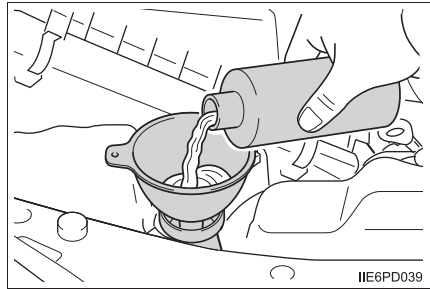
■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

ウォッシャー液の補給

次のような場合は、ウォッシャー液を補給してください。

- ワイパースイッチを操作してもウォッシャー液が出ないとき
- マルチインフォメーションディスプレイに「ウォッシャー液不足」が表示されたとき（寒冷地仕様車のみ）
- ゲージでの点検の際、液面がLOWの位置に近付いていたとき（ゲージ装着車のみ）

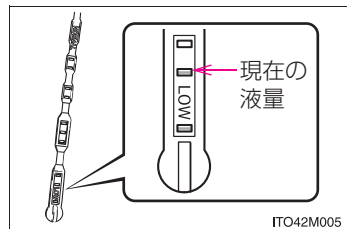


知識

■ ゲージ★の使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった（LOWの位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ウォッシャー液を補給するときは**

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

 **注意****■ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

キーの電池交換

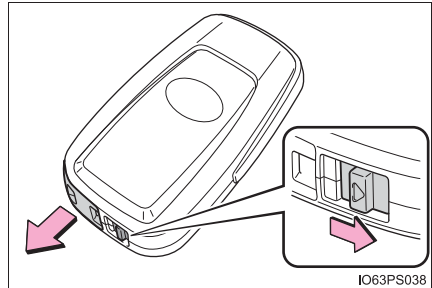
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバーなど
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

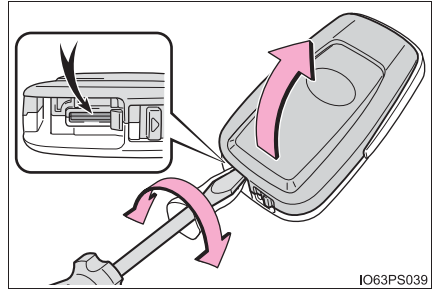
- 1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



- 2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

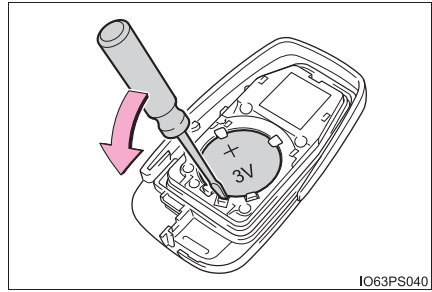


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、+ 極を上にして取り付けます。

**4** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける**知識****■ リチウム電池 CR2032 の入手**

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告**■ 取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

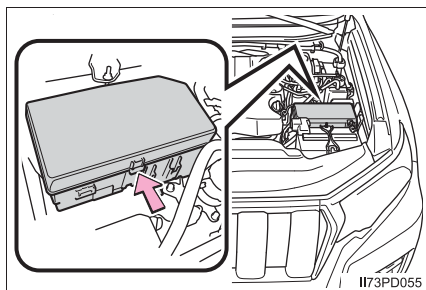
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

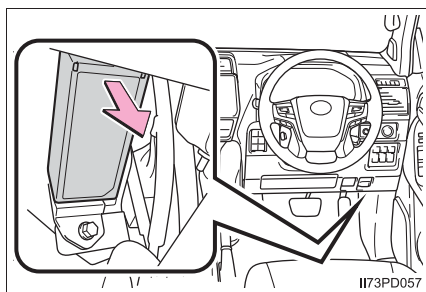
▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



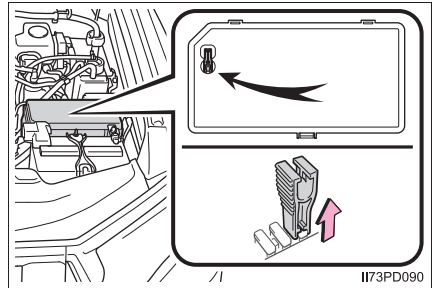
▶ 運転席足元

カバーを取りはずす



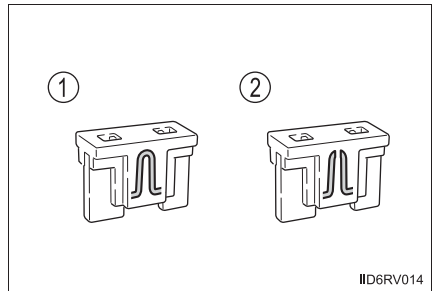
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

**4** ヒューズが切れていないか点検する

- ① 正常
- ② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 357)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 **警告****■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 **注意****■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

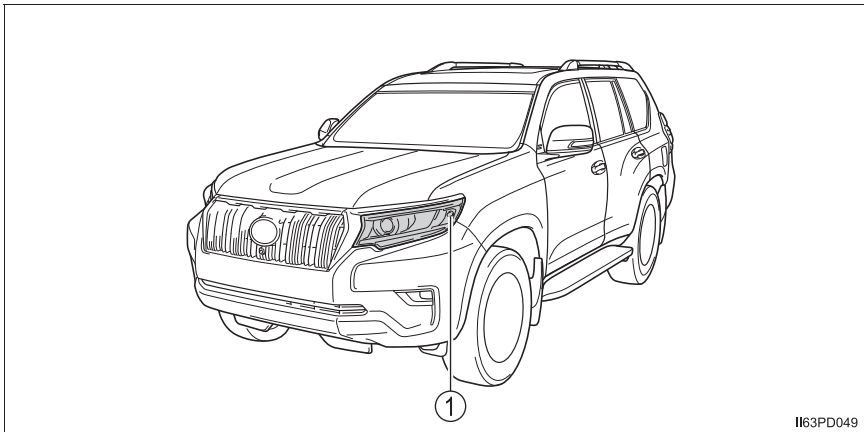
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 430）

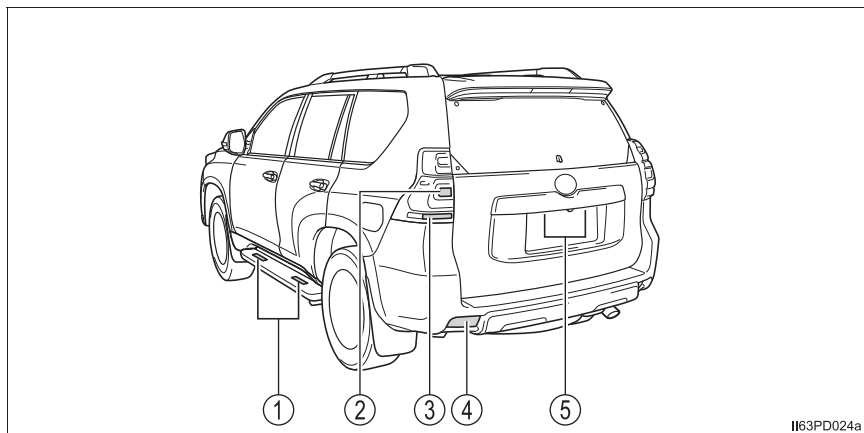
バルブ位置

■ フロント



- ① フロント方向指示／非常点滅灯

■ リヤ



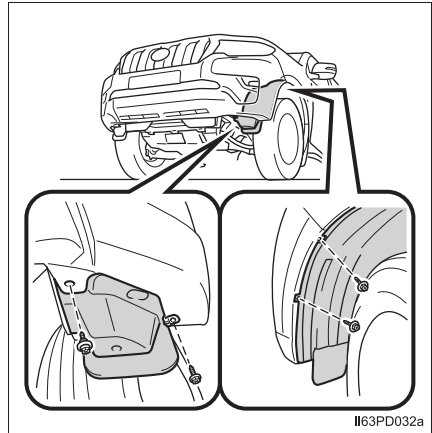
I163PD024a

- ① サイドステップ照明★
- ② リヤ方向指示／非常点滅灯
- ③ 後退灯
- ④ リヤフォグランプ★
- ⑤ 番号灯

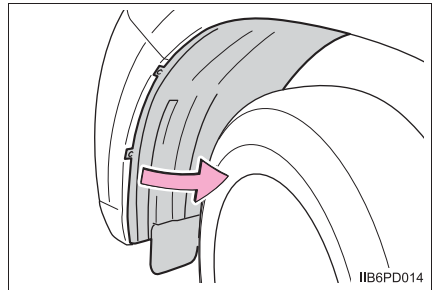
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球交換のしかた**■ フロント方向指示／非常点滅灯**

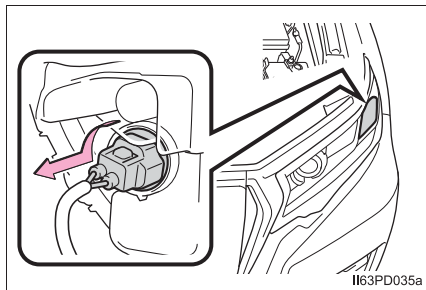
- 1 ボルト（4本）を取りはずす
ハンドルをいっぱいまでまわしてタイヤを動かし、作業スペースを広げます。



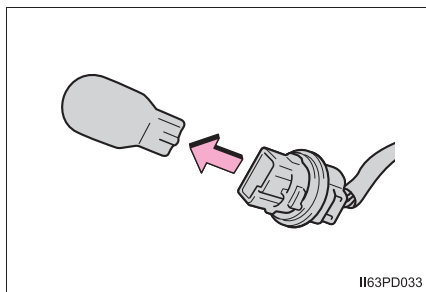
- 2 フェンダーライナーをめくる



3 ソケットを取りはずす



4 電球を取りはずす



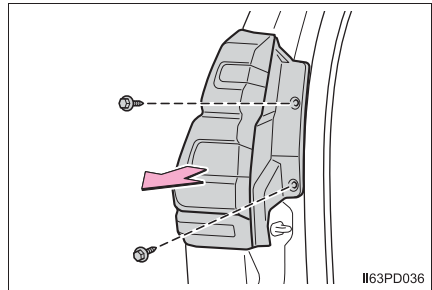
5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示／非常点滅灯・後退灯

1 バックドアを開ける

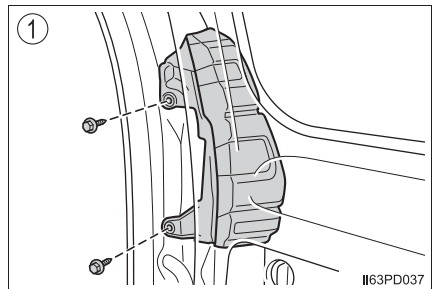
▶ 助手席側

ボルト（2本）をはずしてランプ
本体をはずす

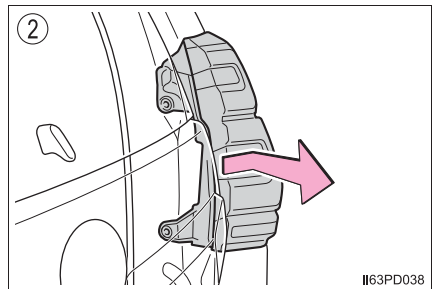


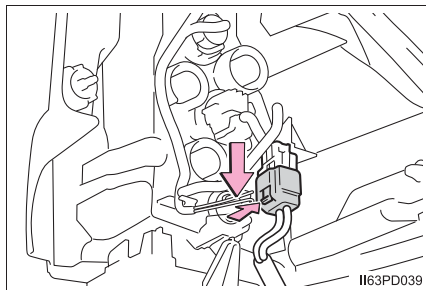
▶ 運転席側

① ボルト（2本）をはずす

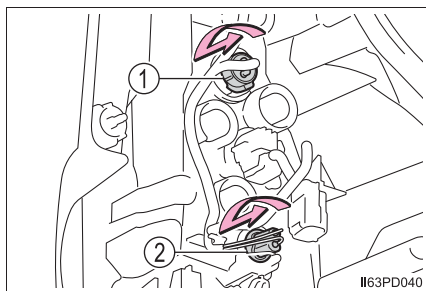


② バックドアを半開にして、車両 本体とバックドアとのすき間を 広げた状態にし、ランプ本体を はずす

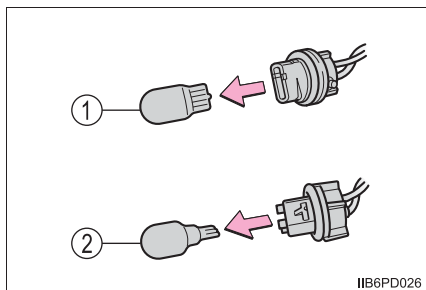


2 コネクターをはずす**3** ソケットを取りはずす

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯

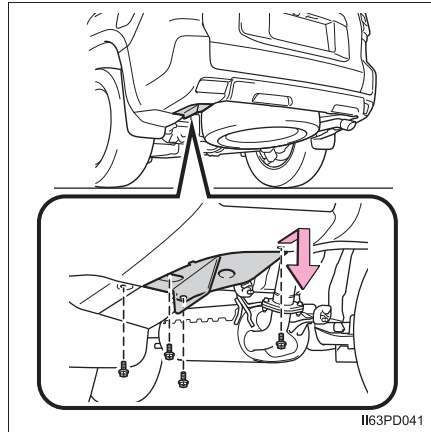
**4** 電球を取りはずす

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯

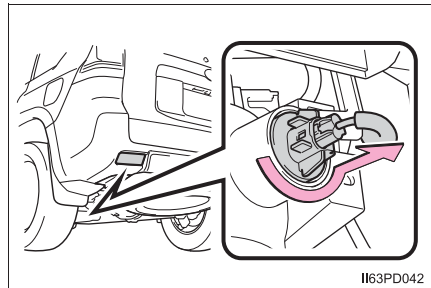
**5** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤフォグランプ★

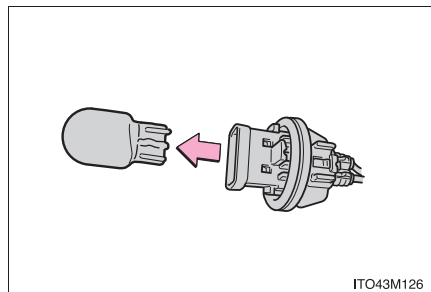
- 1 ボルト（4本）をはずし、アンダーカバーを取りはずす



- 2 ソケットを取りはずす



- 3 電球を取りはずす

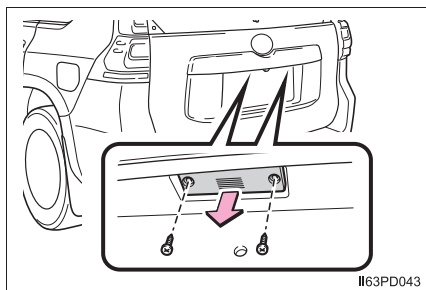


- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

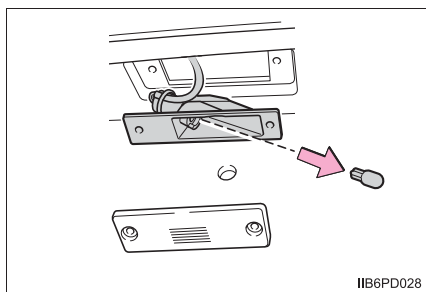
■ 番号灯

- 1 ネジ(2本) をはずしてカバーを取りはずす



IIB6PD043

- 2 電球を取りはずす

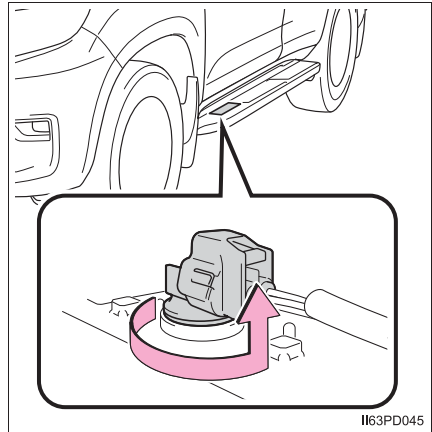


IIB6PD028

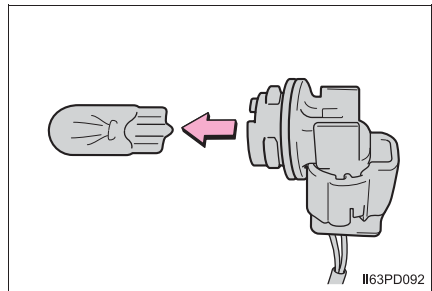
- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ サイドステップ照明★

1 ソケットを取りはずす



2 電球を取りはずす



3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次のランプを交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム
- ヘッドランプハイビーム
- 車幅灯／LED デイライト
- フロントフォグランプ
- サイド方向指示／非常点滅灯
- ドアミラー照明★
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップランプ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 番号灯のカバーを取り付けるときは

必ずパッキンをもとどおりに取り付けてください。パッキンが正しく取り付けられていないと、水が入る原因になります。

■ LED ランプについて

ヘッドランプロービーム、ヘッドランプハイビーム、車幅灯／LED デイライト、フロントフォグランプ、サイド方向指示／非常点滅灯、ドアミラー照明、制動灯、尾灯、ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

 警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万が一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	368
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	369
発炎筒.....	370
車両を緊急停止するには.....	372

7-2. 緊急時の対処法

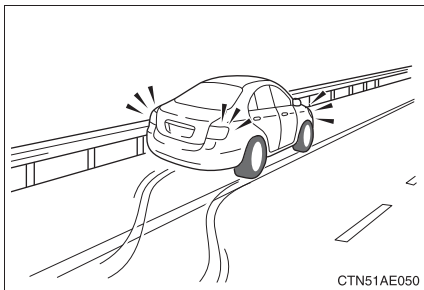
けん引について.....	373
フューエルポンプ シャットオフシステム.....	379
警告灯がついたときは.....	380
警告メッセージが 表示されたときは.....	387
パンクしたときは.....	392
エンジンがかからない ときは.....	408
電子キーが正常に 働かないときは.....	410
バッテリーが あがったときは.....	412
オーバーヒートした ときは.....	417
スタックしたときは.....	421

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

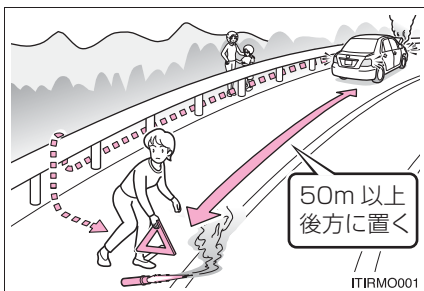
非常点滅灯（→ P. 369）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

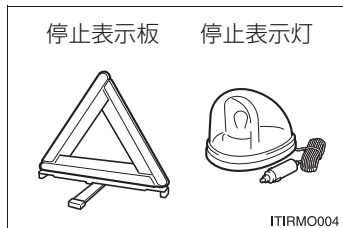
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 370）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

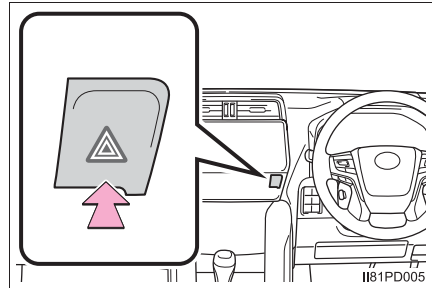


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示器が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

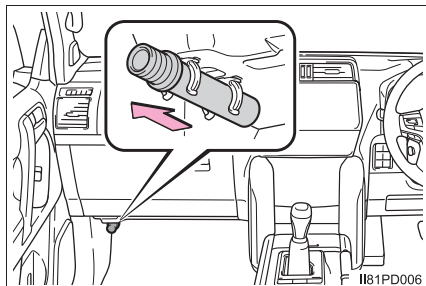
■ 非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

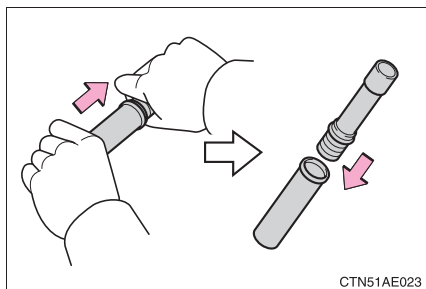
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
 (トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
 発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

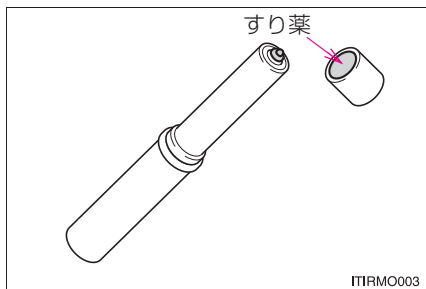
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
 必ず車外で使用してください。
 着火させる際は、筒先を顔や体に向け
 ないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 **警告****■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

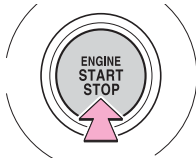
■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
 - 2 シフトレバーを N に入れる
 - ▶ シフトレバーが N に入った場合
 - 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
 - 4 エンジンを停止する
 - ▶ シフトレバーが N に入らない場合
 - 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
 - 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する
- 

2 秒以上押しまたは 3 回以上連続で押す

CTY52AD212
- 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

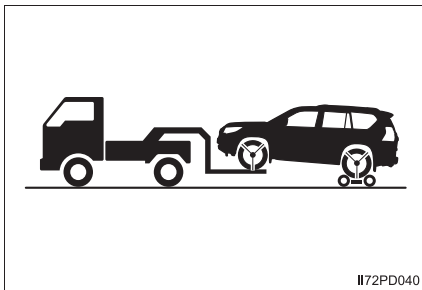
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

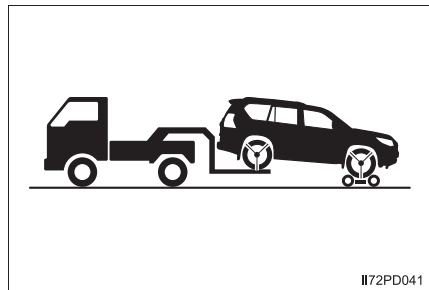
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

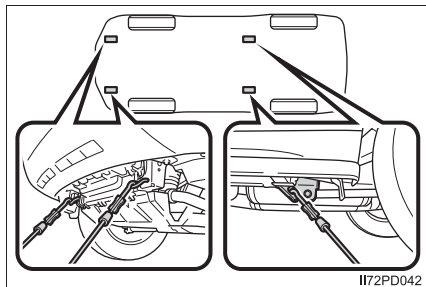


台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

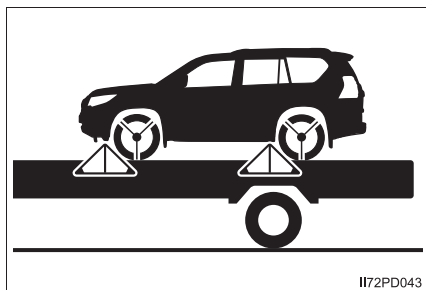
車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

鎖やケーブルなどを取り付ける前にフロントスポイラーを取り外します。(→ P. 374)



II72PD042

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する

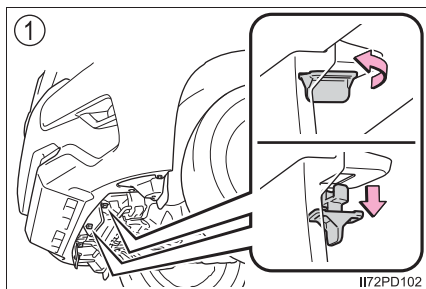


II72PD043

他車にけん引してもらうとき

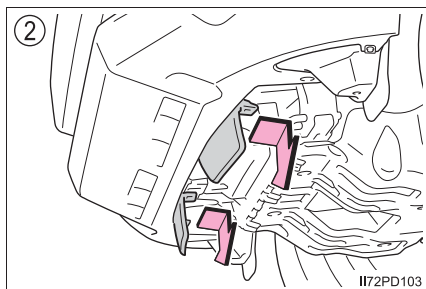
1 フロントスポイラーを取りはずす

① クリップをまわして引き抜く



II72PD102

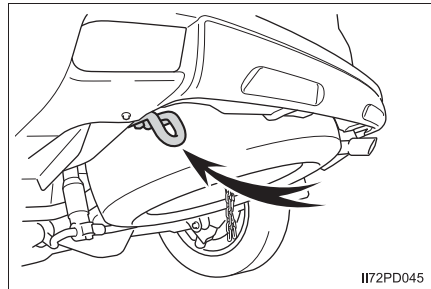
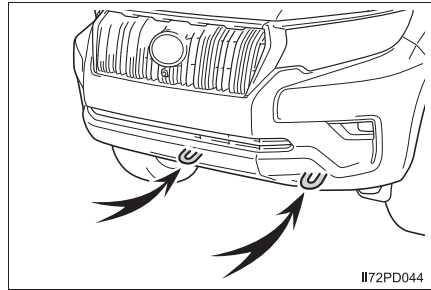
② スポイラーを矢印の方向に動かして、取りはずす



II72PD103

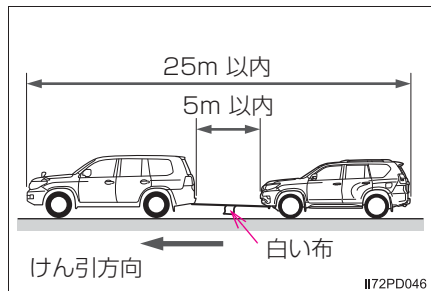
- 2 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



- 3 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



- 4 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

- 5 ガソリン車：
トランスファースイッチを H4F にする ※¹

センターデフロック作動表示灯が消灯したことを確認してください。

ディーゼル車：

トランスファースイッチを H4 かつセンターデフロックスイッチを OFF にする ※¹

センターデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯が消灯したことを確認してください。

- 6 車高モードを N（標準）モードにし、車高制御を禁止する ※2
（リヤライトコントロールエアサスペンション装着車のみ）

車高制御 OFF スイッチを押すと、ライトコントロール OFF モードになり、現在の車高モードで固定されます。

- ※1 トランスファースイッチの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。
- ※2 リヤライトコントロールエアサスペンションの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

- 7 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 185

知識

■けん引フックの使用目的

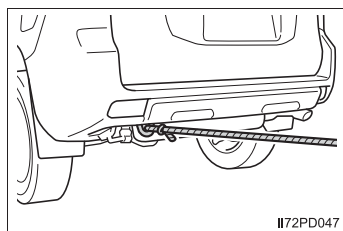
けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。



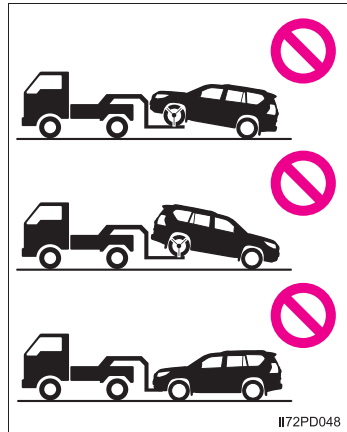
警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

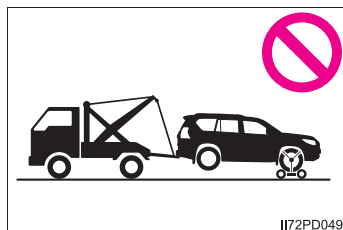
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。

**■ 他車にけん引してもらうときの運転について**

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを OFF にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなる恐れがあります。

⚠ 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。








警告灯・警告ブザー一覧



警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
	油圧警告灯（警告ブザー ※5） ・ エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	エンジン警告灯 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 ・ 排出ガス浄化装置の異常★ → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>ABS & ブレーキアシスト警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ABS / マルチテレイン ABS^{※2} の異常 ・ ブレーキアシストの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>パワーステアリング警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パワーステアリングの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>スリップ表示灯（点灯したままのとき）</p> <p>次のいずれかの機能の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VSC ・ TRC / アクティブ TRC^{※2} ・ ダウンヒルアシストコントロールシステム^{※2}★ ・ ヒルスタートアシストコントロール^{※2}★ ・ クロールコントロール^{※2}★ <p>上記のシステムの作動時は点滅します。</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>KDSS 警告灯^{※2}★</p> <p>KDSS の異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ヘッドランプオートレベリング警告灯★</p> <p>自動光軸調整システムの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>LED ヘッドランプ警告灯★</p> <p>LED ヘッドランプの異常</p> <p>異常時は LED ヘッドランプは点灯しませんが、故障の状況によっては、点灯できる場合があります。</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	PCS 警告灯 炎天下や極寒の環境、またはセンサーが汚れているなどの状況のため一時的に作動しない、またはプリクラッシュセーフティシステムの異常 (→ P. 230, 387) → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージを確認してください。(→ P. 230, 387) プリクラッシュセーフティシステムがOFF、またはVSC (ビークルスタビリティコントロール) システムが停止しているときも点灯します。 → P. 230
	半ドア警告灯 (警告ブザー ※3) いずれかのドア、またはバックドアガラスが確実に閉まっていない → 全ドア・バックドアガラスを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 15L 以下になった → 燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー ※4) 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P. 387
	AdBlue® 残量警告灯 (ディーゼル車) AdBlue® の残量不足 → AdBlue® を補充してください。 トヨタ販売店で補充することをおすすめします。
	タイヤ空気圧警告灯★ ・ 自然要因 ・ タイヤのパンク ・ タイヤ空気圧警報システムの異常 → ただちに安全な場所に停車してください。 対処方法 (→ P. 384)

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）※¹ パーキングブレーキの未解除 → パーキングブレーキを解除する
	ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯※⁵ ブレーキオーバーライドシステム アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことによりブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。 ブレーキオーバーライドシステムの異常（警告ブザー） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ドライブスタートコントロール アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことによりドライブスタートコントロールが作動（警告ブザー） → ただちにアクセルペダルを離してください。 ドライブスタートコントロールの異常（警告ブザー） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※¹ **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**

パーキングブレーキをかけたまま、車速が5km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

※² システムの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

※³ **半ドア走行時警告ブザー：**

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※⁴ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約20km/h 以上になると警告ブザーが1回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま30秒を経過すると、30秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり90秒間鳴ります。

※⁵ マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について**

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

■ L4 作動表示灯・センターデフロック作動表示灯・リヤデフロック作動表示灯が点滅したままのときは

別冊「オフロード走行取扱書」を参照し、それぞれの対処方法に従って処置してください。

ブレーキ警告灯やエンジン警告灯が同時に点灯している場合や、所定の対処方法を行っても、L4 作動表示灯・センターデフロック作動表示灯・リヤデフロック作動表示灯が点滅し続けている場合は、エンジンやブレーキシステム、4WD システムが故障しているおそれがあります。この場合は、トランスファーモードの切りかえができなくなったり、センターデフロック・リヤデフロックの切りかえができなくなることがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしている可能性があるので確認してください。

タイヤがパンクしている場合：→ P. 392

タイヤがパンクしていない場合：

エンジンを停止する。エンジンを再始動したあとに、警告灯が点灯、または点滅するかを確認してください。

▶ 警告灯が点灯した場合

- 1 タイヤが十分に冷えたあと、指定空気圧に調整してください。
- 2 数分後に警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であるかを確認した上で、初期化してください。(→ P. 328)

数分後に警告灯が消灯しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ 警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→ P. 332

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。



警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯している場合はタイヤがパンクしている可能性がありますので、確認してください。
タイヤがパンクしている場合は応急用タイヤに交換し、最寄りのトヨタ販売店でタイヤの修理をしてください。
- 急ハンドル・急ブレーキは避けてください。
もしタイヤの状態が悪化した場合、ハンドル操作またはブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

 **注意****■ ブレーキ警告灯について（ディーゼル車）**

ポンピングブレーキ※を行うと、一時的に点灯することがあります。この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。なお、その後消灯すれば異常ではありません。

※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方

■ タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（→ P. 328）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

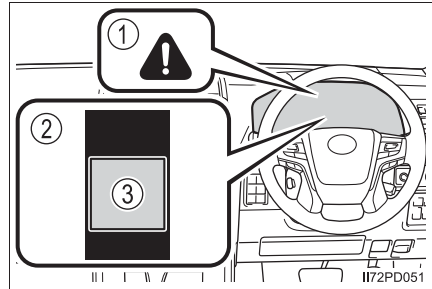
① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	点灯	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
点灯	—	あり	
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識**■ 警告メッセージについて**

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

● ABS の異常

ABS & ブレーキアシスト警告灯が点灯します。(→ P. 381)

**● 「ブリクラッシュセーフティ現在使用できません」、 「VSC が Off のためブリクラッシュブレーキも停止します」 が表示されている：
PCS 警告灯が点滅または点灯します。(→ P. 382)****● 開いているドアまたはバックドアガラスが表示されている：
半ドア警告灯が点灯します。(→ P. 382)****● タイヤ空気圧警報システムの異常**

タイヤ空気圧警告灯が点灯します。(→ P. 382)

■ 「エンジン油圧不足」の警告メッセージが表示されたときは

エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ 「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは**● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

・ 「故障のため ブレーキ力が低下 安全な場所に停車して 取扱書を確認」

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・ 「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」

● AdBlue[®] に関するメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。(ディーゼル車) (→ P. 344)**■ 「AT 油温異常」が表示された時は次の対処法にしてください。**

ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーを P にして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待ってください。しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

- 「DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください」または「DPF 再生不十分 取扱書を確認ください」が表示されたときは（ディーゼル車）
排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が必要です。（→ P. 190）
- 「フューエルフィルタ メンテナンスの時期です」が表示されたときは（ディーゼル車）
燃料フィルタの目詰まりが考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 「燃料フィルタの 水抜きを実施してください」が表示されたときは（ディーゼル車）
燃料フィルタ内に規定レベル以上の水がたまっています。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
- 「排ガス異常 エンジン再始動不可 販売店で点検を受けてください」が表示されたときは（ディーゼル車）
エンジンを停止させると、再始動できません。エンジンを停止せず、ただちに、トヨタ販売店へ連絡してください。
- 「エアサスペンション システムチェック」が表示されたときは★
ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
システムの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。
- 「バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました」が表示されたときは
自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。
この場合、次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。
- 「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたときは
シフトレバーが P 以外の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアを開けたときに表示されます。
警告メッセージが表示されたときはシフトレバーを P にしてください。
- シフトレバーの操作を指示するメッセージが表示されたときは
誤操作や車両の意図せぬ動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従ってシフトポジションを変更してください。
- 「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたときは
警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。
トヨタ販売店ですみやかに点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- LED ヘッドランプ
- ヘッドランプオートレベリングシステム
- AHB (オートマチックハイビーム)

■「前方カメラシステム一時利用不可 少々お待ちください」または「前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。
(→ P. 230, 380)

- PCS (プリクラッシュセーフティシステム)
- LDA (レーンディパーチャーアラート)
- レーダークルーズコントロール
- AHB (オートマチックハイビーム)

■「エンジンオイル量不足補充するか、交換してください」が表示されたとき

エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

傾斜路などに停車したとき表示される場合があります。水平な路面に移動し、警告メッセージが表示されるか確認ください。

■次のメッセージが表示されたときは、対処法に従ってください。表示が消えたら使用可能です。★※

- 「CRAWL 操作時はL4に切替え、D又はRレンジに入れてください」
- 「CRAWL 操作時は作動条件の確認をしてください」

※ 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■警告ブザーについて

→ P. 385

注意

■エンジン油量に関する警告が表示されたとき

エンジンオイルが不足した状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながります。

■「燃料フィルタの水抜きを実施ください」が表示されたとき

警告メッセージが表示されたまま走行しないでください。燃料フィルタ内に水がたまった状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプの損傷につながります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。(タイヤについての詳しい説明は、P. 327 を参照してください)

警告

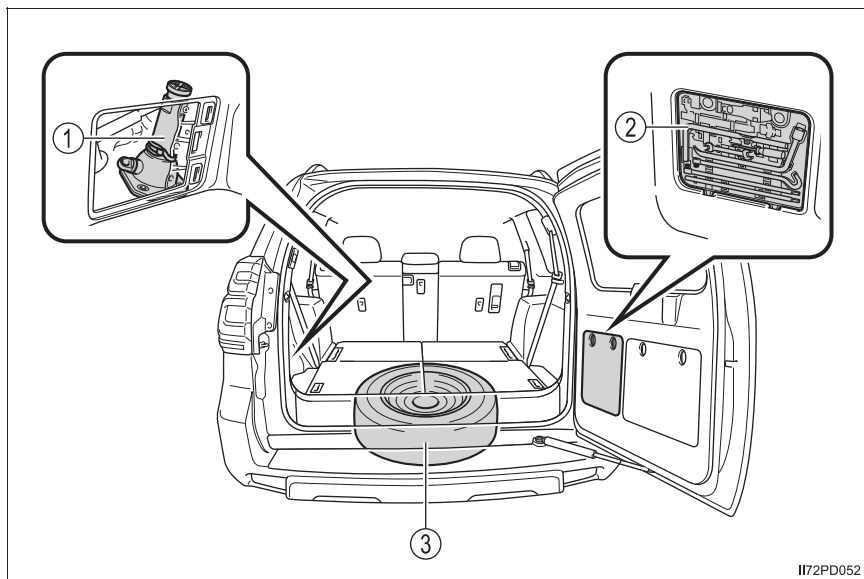
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
 - パーキングブレーキをかける
 - シフトレバーをPに入れる
 - 車高制御を禁止する*
(リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車)
 - エンジンを停止する
 - 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 369)
- * 車高制御の禁止のしかたについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

工具箱・ジャッキ・スペアタイヤの位置

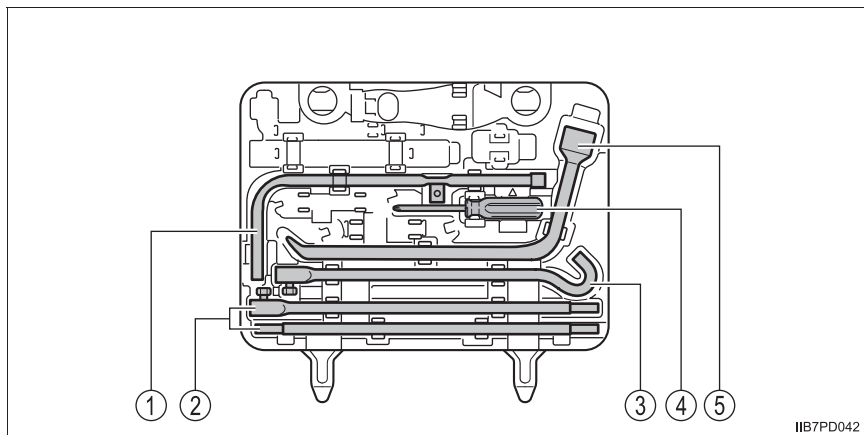


I172PD052

- ① ジャッキ
- ② 工具（工具箱）
- ③ スペアタイヤ

■ 工具

工具箱の中に収納されています。(工具箱の取り出し方：→ P. 396)



- ① ジャッキハンドル
- ② ジャッキハンドル延長バー
- ③ ジャッキハンドルバー
- ④ ドライバー (→ P. 406)
- ⑤ ホイールナットレンチ

 **警告****■ ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - 車高制御が禁止の状態、エンジンが停止している*（リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車）
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

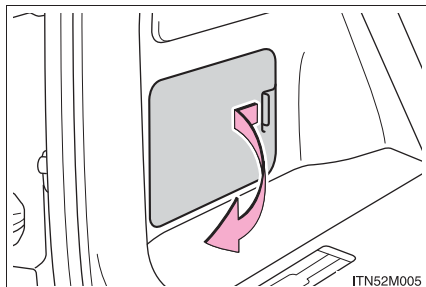
* 操作方法については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■ ジャッキハンドルを使用するときは

ジャッキハンドルが不意に分解しないように、ジャッキハンドルを組み付けたあと、搭載されているドライバーでネジ部を確実に締め付けてください。

ジャッキの取り出し方

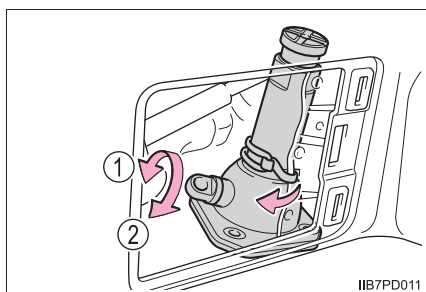
- 1 ツメを押しながらフタを手前に引き、取りはずす



- 2 固定バンドをはずし、ジャッキをゆるめて取りはずす

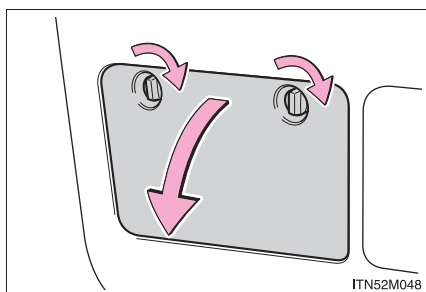
- ① ゆるむ
② 締まる

使用後はもとの位置にもどします。
また、ジャッキはバンドで確実に固定してください。



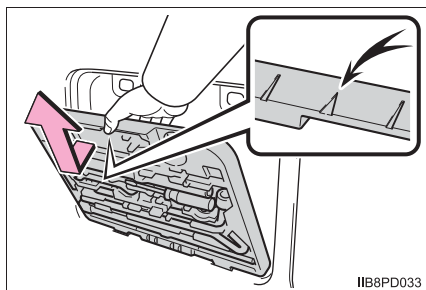
工具箱の取り出し方

- 1 ダイヤルを OPEN 側にまわしてロックをはずし、カバーを手前に開く



- 2 工具箱を取りはずす

マークの付いている部分をつかんで、持ち上げます。

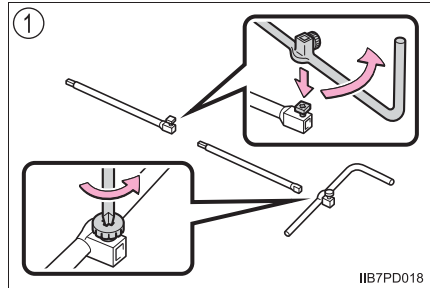


スペアタイヤの取り出し方

1 ジャッキハンドルを組み付ける

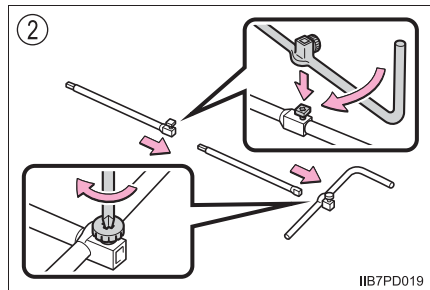
工具箱からジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バーを取り出し、図のように組み付けます。

- ① ボルト（1本）・ネジ部（1ヶ所）をジャッキハンドルおよびドライバーを使用してゆるめる



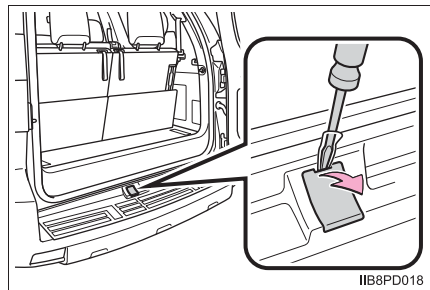
- ② ジャッキハンドル、ジャッキハンドル延長バーを組み付け、ボルト（1本）・ネジ部（1ヶ所）を締め付ける

ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。



- 2 マイナスドライバーを使用して、リヤバンパーのフタを取りはずす

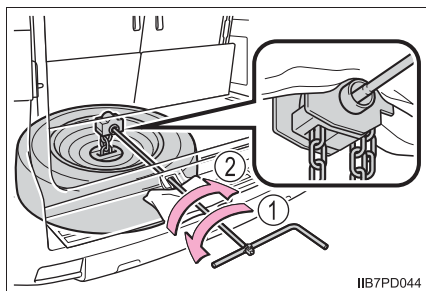
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



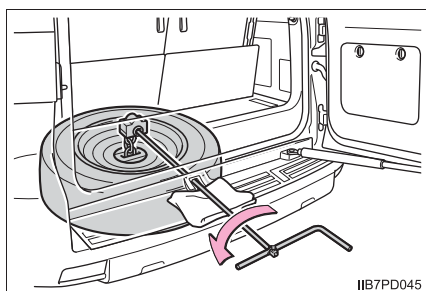
- 3 組み付けたジャッキハンドルを
図のように挿し込む

- ① 下がる
- ② 上がる

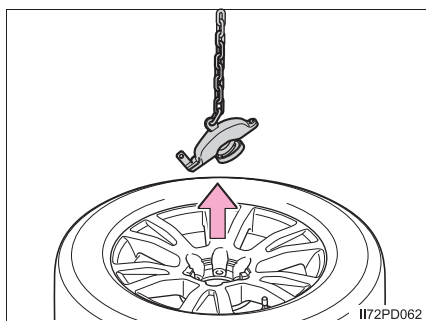
当て布をジャッキハンドルの下にして
リアバンパーを保護してください。



- 4 ジャッキハンドルをまわして、ス
ペアタイヤが完全に地面に着く
まで下げる



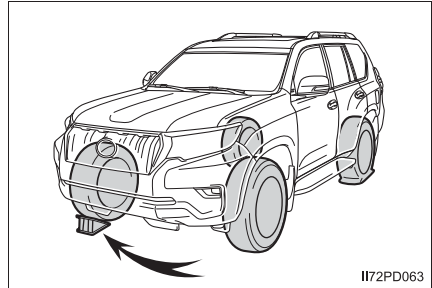
- 5 スペアタイヤを引き出し、アン
カープレートを取りはずす



パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。



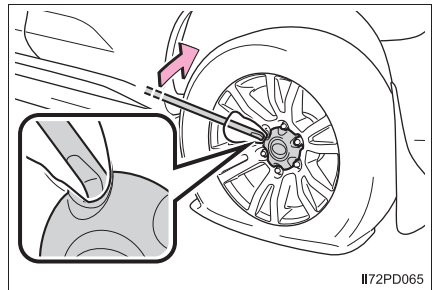
II72PD063

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 センターオーナメントをはずす

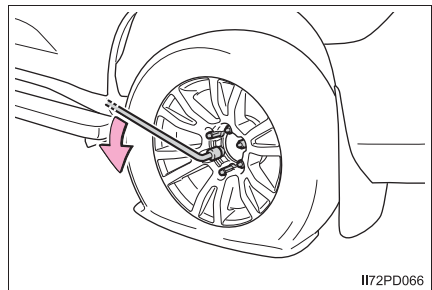
ホイールナットレンチの後端を図のように挿し込んで、センターオーナメントをはずします。

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。



II72PD065

3 ナットを少し(約1回転)ゆるめる

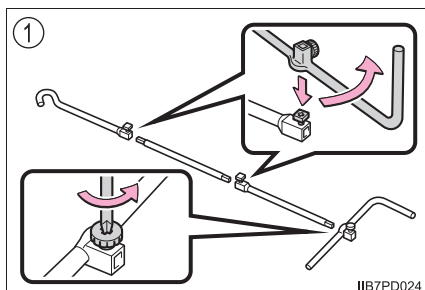


II72PD066

4 ジャッキハンドルを組み付ける

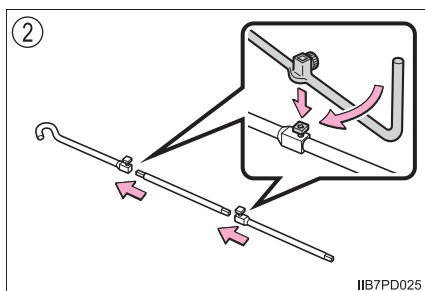
工具箱からジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バー・ジャッキハンドルバーを取り出し（→P. 394）、図のように組み付けます。

- ① ボルト（2本）・ネジ部（1ヶ所）をジャッキハンドルおよびドライバーを使用してゆるめる

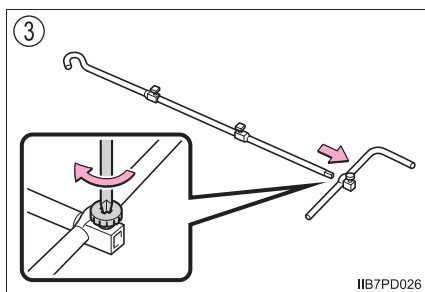


- ② ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルバーを組み付け、ボルト（2本）を締め付ける

ボルトがしっかりと固定されていることを確認します。



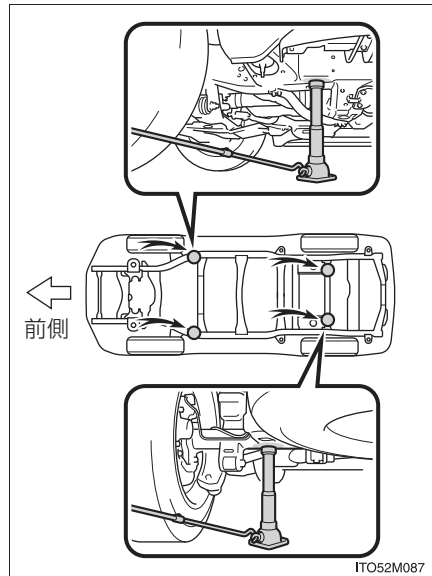
- ③ ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルを組み付け、ネジ部（1ヶ所）を締め付ける
ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。



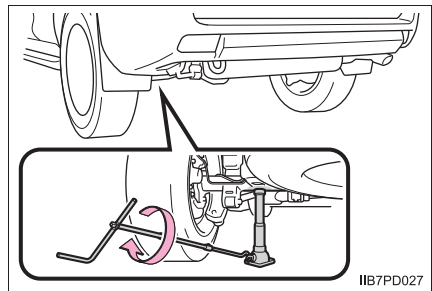
- 5 組み付けたジャッキハンドルをジャッキ穴部に挿し込みジャッキセット位置にジャッキをかける

ジャッキセット位置：

フロント	シャシーフレーム サイドレール下
リヤ	リアアクスル ハウジング下

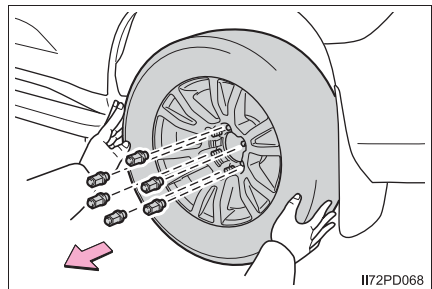


- 6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にしてます。



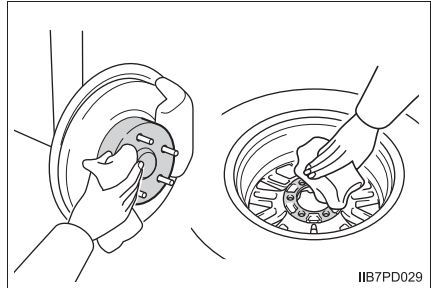
 **警告****■ タイヤ交換について**

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
 - ・ スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
 - ・ センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
(→ P. 335)

タイヤの取り付け

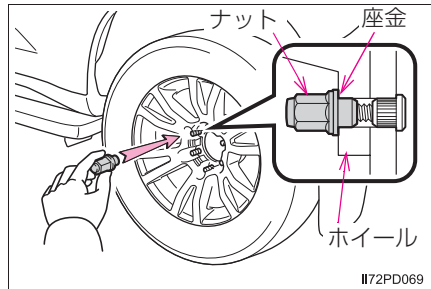
- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

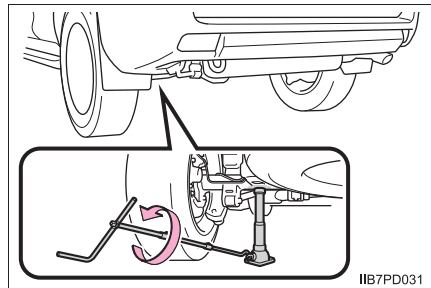


- 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールに軽くあたるまでまわします。



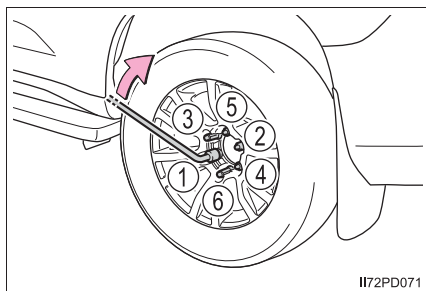
- 3 車体を下げる



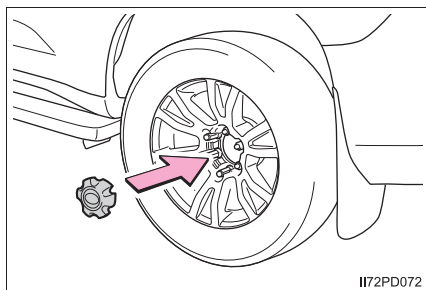
- 4 図の番号順でナットを 2、3 度
しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103N・m (1050kgf・cm)



- 5 センターオーナメントを取り付
ける



- 6パンクしたタイヤを格納し、工具・ジャッキをもとどおりに収納する
(→ P. 405)

警告

■パンクしたタイヤを収納するときは

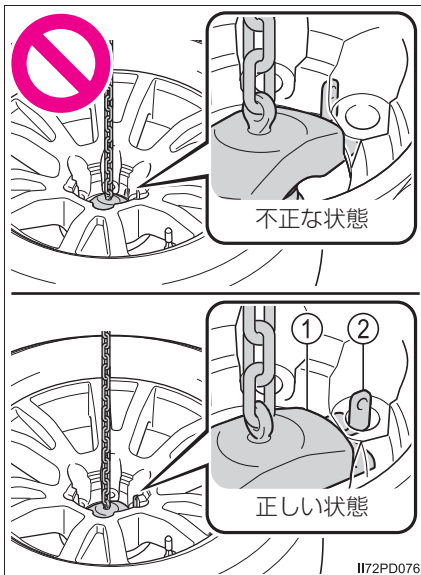
次の手順をお守りいただかないと、スペアタイヤキャリアの損傷やタイヤの落下により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具の収納

- 1 タイヤの外側が上になるように地面に置き、ツメをホイールの穴にかけてアンカープレートを取り付け、ジャッキハンドルをまわして鎖のたるみをなくす

ツメがホイールの穴に確実にかかっていること、アンカープレートがホイールの中心にあることを確認してください。

- ① アンカープレート
- ② ツメ



- 2 ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げる

▶ KDSS※ 非装着車

タイヤはまっすぐ上げてください。走行中、急ブレーキや衝突の際にタイヤが前方に飛び出すのを防ぐため、周囲の部品を巻き込まないようにしてください。

▶ KDSS※ 装着車

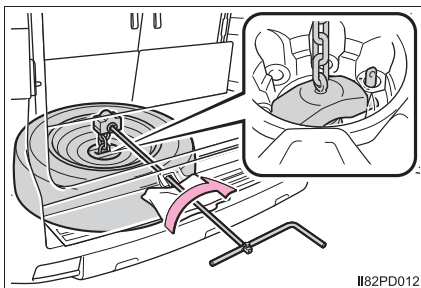
タイヤを車両後方に引きながら上げてください。走行中、急ブレーキや衝突の際にタイヤが前方に飛び出すのを防ぐため、周囲の部品を巻き込まないようにしてください。

タイヤを半分まで上げたら、鎖がタイヤの穴に正しく収まっていることを確認してください。

締め付けトルク：

46.6N・m (475.2kgf・cm)

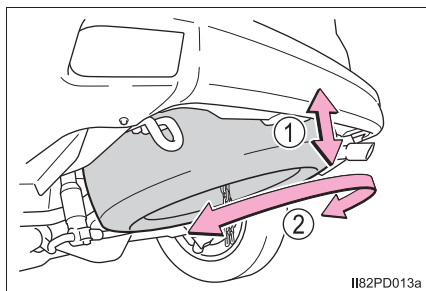
※ KDSS については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。



- 3 タイヤを巻き上げたら、タイヤが確実に固定されていることを確認する

- ① タイヤを上下にゆする
- ② 回転させる

タイヤが周囲の部品に干渉していないことを直接目で確認してください。



ゆるんだり、正しく収納できなかつたりした場合は、手順2と手順3を繰り返してください。

- 4 タイヤが下がったときや不安定なときは、手順3を繰り返す
- 5 工具・ジャッキを収納する (→ P. 396)

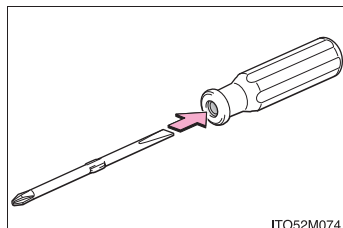
知識

■ スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。(→ P. 429)

■ ドライバーの使い方

軸部分を引き抜いて挿し込み方向をかえることにより、プラス・マイナス両方のドライバーとして使用できます。



 **警告****■ 工具・ジャッキを使用したあとは**

走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■パンクしたタイヤを格納するときは**

- タイヤと車両とのあいだにもものが挟まっていないことを確認してください。
- スペアタイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

■ タイヤを交換するときは（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤ・ホイール・タイヤ空気圧警告システムのバルブや送信機を取りはずしたり、付けかえるときは、トヨタ販売店へご連絡ください。タイヤ空気圧警告システムのバルブと送信機の扱いを誤ると、バルブと送信機が損傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 175）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 175）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 61）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 412）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 409）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 412）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んで、エンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

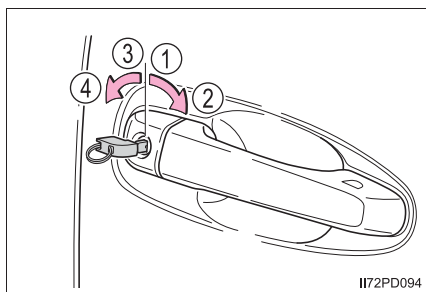
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 118）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠とキー連動操作

メカニカルキー（→P. 92）を使って次の操作ができます。

- ① 全ドア施錠
- ② ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※
- ③ 全ドア解錠
- ④ ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→P. 431）

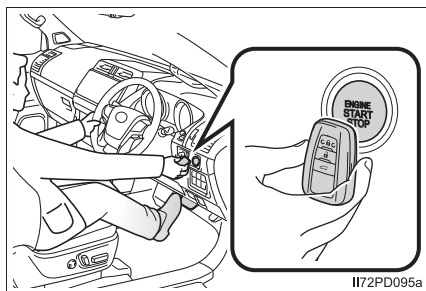



エンジン始動の方法

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリモードへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ エンジンの停止のしかた**

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 351)

■ オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠したときの作動は、車両の設定により異なります。(カスタマイズ一覧：→P. 431)

■ エンジンスイッチのモード切りかえ

ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 176)

■ 電子キーが正常に働かない場合

- 電子キーが正常に働かないときは、スマートエントリー&スタートシステムがキャンセルされていないことも確認してください。(カスタマイズ一覧：→P. 431)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→P. 117)

 警告**■ メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき**

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

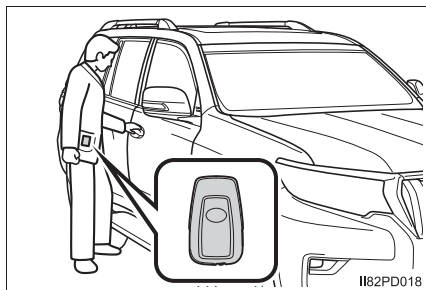
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 電子キーを携帯していることを確認する

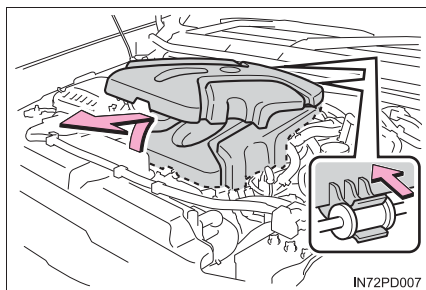
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P. 64)



- 2 ボンネットを開ける (→ P. 339)

- 3 エンジン上部のカバーをはずす (ディーゼル車のみ)

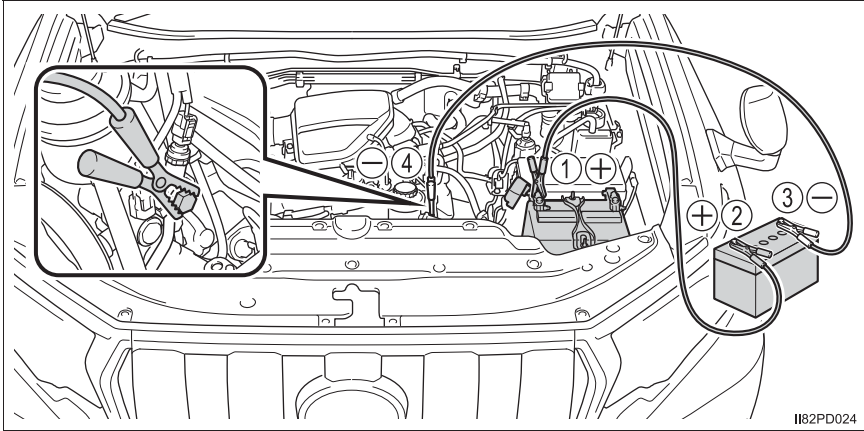
先端を持ち上げてカバーを固定ピンからはずし、カバー本体を手前に引いて取りはずします。



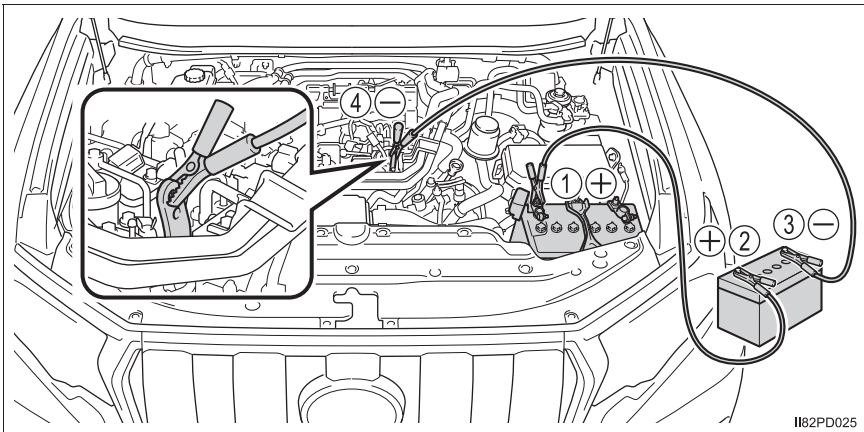
- 4 バッテリーの + 端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの + 端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの + 端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの - 端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部 (次ページの図に示すような固定された部分) につなぐ

▶ ガソリン車



▶ ディーゼル車



- 5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 6 エンジンスイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する

- 7 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける
- 8 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリー + 端子のカバーをもとにもどしてください。
- 9 エンジン上側のカバーをもとどおりに取り付ける（ディーゼル車）
取りはずしたときと逆の手順で、エンジン上部のカバーを取り付けます。取り付け後は、固定ピンが確実にはめ込まれていることを確認してください。
エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやオーディオ（装着車のみ）の電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■ バッテリーあがり時や取りはずし時は

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったたりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

 **注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ エンジン上部のカバーの損傷を防ぐために（ディーゼル車）

次のことを必ずお守りください。

- カバーを取りはずすときは、必ず先端を持ち上げてカバーを固定ピンからはずし、カバー本体を手前に引いてください。
- カバーを取り付けるときは、取り付け部上面を強い力で押さえたり、たたいたりしないでください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

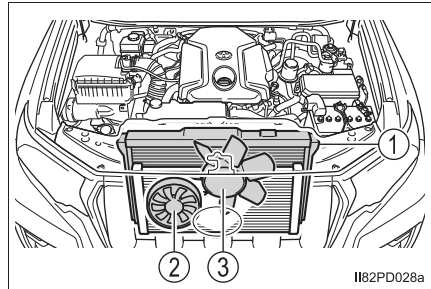
- メーター内の水温計の針（→ P. 72）がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

- ① ラジエーター
- ② 冷却ファン★
- ③ ラジエーター冷却ファン

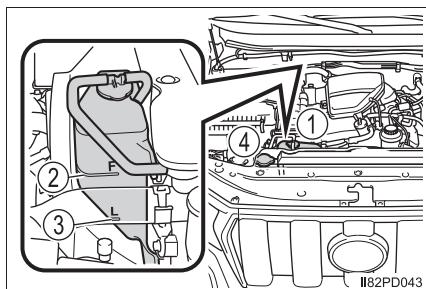
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 4 冷却水の量がリザーバータンクの “F” / “FULL”（上限）と “L” / “LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

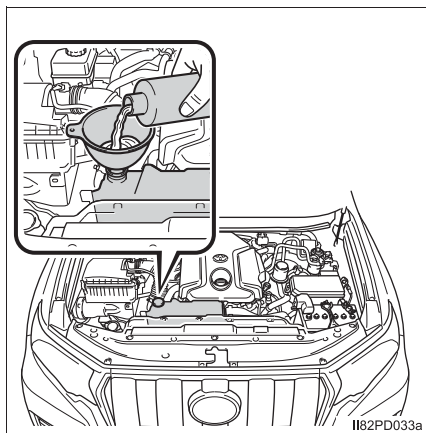
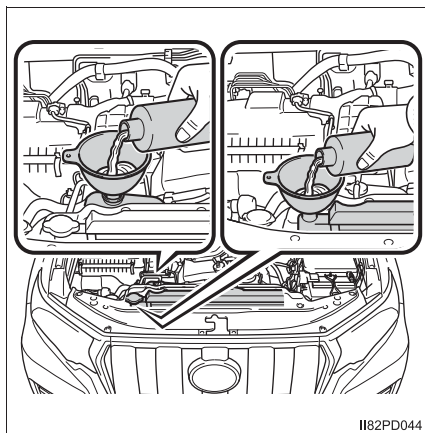
- ① リザーバータンク
- ② “F” / “FULL”（上限）
- ③ “L” / “LOW”（下限）
- ④ ラジエーターキャップ★



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ ガソリン車

▶ ディーゼル車



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→ P. 339）、エンジンルームカバー（→ P. 341）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップ★および冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、エンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む


スタックからの脱出方法について

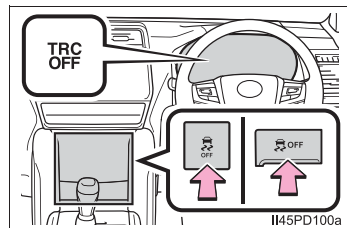
別冊「オフロード走行取扱書」では、センターデフロックやリヤデフロック（装着車のみ）など、4WD 車の特殊機能を使用したスタック脱出の方法を説明しています。状況によっては、それらの機能を使用すると脱出が容易になる場合がありますので、併せて参照してください。

知識

■ 脱出しにくいとき

TRC / アクティブ TRC・VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC / アクティブ TRC または VSC を停止してください。（→ P. 266）

 を押して TRC を OFF にしてください。



 **警告****■ 脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。
- スタックから脱出する際にオートマチックトランスミッションの油温に関する警告メッセージが表示されたときは、ただちにアクセルペダルから足を離して警告メッセージが表示されなくなるまで待ってください。トランスミッションが故障するおそれがあります。(→ P. 387)

車両情報**8**

- 8-1. 仕様一覧
 - メンテナンスデータ
(指定燃料・オイル量
など)424
- 8-2. カスタマイズ機能
 - ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....431
- 8-3. 初期設定
 - 初期設定が必要な項目 441

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

▶ ガソリン車

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	87

▶ ディーゼル車

指定燃料	容量 [L]（参考値）
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	87

エンジンオイル

▶ ガソリン車

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ^{※1} ）	
	オイルのみ交換	オイルと オイルフィルター 交換
トヨタ純正キャッスルモーターオイルSN 0W-20 ^{※2} —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正キャッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	5.5	5.9

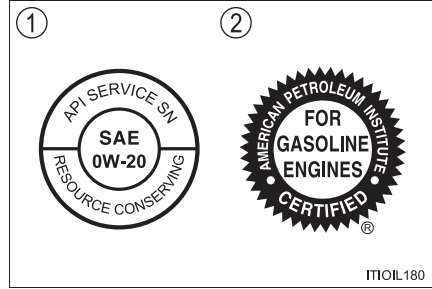
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

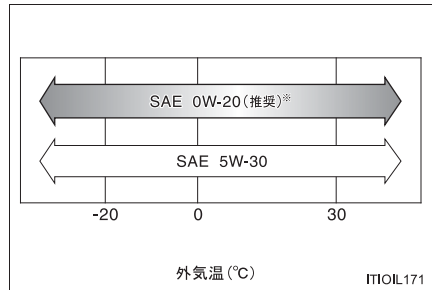
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について (例として 0W-20 で説明します) :

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い (数値が大きい) オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

▶ ディーゼル車

指定銘柄	容量 [L] (参考値 [※])	
	オイルのみ 交換	オイルと オイルフィルター 交換
トヨタ純正キャッスルディーゼルオイル DL-10W-30 —JASO DL-1, SAE 0W-30 トヨタ純正キャッスルディーゼルオイル DL-1 5W-30 —JASO DL-1, SAE 5W-30	7.2	7.7

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

JASO 規格 DL-1 に合致したオイルをご使用ください。

なお、JASO 規格合格油の缶には JASO DL-1 マークが付いています。

JASO DL-1 マーク



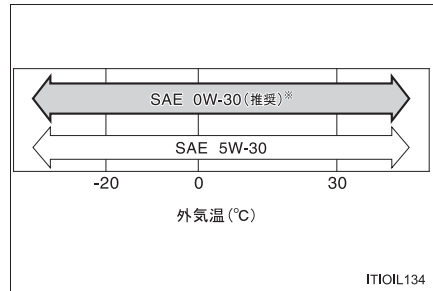
 **注意**

■ ディーゼル車のエンジンオイルの交換について

- エンジンオイルは必ず指定の規格に相当する品質のものをご使用ください。異なる品質のオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の寿命短縮につながります。
- エンジンオイルは必ず約 20,000km ごと (ただし 12ヶ月をこえないこと)、オイルフィルターは必ず約 20,000km ごとに交換してください。定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、排出ガス浄化装置やターボ装置などの故障につながるおそれがあります。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-30 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-30 で説明します）：

- ・ 0W-30 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-30 の 30 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	2TR-FE	8.1
	1GD-FTV	10.0

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値 ※)
トヨタ純正オートフルード WS	2TR-FE	8.5
	1GD-FTV	9.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

■ フロント

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	1.4

■ リヤ※

指定銘柄 (推奨粘度)	項目	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤ オイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	ノーマル	2.7
	デフロック 付き	2.65
トヨタ純正ディファレンシャルギヤ オイル LX (API GL-5 SAE 75W-85)	トルク 感応式 LSD 付き	2.55

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

トランスファー

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正トランスファーギヤオイル LF (SAE 75W)	1.4

パワーステアリング

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正パワーステアリング フルード	2TR-FE	0.7
	1GD-FTV	0.8

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]	
遊び	1 ~ 6	
踏み込んだときの床板とのすき間 ※1	2TR-FE エンジン	106
	1GD-FTV エンジン	104

※1 エンジン回転時に 490N (50kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
引きしろ 操作力 200N (20kgf) のときのノッチ数 ※2	5 ~ 7

※2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)	4.75
--------------	------

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
265/65R17 112S	17×7 1/2J	220 (2.2)	220 (2.2)
265/55R19 109V	19×7 1/2J	220 (2.2) ※ 230 (2.3)	220 (2.2) ※ 230 (2.3)

※ リヤライトコントロールエアサスペンション装着車

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	リヤフォグランプ★	21
	番号灯	5
	サイドステップ照明★	5
車内	フロントパーソナルランプ	5
	ルームランプ★	8
	読書灯★	5
	バニティミラーランプ	8

※ 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
TRJ150W	2TR-FE（2.7L ガソリン）	4WD（4輪駆動）
GDJ150W	1GD-FTV （2.8 L ディーゼル）	
GDJ151W		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。





ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。設定変更は、マルチインフォメーションディスプレイのメーターカスタマイズ機能、またはメーカーオプションのナビゲーションシステムの画面操作（装着車のみ）、トヨタ販売店で行うことが可能です。（設定可能な機能は、それぞれの方法で一部異なります）

設定変更のしかた

操作するときは、安全な場所に停車してシフトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけた状態で行ってください。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチで、を選択する。
- 2 変更する項目を選択し、を押す。
- 3 設定したい項目を選択し、を押す。
設定を終了する場合は、スイッチを押します。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

- 1 「設定・編集」スイッチを押す
- 2 「設定・編集」画面の「車両」を選択する
- 3 設定を変更したいカテゴリーを選択する



- 4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 5 機能の作業内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整し、「完了」を選択します。

車両カスタマイズ設定一覧

変更する機能により、トヨタ販売店でのみ変更が可能か、メーターカスタマイズ機能などでも可能かどうか異なります。次の表を参考に、①～④の該当する方法で設定変更を行ってください。

- ① ナビゲーションシステム※ 装着車：ナビゲーションシステムによる設定
- ② ナビゲーションシステム※ 装着車：メーターカスタマイズ機能による設定
- ③ ナビゲーションシステム※ 非装着車：メーターカスタマイズ機能による設定
- ④ トヨタ販売店で設定可能
※ メーカーオプション

■ ドアロック (→ P. 96)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	—	—	—	○
車速感応オードドアロック	する	しない	○	—	—	○
シフトレバーをPにしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ロック)	しない	する	○	—	—	○
シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	する	しない	○	—	—	○
運転席を開けたときの全ドア解錠 (運転席ドア開連動アンロック)	しない	する	○	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 114)、ワイヤレスドアロック (→ P. 92) 共通

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
作動の合図 (ブザー音量調整)	レベル 5	OFF				
		レベル 1~7	○	—	—	○
作動の合図 (非常点滅灯)	する	しない	○	—	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒				
		120 秒	—	—	—	○
半ドア警告ブザー	する	しない	—	—	—	○
ワイヤレスリモコンスイッチでのバックドアガラスのロック解除操作	1 回押し 続ける (短)	1 回押し				
		2 回押し				
		1 回押し 続ける (長)	—	—	—	○
		非作動				

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 114)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
スマートエントリー&スタートシステム	する	しない	○	—	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 92)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ワイヤレス機能	する	しない	—	—	—	○
解錠時の操作	1 回で 全ドア解錠	1 回で運転席 ドア解錠、連続 2 回で全 ドア解錠	○	—	—	○

■ メモリーコール機能★ (→ P. 136)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 193)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ライトセンサーの感度調整	標準	レベル -2 ~ +2	○	—	—	○
LED デイライトの作動	する	しない	—	—	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	—	○
おもてなし照明の点灯★	する	しない	—	—	—	○

■ イルミネーション (→ P. 290)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
点灯制御	する	しない	—	—	—	○
消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	—	○
		7.5 秒				
		30 秒				
接近時の作動	する	しない	—	—	—	○
解錠時の作動	する	しない	—	—	—	○
エンジンスイッチOFF後の作動	する	しない	—	—	—	○
センターコンソールイルミネーションの作動★	する	しない	—	—	—	○
足元照明の作動★	する	しない	—	—	—	○
ラウンジ照明調光制御★	する	しない	—	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーウィンドウ (→ P. 152)、ムーンルーフ★※ (→ P. 156)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ドアキー連動開閉機能 (閉)	しない	する	—	—	—	○
ドアキー連動開閉機能 (開)	しない	する	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能 (閉)	しない	する	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能 (開)	しない	する	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図 (ブザー)	する	しない	—	—	—	○

※ パワーウィンドウの設定を変更すると、ムーンルーフ★の設定も連動して変更されます。

■ メーター照明 (→ P. 74)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサー感度調節	レベル0	レベル -2 ~ +2	○	—	—	○
周囲の明るさにより、減光したメーターの照度をもとにもどすためのセンサー感度調節	レベル0	レベル -2 ~ +2	○	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートエアコン (→ P. 282)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	—	○
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	—	○

■ オートアラーム (→ P. 62)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	しない	する	—	—	—	○

■ クリアランスソナー★ (→ P. 254)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
フロントセンサーの検知可能距離	約 100cm	約 60cm	○	—	—	○
バックセンサーの検知可能距離	約 150cm	約 65cm	○	—	—	○
ブザー音量	レベル 5	レベル 1～5	○	—	—	○
ソナー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	○	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 75)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
言語	日本語	英語	○	○	○	○
エコドライブインジケータランプの作動	する	しない	—	○	○	○
 スイッチ設定	始動後	お好みの項目*	—	○	○	○
割込表示	あり	なし	—	○	○	○
アクセントカラー	クリアブルー	クリアターコイズ				
		ディープオレンジ	○	○	○	○
		ラディアントオレンジ				
車両表示	背面タイヤ表示なし	背面タイヤ表示あり	—	○	○	○

* 登録できない項目もあります

■ ドアミラー (→ P. 147)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF				
		エンジンスイッチと連動	—	—	—	○
リバース連動作動	あり	なし	—	—	—	○

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。




■ LDA (レーンディパーチャーアラート) (→ P. 231)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
警報ブザーが吹鳴する感度 (警報感度)	普通	高	—	○	○	○
ふらつき検知機能	あり	なし	—	○	○	○
ふらつき検知機能の感度調節	普通	低	—	○	○	○
		高				

■ BSM (ブラインドスポットモニター) ★ (→ P. 270)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
車線変更時の判断を支援する機能	あり	なし	—	○	○	—

■ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) (→ P. 221)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
PCS 機能の On/Off	On	Off	—	○	○	—
衝突警報感度	 (中間)	 (遠い)	—	○	○	—
		 (近い)				

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。


 知識

■ 車両カスタマイズについて

- 「スマートエントリー&スタートシステム」が「しない」の場合、「解錠ドアの選択」はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（ブザー）」・「作動の合図（非常点滅灯）」の設定に依存します。

■ メーターカスタマイズ機能の設定画面が終了するとき

次の場合は、メーターカスタマイズ機能の設定画面が終了、または他の画面に切りかわります。

-  (→ P. 75) を押したとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- 車が走りはじめたとき（車速約 8km/h 以上）
- 警告メッセージが表示されたとき

 警告

■ 設定変更の操作を行うときは

換気のよい場所に停車して行ってください。エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

設定変更の操作は、エンジンをかけた状態で行ってください。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく動作させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
バックガイド モニター★	バッテリーの充電・交換後の 再接続時	別冊「ナビゲーション システム取扱書」
タイヤ空気圧警報シ ステム	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったあと ・ タイヤローテーションを実施したあと 	P. 327
マルチトレイン モニター★	バッテリーの充電・交換後の 再接続時	別冊「オフロード走行 取扱書」

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは (症状別さくいん).....	444
車から音が鳴ったときは (音さくいん).....	448
アルファベット順さくいん.....	450
五十音順さくいん.....	452

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客様は、次の装備については「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- ・GPS ボイスナビゲーション
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・音声操作システム
- ・バックガイドモニター
- ・ETCシステム
- ・ハンズフリー
- ・T-Connect

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 93）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 95）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 351）
- エンジンスイッチが ON モードになっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。
（→ P. 176）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 118）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
（→ P. 99）

故障かな？と思ったら



エンジンが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 175）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 175）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 115）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 178）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 410）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 412）



ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチは ON モードになっていますか？
エンジンスイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 185）



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 178）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 152）



エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッションONモード(エンジンがかかっていない状態) にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。(→ P. 177)



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」(→ P. 448) をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 380、387 をご確認ください。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- 車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 392）

**立ち往生した**

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 421）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 62
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P. 390
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 62
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 351
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 116
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 116

※ スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドア・バックドアガラスを解錠する、またはエンジンスイッチを ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 383
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 383
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 382
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 184
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 168
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P. 247
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が作動した	P. 221
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）の車線逸脱警報機能・ふらつき警報機能が作動した	P. 231

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 282

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 264, 381

AI-SHIFT

(アーティフィカルインテリジェンスシフト) 185

AVS

(アダプティブバリアブルサスペンションシステム)

BSM

(ブラインドスポットモニター) 270

CRAWL

(クロールコントロール) ※

DAC

(ダウンヒルアシストコントロールシステム) ※

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

ESPO

(エコパスポート) 88

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 425

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィックス) 42, 51

KDSS

(キネティックダイナミックサスペンションシステム) ※

LDA

(レーンディパーチャーアラート) 231

PCS

(ブリクラッシュセーフティシステム) 221

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 32, 380

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 264

TRC

(トラクションコントロール) 264

※：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリーあがりの処置).....	412
アームレスト (リヤアームレスト)	317
アウトミラー (ドアミラー) 操作	147
ドライビングポジション メモリー	136
ブラインドスポットモニター (BSM)	270
リバース連動機能	148
アクセサリースocket	314
アクセサリモード	176
足元照明	290
AdBlue®	343
AdBlue® 残量警告灯	382
補充	345
容量	345
アンチロックブレーキシステム (ABS)	264
アンテナ (スマートエントリー& スタートシステム)	114

い

イグニッションスイッチ (エンジンスイッチ)	175
位置交換 (タイヤローテーション)	327
イベントデータレコーダー (EDR)	8
イモビライザーシステム	61
イルミネーテッドエントリー システム	294

インジケーター

表示灯	69
インテリアランプ	292
インナーミラー	145

う

ウインカー (方向指示灯)

電球 (バルブ) の交換	357
方向指示レバー	187
ワット数	430

ウインドウ

ウォッシュャー	203
パワーウインドウ	152
リヤウインドウ デフォッガー	283

ウインドウロックスイッチ

ウォーニングランプ

(警告灯)	380
-------------	-----

ウォッシュャー

液の補給	349
スイッチ	203
タンク容量	429
冬の前の準備・点検	276

動けなくなったときは

(スタック)	421
--------------	-----

雨滴感知式ワイパー

運転

運転を補助する装置	264
寒冷時の運転	276
正しい運転姿勢	26
手順	162

運転席シートポジション

メモリー	136
------------	-----

え

エアコン・デフォグガー	282
エアバッグ	
SRS エアバッグ警告灯	380
作動条件	37
配置	32
エコドライブ	
インジケーター	71, 84
LED デイライト	194
LED ヘッドランプ	
オートレベリングシステム	194
電球（バルブ）の交換	365
ランプスイッチ	193
エンジン	
エンジンイモビライザー	
システム	61
エンジン回転計	
（タコメーター）	72
エンジンがかからない	
（エンジンが始動	
できない）	408
エンジン警告灯	380
エンジンスイッチ	175
エンジンの始動方法	175
エンジンルームカバー	341
オーバーヒート	417
ボンネット	339
エンジンオイル	
警告メッセージ	389
冬の前の準備・点検	276
メンテナンスデータ	424
エンジンスイッチ	175
エンジンフード（ボンネット）	
開け方	339

エンジンルーム

エンジンルームカバー	341
エンジンルームから蒸気が	
出ている	417

お

オーディオ ※ ¹	
オートアウェイ&	
リターン機構	143
オートアラーム	62
オートドアロック・	
アンロック機能	99
オートレベリングシステム	
（ヘッドランプ）	194
オーバーヒート	417
オープナー	
ボンネット	339
オイル（エンジンオイル）	424
お子さまを乗せるとき	
ウインドウロックスイッチ	152
お子さまの安全のために	41
子供専用シート	42
シートベルトの着用	29
チャイルドシートの	
取り付け	51
チャイルドプロテクター	99
オドメーター	
機能	72
表示の切りかえ・	
リセットボタン	73

※¹：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※²：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

か

カーテンシールドエアバッグ	32
カードキー	92
カーペット	
洗浄	324
フロアマットの取り付け方	24
外気温表示	85
外装の電球 (バルブ)	
交換要領	357
ワット数	430
カスタマイズ機能	431
型式	430
カップホルダー	299
ガラスの曇り取り (リヤウインドウ デフォッガー)	283
冠水路走行	172
寒冷時の運転	276

き

キー	
キーナンバープレート	92
キーの構成	92
キーレスエントリー	114
キーをなくした	93, 95
正常に働かない	410
施錠・解錠ができない	410
エンジンが始動できない	410
電子キー	92
電池が切れた	351, 410
メカニカルキー	93
ワイヤレスリモコン	92

キーレスエントリー

スマートエントリー& スタートシステム	114
ワイヤレスドアロック	96

キネティックダイナミック

サスペンションシステム (KDSS) ※2	
--------------------------	--

給油

給油のしかた	211
給油後平均燃費	79
メンテナンスデータ	424
緊急時シートベルト固定機構	29

緊急時の対処

エンジンが始動できない	408
オーバーヒートした	417
キーの電池が切れた	351, 410
警告灯がついた	380
警告メッセージが 表示された	387
けん引	373
故障したときは	368
車両を緊急停止する	372
スタックした	421
電子キーが正常に働かない	410
発炎筒	370
バッテリーがあがった	412
パンクした	392

く

空気圧 (タイヤ)	
タイヤ空気圧警告灯	382
タイヤ空気圧警報	
システム	328
メンテナンスデータ	429
区間距離計	
(トリップメーター)	
機能	72
切りかえ・リセットボタン	73
曇り取り	
ミラーヒーター	283
リヤウインドウ	
デフォッガー	283
クラクション (ホーン)	143
クリアランスソナー	
警告メッセージ	260
操作	254
クリアランスランプ (車幅灯)	
スイッチ	193
電球 (バルブ) の交換	365
クリップ	
エンジンルームカバー	341
フロアマット	24
クルーズコントロール	
警告メッセージ	250
レーダークルーズ	
コントロール	240
グローブボックス	296
グローブボックスランプ	296
クロールコントロール ※ ²	

け

警告音 (ホーン)	143
計器類 (メーター)	
照度調整	73
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	75
メーター	72
警告灯	
ABS & ブレーキ	
アシスト	381
AdBlue® 残量	382
L4 作動表示灯	384
SRS エアバッグ	380
エンジン	380
KDSS	381
シートベルト非着用	382
充電	380
スリップ	381
センターデフロック	
作動表示灯	384
電子制御ブレーキ	380
燃料残量	382
パーキングブレーキ	383
パワーステアリング	381
半ドア	382
PCS	382
プリテンショナー	380
ブレーキ	380
ブレーキ	
オーバーライドシステム/ ドライブスタート	
コントロール	383
ヘッドランプ	
オートレベリング	381
マスターウォーニング	382
リヤデフロック作動表示灯	384

※¹ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※² : 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

警告ブザー	
シートベルト非着用	383
シフトダウン制限	184
接近警報（レーダークルーズ コントロール）	247
パーキングブレーキ	
未解除走行時	383
半ドア	97
半ドア走行時	383
ブレーキ	380
ムーンルーフ開	157
リバース	184
警告メッセージ	387
傾斜計 ※2	
化粧ミラー	
（バニティミラー）	311
けん引	
けん引のしかた	373
フック	373

こ

交換	
キーの電池	351
電球（バルブ）	357
ヒューズ	354
工具（ツール）	393
航続可能距離	78
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換	361
ワット数	430
コートフック	317

子供専用シート	
選択方法	42
取り付け方	51
小物入れ	302
コンソールボックス	297
コンライト	
（自動点灯・消灯装置）	193

さ

サイドエアバッグ	32
サイドステップ照明	
電球（バルブ）の交換	365
ワット数	430
サイド方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	365
方向指示レバー	187
ワット数	430
サイドミラー（ドアミラー）	
操作	147
ドライビングポジション	
メモリー	136
ブラインドスポットモニター	
（BSM）	270
リバース運動機能	148
サンシェード	
ムーンルーフ	157
サンバイザー	311

し

シート	
子供専用シート	42
サードシート	124
セカンドシート	124
正しい運転姿勢	26
手入れ	324
ドライビングポジション	
メモリー	136
フロントシート	122
ヘッドレスト	139
シートアレンジ	
サードシートの格納	128, 130
セカンドシートの格納	126
シートヒーター & ベンチレーター	288
シートベルト	
お子さまの着用	29
緊急時シートベルト	
固定機構	29
シートベルト非着用警告灯	382
高さ調整	28
正しく着用するには	28
着け方・はずし方	28
手入れ	324
妊娠中の方の着用	30
シートベルト非着用警告灯	382
シートベルトプリテンショナー	
機能	29
プリテンショナー警告灯	380
シートポジションメモリー	136
室内灯（インテリアランプ）	290
始動のしかた	175
シフト照明	290
シフトポジション	181

シフトレバー

シフトレンジの切りかえ	181
シフトロックシステム （解除ボタン）	184
操作	181
リバース警告ブザー	184
シフトレバーがシフト できないときは	185
締め付けトルク（ホイール）	404
車高切りかえスイッチ ^{※2}	
ジャッキ	
車載ジャッキ	393
ジャッキハンドル	394
車幅灯	
電球（バルブ）の交換	365
ランプスイッチ	193
車両型式	430
車両仕様（スペック）	424
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	372
ジュニアシート	43
瞬間燃費	78
仕様（車両仕様）	424

す

水温計	72
スイッチ	
イグニッション	175
ウインドウロック	152
ウォッシャー	203
LDA	234
エンジンスイッチ	175
オーディオ ^{※1}	
クリアランスソナー	254
クルーズコントロール	240

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

サードパワーシート	130	レーダークルーズ	
シート調整	122	コントロール	240
シートヒーター &		ワイパー	203, 208
ベンチレーター	288	スタック	421
シートポジションメモリー	136	ステアリングホイール (ハンドル)	
車間距離切りかえ (レーダー		位置調整	142
クルーズコントロール)	240	オートアウェイ &	
タイヤ空気圧警報		オートリターン機構	143
リセット	328	ドライビングポジション	
電話 ※1		メモリー	136
トーク ※1		ステアリングロック	
ドアミラー	147	解除できないとき	178
ドアロック	98	警告メッセージ	178
ドライビングポジション		ストップランプ (制動灯)	
メモリー	136	緊急ブレーキシグナル	265
ドライブモードセレクト	252	電球 (バルブ) の交換	365
トランスファー ※2		スノータイヤ (冬用タイヤ)	276
パーキングブレーキ	188	スピードメーター	72
バックドア	109	スペアタイヤ (応急用タイヤ)	
バックドアガラス	109	空気圧	429
パワーウインドウ	152	スペック (車両仕様)	424
ハンドル位置調整	142	スマートエントリー &	
非常点滅灯		スタートシステム	
(ハザードランプ)	369	アンテナの位置	114
ヒーターアイドルアップ	284	エンジンの始動	175
VSC OFF	266	カスタマイズ設定	431
ブラインドスポットモニター		警告ブザー	116
(BSM)	270	警告メッセージ	116
フォグランプ	201	作動範囲	115
ヘッドランプクリーナー	210	正常に働かないとき	410
方向指示レバー	187	節電機能	117
ホーン (警音器)	143	電波がおよぼす影響	
ムーンルーフ	156	について	121
ラウンジ照明調光	293	ドアの解錠・施錠	96
ランプ	193	スモールランプ (車幅灯)	
リヤウインドウ		電球 (バルブ) の交換	365
デフォッガー	283	ランプスイッチ	193

せ

清掃	
アルミホイール	321
外装	320
シートベルト	325
内装	324
レーダーセンサー	218, 275
制動灯	
電球 (バルブ) の交換	365
積算距離計 (オドメーター)	
機能	72
セキュリティ	
インジケーター	61, 62
表示の切りかえ	
リセットボタン	73
接近警報 (レーダークルーズ	
コントロール)	247
センサー	
インナーミラー	146
雨滴感知センサー	206
LDA	231
BSM	275
ランプセンサー	194
レーダーセンサー	217
洗車	320
前照灯 (ヘッドランプ)	
電球 (バルブ) の交換	365
ランプ消し忘れ防止機能	194
ランプスイッチ	193
ランプセンサー	194

そ

走行モード	
(セカンドスタートモード)	182
(ドライブモード)	252
送信機 (タイヤ空気圧警報	
システム)	328
速度計 (スピードメーター)	72

た

ターンシグナルランプ (方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換	357
方向指示レバー	187
ワット数	430
タイヤ	
空気圧	337, 429
締め付けトルク	404
点検	327
パンクしたときは	392
ホイールサイズ	429
ローテーション	
(位置交換)	327
タイヤが空まわりする	
(スタックした)	421
タイヤ空気圧警報システム	328
ID コードの登録・選択	330
機能について	328
空気圧バルブ/ 送信機について	328
空気圧表示画面	328
初期化	329
タイヤ空気圧警告灯	382
タイヤチェーン	276

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

ち

チェーン (タイヤチェーン)	276
チャイルドシート	
ISOFIX バーでの取り付け	54
シートベルトでの固定	52
選択方法	42
チャイルドプロテクター	99
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	
操作	188
パーキングブレーキ警告灯	380
未解除走行時警告ブザー	383
メンテナンスデータ	429

つ

通算平均燃費	78
ツール (工具)	393

て

ディファレンシャル	428
手入れ	
アルミホイール	321
外装	320
シートベルト	325
内装	324
レーダーセンサー	218, 275
デッキフック	305
テールランプ (尾灯)	
電球 (バルブ) の交換	365
ランプスイッチ	193
デフロック表示 ※ ²	
デフォグガー (リヤウインドウ デフォグガー)	283
点検基準値 (メンテナンスデータ)	424
電子キー	
作動範囲	115
正常に働かないとき	410
節電機能	117
電池が切れた	410
電池交換	351
電池交換 (キー)	351
電話スイッチ ※ ¹	

と

ドア	
オートドアロック・	
アンロック機能	99
警告メッセージ	116
スマートエントリー&	
スタートシステム	104
チャイルドプロテクター	99
ドアガラス	152
ドアロックスイッチ	104
半ドア警告灯	382
半ドア走行時警告ブザー	383
ロックレバー	98
ワイヤレスリモコン	92
ドアハンドル照明	290
ドアミラー	
操作	147
ドライビングポジション	
メモリー	136
ブラインドスポットモニター	
(BSM)	270
リバース連動機能	148
盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	61
オートアラーム	62
トークスイッチ ^{※1}	
時計	313
トップテザーアンカー	51
ドライビングポジション	
メモリー	136
ドライブインフォメーション	
(マルチインフォメーション	
ディスプレイ)	78

ドライブスタート	
コントロール	164
ドライブモードセレクト	252
トラクションコントロール	
(TRC)	264
トランスミッション	
シフトダウン制限警告	
ブザー	184
操作	181
メンテナンスデータ	428
トリップメーター	
機能	72
切りかえ・リセットボタン	73

な

内装	
収納装備	295
手入れ	324
ナビゲーションシステム ^{※1}	

に

ニーエアバッグ	32
荷物	
積むときの注意	173
荷物固定用フック	305

ぬ

ぬかるみにはまった	
(スタック)	421

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

ね

ネットフック	305
燃費画面	87
燃料	
給油	211
種類	424
燃料残量警告灯	382
容量	424
燃料計	72

は

パーキングブレーキ	
操作	188
ブレーキ警告灯	380
未解除走行時警告ブザー	383
メンテナンスデータ	429
パーソナルランプ	291
排気ガス	60
ハイビーム（ヘッドライト）	
電球（バルブ）の交換	357
ランプスイッチ	193
ワット数	430
ハイマウントストップランプ	
電球（バルブ）の交換	365
ハザードランプ（非常点滅灯）	
緊急ブレーキシグナル	265
スイッチ	369
電球（バルブ）の交換	359
ワット数	430
挟み込み防止機能	
パワーウインドウ	153
ムーンルーフ	157
発炎筒	370

バックアップランプ（後退灯）

電球（バルブ）の交換	361
ワット数	430

バックドア

警告メッセージ	116
スマートエントリー& スタートシステム	104
ドアロックスイッチ	104
バックドアガラス	109
バックドアアステ	105
半ドア警告灯	382
半ドア走行時警告ブザー	383
ワイヤレスリモコン	109

バックドアガラス

開け方	109
警告メッセージ	116

バッテリーがあがった.....412

バニティ（化粧用）ミラー.....311

バニティミラーランプ

装備について	311
ワット数	430

バルブ（電球）

交換要領（外装のバルブ）	357
ワット数	430

パワーウインドウ

ウインドウロックスイッチ	152
閉めることができない ときは	153
操作	152
挟み込み防止機能	153

パワーステアリング

パワーステアリング警告灯	381
--------------------	-----

パンクした

パンクしたときは 392

番号灯

(ライセンスプレートランプ)

電球 (バルブ) の交換 364

ランプスイッチ 193

ハンドル

(ステアリングホイール)

位置調整 142

オートアウェイ&

オートリターン機構 143

ドライビングポジション

メモリー 136

ひ

ビークルスタビリティ

コントロール (VSC) 264

ヒーター

エアコン・デフォグガー 282

シートヒーター&

ベンチレーター 288

非常点滅灯 (ハザードランプ)

緊急ブレーキシグナル 265

スイッチ 369

電球 (バルブ) の交換 357

ワット数 430

尾灯 (テールランプ)

電球 (バルブ) の交換 365

ランプスイッチ 193

ヒューズ 354

ヒルスタートアシスト

コントロール ※²

日よけ (サンバイザー) 311

ふ

ブースターケーブルの

つなぎ方 412

フォグランプ

スイッチ 201

電球 (バルブ) の交換 357

ワット数 430

ブザー

LDA 231

シートベルト非着用警告 383

シフトダウン制限警告 184

接近警報 (レーダークルーズ

コントロール) 247

パーキングブレーキ未解除

走行時警告 383

半ドア警告 97

半ドア走行時警告 383

ムーンルーフ開警告 157

リバース警告 184

フック

けん引フック 373

コートフック 317

荷物固定用フック 305

フロアマット固定フック 24

ネットフック 305

ラゲージフック 305

フューエルメーター (燃料計) 72

フューエルリッド (給油口)

給油のしかた 211

冬の前の準備

(寒冷時の運転) 276

冬用タイヤ 276

ブラインドスポットモニター

(BSM) 270

※¹ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※² : 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

プリクラッシュセーフティ システム (PCS)	
機能	221
PCS 警告灯	382
フルタイム 4WD※ ²	
ブレーキ	
パーキングブレーキ	188
メンテナンスデータ	429
ブレーキアシスト	
ABS & ブレーキアシスト	
警告灯	381
機能	264
ブレーキ付近からキーキー音が 聞こえる	168
ブレーキフルード	429
フロアマット	24
フロントシート	
シートヒーター & ベンチレーター	288
シートポジションメモリー	136
正しい運転姿勢	26
調整	122
手入れ	324
ドライビングポジション	
メモリー	136
ヘッドレスト	139
フロントパーソナルランプ	291
フロントフォグランプ	
スイッチ	201
電球 (バルブ) の交換	357
ワット数	430
フロント方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	357
方向指示レバー	187
ワット数	430
フロントワイパーデアイサー	284

へ

平均車速	78
平均燃費	78
ヘッドランプ	
クリーナー	210
電球 (バルブ) の交換	365
ランプ消し忘れ防止機能	194
ランプスイッチ	193
ランプセンサー	194
ヘッドランプオートレベリング システム	194
ヘッドレスト	139
ベビーシート	43

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ)	392
メンテナンスデータ	429
ホーン (警音器)	143
方位計	76
方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	357
方向指示レバー	187
ワット数	430
保証	9
補助確認装置	150
ボンネット	
開け方	339

ま

マスターウォーニング	382
マルチインフォメーション ディスプレイ	
警告メッセージ	387
車両情報	80
設定	81
ドライブ インフォメーション	78
マルチテレイン ABS ^{※2}	
マルチテレインセレクト ^{※2}	
マルチテレインモニター ^{※2}	

み

ミラー	
インナーミラー	145
後席確認ミラー	312
ドアミラー	147
バニティミラー	311
ブラインドスポットモニター (BSM)	270
補助確認装置	150

む

ムーンルーフ	
警告メッセージ	157
操作	156
挟み込み防止機能	157

め

メーター (計器類)	
警告灯	380
照度調整	73
表示灯	69
マルチインフォメーション ディスプレイ	75
メーター	72
メカニカルキー	93
メモリーコール機能	137
メンテナンスデータ	424

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	431
雪道ですべて動けない (スタックした)	421
油脂類	424

ら

ライセンスプレートライト (番号灯)	
電球 (バルブ) の交換	364
ランプスイッチ	193
ラゲージルーム	
小物入れ	302
三角表示板等収納スペース	306
デッキフック	305
トノカバー	307
ネットフック	305
ラゲージレール	308
ラゲージレール	308
ラジエーター	
オーバーヒート	417
メンテナンスデータ	427

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

ランプ

室内灯.....	290
電球（バルブ）の交換.....	357
読書灯.....	292
パーソナルランプ.....	291
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	369
フロントフォグランプ.....	201
ヘッドランプ（前照灯）.....	193
方向指示灯（ターンシグナル ランプ/ウインカー）.....	187
ランプ消し忘れ防止機能.....	194
ランプセンサー.....	194
リヤフォグランプ.....	201
ワット数.....	430
ランプ消し忘れ防止機能.....	194

り

リヤアームレスト.....	317
リヤウインドウデフォグガー スイッチ.....	283
リヤシート サードシート.....	124
セカンドシート.....	124
リヤデフロック※ ²	
リヤハイトコントロールエア サスペンション※ ²	
リヤフォグランプ スイッチ.....	201
電球（バルブ）の交換.....	363
ワット数.....	430
リヤ方向指示灯 電球（バルブ）の交換.....	361
方向指示レバー.....	187
ワット数.....	430
リヤワイパー.....	208

る

ルームミラー （インナーミラー）.....	145
ルームランプ（室内灯）.....	292

れ

レーダークルーズコントロール 警告メッセージ.....	250
接近警報.....	247
レーダーセンサー.....	217
レーンディパーチャーアラート （LDA）.....	231
操作.....	234
冷却水 水温計.....	72
冬の前の準備.....	276
メンテナンスデータ.....	427
冷却装置（ラジエーター） オーバーヒート.....	417
メンテナンスデータ.....	427
レバー シフト.....	181
方向指示.....	187
ボンネット解除.....	339
ロック（ドア）.....	98

ろ

ロック

ウインドウロック	152
シフトロック	184
スマートエントリー& スタートシステム.....	114
チャイルドプロテクター.....	99
ドア	96
ワイヤレスリモコン	92

わ

ワイパー & ウォッシャー

雨滴感知式ワイパー	205
間欠時間調整式ワイパー.....	203
ワイパーブレード (寒冷地用) ...	277
ワイパーデアイサー	284
ワイヤレスリモコン	
作動の合図	97
操作	92
電池の交換	351
ワックス	320
ワット数	430

*1 : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

*2 : 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

ガソリンスタンドでの情報

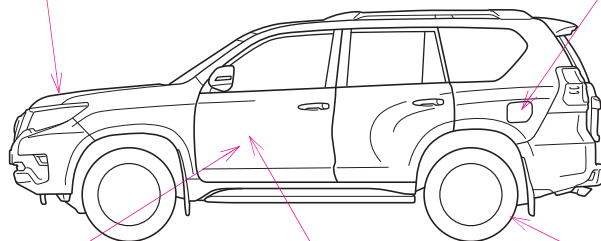
給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 339

給油口

P. 211



IIPPD065

ボンネット解除レバー

P. 339

給油口オープナー

P. 211

タイヤ空気圧

P. 429

燃料の容量 (参考値)	87L		
燃料の種類	▶ ガソリン車 無鉛レギュラーガソリン		P. 424
	▶ ディーゼル車 超低硫黄軽油 (S10ppm 以下)		P. 424
タイヤが冷えている ときの空気圧	標準タイヤ : (kg/cm ²)		
	タイヤサイズ	前輪	後輪
	265/65R17 112S	220 (2.2)	220 (2.2)
	265/55R19 109V	220 (2.2) ※	220 (2.2) ※
		230 (2.3)	230 (2.3)
	※ リヤライトコントロールエアサスペンション装着車		
エンジンオイル容量 (参考値)	エンジン	2TR-FE	1GD-FTV
	オイルのみ交換時	5.5L	7.2L
	オイルとフィルター交換時	5.9L	7.7L
エンジンオイルの種類	▶ ガソリン車 トヨタキヤッスルモーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN10W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30)		
	▶ ディーゼル車 トヨタキヤッスルディーゼルオイル ・ DL-1 0W-30 (JASO DL-1, SAE 0W-30) ・ DL-1 5W-30 (JASO DL-1, SAE 5W-30)		

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載して
おります。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M 60P67
01999-60P67
11-2018年3月15日
2017年9月12日初版
2018年3月22日2版
ランドクルーザープラド